

## 授 業 概 要

科目名	キャリアプランニング	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	有)両國あんこあられ本舗 岩佐 浩之		
サブ科目名		学年	1年	授業 形態	演習	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
学科・専攻	社会福祉科								
【授業を通じての到達目標】									
<p>様々な情報を取り、自分の頭で考え、整理し決断できるようになる。          コミュニケーションの柱である、常識・マナー・社会のルールを身に付け実践できるようになる。          自分自身を社会に出て、マーケティングできるようになる。</p>									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)									
<p>流通業界では様々な仕入れ販売の経営経験を持ち、一部上場企業メーカー勤務では、製造から営業経験をし、現在3社を経営するオーナーが教える、社会人としての考え方目標設定の仕方、達成の仕方・人脈の作り方を講義します。          ビジネスだけでなく、個人として必要な生きる力をわかりやすく講義します。また、カウンセラーとして精神的健康の維持・心が壊れない考え方・自分との付き合い方・1対1のコミュニケーション心理・縦の人間関係のコミュニケーションの考え方をわかりやすく講義します。</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
毎回授業の際、資料を配布					世の中の疑問点を探し質問する				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 授業の注意事項 【到達目標】 講師自己紹介(注意するコンフォートゾーンを知る) 前期の流れを解説し、前期終了後の自分の姿をイメージする。 各単元の内容の予告編から、内容をイメージし授業に備える。				9	【授業単元】 中間試験 【到達目標】 1回から8回までの復習と調整 中間テストによる理解度のチェックをします。			
	2	【授業単元】 人脈の作り方・整理の仕方 【到達目標】 現在の人脈を整理する 経営に必要な人脈は、どんな職業の人が整理する。 人脈を管理する方法を学び習得する。 時代の流れ				10	【授業単元】 アドラー心理学 精神的健康 【到達目標】 心の健康 ・統合失調症とうつ病 ・病気の原因と対処法 ・その他の病気 対処法と自分がならないコツを学び身に付ける。		
3		【授業単元】 コミュニケーション 【到達目標】 自分とのコミュニケーションの取り方を学び、使えるようになる。 1対1のコミュニケーションの取り方を学び、使えるようになる。 コミュニケーションの構造を知り、実践できるようになる。					11	【授業単元】 心理テスト 【到達目標】 自分の心のクセを知る	
	4	【授業単元】 収入の種類 【到達目標】 クワドラント(収入の種類)について学び習得する。 1、従業員 2、自営業 3、オーナー 4、投資家				12		【授業単元】 身体的健康 【到達目標】 病気のメカニズムを知り、ある程度予防できるようになる。	
5		【授業単元】 目的・目標とは何か 【到達目標】 目的、目標の設定の仕方を学び、使えるようになる。 トータルパースンについて学び、目的・目標とリンクして設定できるようになる。					13	【授業単元】 世の中 【到達目標】 世の中の動き、構造を理解して、自分の頭で考える癖を習得する。 (サイコロ思考:いろいろな切り口で考える) (浴びせられる情報を整理し自分の考えにまとめる。) (仮想通貨とブロックチェーンについて学ぶ)	
	6	【授業単元】 目標達成の仕方 【到達目標】 目標達成の仕方を学び理解し使えるようになる。 1、情報2、きっかけ・モチベーション 3、報酬のイメージ4、願望5、決断 6、目標設定・期限を切る 7、プランを立てる				14		【授業単元】 復習 【到達目標】 1回から13回までの復習と調整 定期試験のポイントを開設する。	
7		【授業単元】 目標達成の仕方 【到達目標】 目標達成の仕方を学び理解し使えるようになる。 8、夢泥棒 9、仲間さがし 10、環境を整える11、行動する 12、毎日の成果のチェック					15	【授業単元】 定期試験 【到達目標】 1回～14回までの、授業理解度の確認 自分の考えを書く、答えの無い試験問題です。	
	8	【授業単元】 目標達成の仕方 【到達目標】 目標達成の仕方を学び理解し使えるようになる。 13、習慣にする14、潜在意識に落とし込む 15、実現する 経営者の仕事				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平素の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 試験は筆記試験で行う。			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
1コマ1コマの授業は、ジグソーパズルの1ピースのようなものです。休むことなく完成させてください。また、休んだ場合は友人に授業内容を確認して補ってください。									

## 授 業 概 要

科目名	キャリアプランニング	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	有)両國あんこあられ本舗 岩佐 浩之				
サブ科目名		学年	2年	授業 形態	演習	総単位数	2	単位	総時間数	30	時間
学科・専攻	社会福祉科										
<b>【授業を通じての到達目標】</b>											
<p>様々な情報を取り、自分の頭で考え、整理し決断できるようになる。                      コミュニケーションの柱である、常識・マナー・社会のルールを身に着け実践できるようになる。                      自分自身を社会に出て、マーケティングできるようになる。</p>											
<b>【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのも記載する)</b>											
<p>流通業界では様々な仕入れ販売の経営経験を持ち、一部上場企業メーカー勤務では、製造から営業経験をし、現在3社を経営するオーナーが教える、社会人としての考え方目標設定の仕方、達成の仕方・人脈の作り方を講義します。                      ビジネスだけでなく、個人として必要な生きる力をわかりやすく講義します。また、カウンセラーとして精神的健康の維持・心が壊れない考え方・自分との付き合い方・1対1のコミュニケーション心理・縦の人間関係のコミュニケーションの考え方をわかりやすく講義します。</p>											
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>						<b>【授業時間外における学習】</b>					
毎回授業の際、資料を配布						世の中の疑問点を探し質問する					
コマ	授業計画					コマ	授業計画				
1	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション					9	<b>【授業単元】</b> 中間試験				
	<b>【到達目標】</b> 後期15回の流れの説明と到達地点の確認をイメージする。 各コマの予告編						<b>【到達目標】</b> 1回から8回までの復習と調整 中間テストによる理解度のチェックをします。				
2	<b>【授業単元】</b> マーケティングマネジメント基礎理論					10	<b>【授業単元】</b> お金・税金・インボイス制度				
	<b>【到達目標】</b> ①バリュープロポジションとは何か学び理解する。 ②マーケティングの中核・実体・付属機能について学ぶ。 戦略戦術が立てられるようになる。						<b>【到達目標】</b> 経費について学び理解する。				
3	<b>【授業単元】</b> マーケティングマネジメント基礎理論					11	<b>【授業単元】</b> ライフプラン				
	<b>【到達目標】</b> ①イノベーター理論・キャズム理論について学ぶ。マイケルポーターの理論 ②物や人がなぜ売れたのか？様々な例を基に理解する。						<b>【到達目標】</b> ライフプランを実際に立てて将来をイメージし書き出す。 相続・根拠当について知る。				
4	<b>【授業単元】</b> アイドルエコノミー					12	<b>【授業単元】</b> 考え方 7つの習慣				
	<b>【到達目標】</b> アイドリングビジネスを学び理解し戦術戦略が立てられる。 顧客は、お金を出して何を買っているのかを学び、戦略戦術が立てられる。らしさを分析する。						<b>【到達目標】</b> ①主体性を発揮する ②目的を持って始める ③重要事項を優先する				
5	<b>【授業単元】</b> 手紙・はがき・敬語・尊敬語・丁寧語・クッション言葉					13	<b>【授業単元】</b> 考え方 7つの習慣				
	<b>【到達目標】</b> 挨拶文・御礼文のルールを学び、書けるようになる。敬語・尊敬語・丁寧語・クッション言葉を学び、使いこなせるようになった。 会話にオーラのある人の生き方を学び習得する。						<b>【到達目標】</b> 7つの習慣 ④Win-Winを考える ⑤理解してから理解される ⑥相乗効果を発揮する ⑦刃を研ぐ				
6	<b>【授業単元】</b> 履歴書					14	<b>【授業単元】</b> 復習				
	<b>【到達目標】</b> 履歴書のルールを学ぶ 自己覚知する。自分の長所を文章にして書き出す。						<b>【到達目標】</b> 1回から13回までの復習と調整 定期試験のポイントを開設する。				
7	<b>【授業単元】</b> 履歴書					15	<b>【授業単元】</b> 定期試験				
	<b>【到達目標】</b> 自分のセールスポイントを、原稿用紙に書き出す。						<b>【到達目標】</b> 1回～14回までの、授業理解度の確認 自分の考えを書く、答えの無い試験問題です。				
8	<b>【授業単元】</b> 経営者の仕事					<b>【成績評価の方法と基準】</b> 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、授業評価(平常の学習状況・出席状況など)を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  試験は筆記試験で行う。					
	<b>【到達目標】</b> 経営者の仕事について学ぶ。 世の中の、しきたりについて学び理解する。										
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>											
1コマ1コマの授業は、ジグソーパズルの1ピースのようなものです。休むことなく完成させてください。また、休んだ場合は友人に授業内容を確認して補ってください。											

## 授 業 概 要

科目名	文章表現	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	徳岡健男		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	15 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
わかり易い文章の書き方を学ぶ講座である。また、論説や時事ニュース等の要点を読み取るためのコツをつかむ講座である。、実習の報告書を記入する際、また、就職試験や公務員試験でおこなわれる文章理解と小論文などにおいて、効果がある講座である。具体的には、起承転結のある文章と論理的な文章を読み、その組み立てを学ぶ。 また、わかり易い文章を構成するための文法の基本を学び、表現力を豊かにするための語彙を学ぶ。									
<b>【学習内容】</b>									
流通業界での実務経験と社会人教育・専門学校教育での教員経験をもつ教員が、わかり易い文章の書き方を指導する。 授業実施後には、起承転結や、序論、本論、結論という、わかりやすく組み立てられた文章を書けるレベルに到達できる授業である。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
書名:「日本語練習帳」 岩波新書 大野晋著					日常から文章になじんでほしい。特に新聞記事などを読むことを推奨したい。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 わかり易い文章とは①				9	【授業単元】 論理的に文章を読む。① 『はやぶさ式思考法』			
	【到達目標】 相手本位の文章を考える。 仕事に必要な文章を考える。					【到達目標】 結論に至る流れを理解する。 序論・本論・結論を意識する。			
2	【授業単元】 わかり易い文章とは②				10	【授業単元】 論理的に文章を読む② 『ローマから日本が見える』			
	【到達目標】 簡潔な文章を理解する。 一文を簡潔に。修飾の順序に気を付ける。					【到達目標】 結論に至る流れを理解する。 序論・本論・結論を意識する。			
3	【授業単元】 わかり易い文章③				11	【授業単元】 論理的に文章を読む③「下町ロケット」「小説の読み方」			
	【到達目標】 自己PRを書いてみる。 根拠を挙げ、相手に納得してもらう。					【到達目標】 描写から人物像を読み取る。 キーワードを意識して文章を読む。			
4	【授業単元】 わかり易い文章④				12	【授業単元】 小論文を書いてみる①			
	【到達目標】 志望動機を書いてみる。 なぜ社会福祉士になりたいのか。					【到達目標】 作文と小論文の違いを理解する。 情緒が中心文章と理性的な文章の違いを知る。			
5	【授業単元】 語彙力を高める①				13	【授業単元】 小論文を書いてみる②			
	【到達目標】 熟語を学ぶ。 三字熟語と四字熟語					【到達目標】 書き方の手順を知る。 小論文の評価のポイントを知る。			
6	【授業単元】 語彙力を高める②				14	【授業単元】 小論文を書いてみる③テーマを設定し、課題作文を書く。			
	【到達目標】 故事成語ととわざを学ぶ。 慣用句を学ぶ。					【到達目標】 小論文(課題作文)の提出。			
7	【授業単元】 語彙力を高める③ 同訓異字、同音異字、四字熟語などを学ぶ。				15	【授業単元】 定期試験(小論文試験)			
	【到達目標】 同訓異字、同音異字、対義語を学ぶ。					【到達目標】 試験終了後に解答・解説			
8	【授業単元】 1～7回目までの授業で学習した範囲から出題。				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 評価は筆記試験と小論文の提出で行なう。筆記試験は授業で確認した知識の定着度(1回～7回)を確認する。8回目～14回については、小論文試験とする。小論文の評価基準については、わかり易い文章の授業の中で伝える。また、各授業の中で小テストを実施し、小テスト40点・定期試験60点、合計100点満点で評価する。評価は学則の規定に準ずる。				
	【到達目標】 解答・解説								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
文章に親しむ。まず、文章を読み、内容を理解することが大切です。									

科目名	コミュニケーション技法	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	有) 両國あんにあられ本舗 木村雅一
サブ科目名		授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間	開講区分	前期
学科・コース	社会福祉科					曜日・時間	水曜日 3限
<p>【授業の学習内容と心構え】(実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)</p> <p>・専門商社で北米・東南アジアを主とした貿易業務に携わり、異文化コミュニケーションの大切さ、難しさを身を持って体験した講師が、長年の経験をもとに、人の中で生きることが必須となる人間とつ基礎となる”コミュニケーション”を講義を行う。同時に人間関係を円滑にし、職業人として身につけるべき自己表現・接遇・マナー・ホスピタリティ精神の要素も含めた社会的スキルの大切さを意識し、専門的知識と基礎的知識の基礎を習得する講義を行う</p>							
<p>【到達目標】</p> <p>・社会で通用するコミュニケーション力を身につけ実践の場で行動できるようになる</p> <p>・職業人として効果的なコミュニケーション方法を知り、活用できるようになる</p>							
【使用教科書・教材・参考書】 毎回授業で資料配布				【授業外における学習】 分らない専門用語などは、予め調べて予習しておく 日常のコミュニケーションの場においても、授業でのポイントは意識してみる			
回		回	授 業 概 要				
1	<p>【授業単元】コミュニケーションとは</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの定義について理解することができる</li> <li>・コミュニケーションの3領域・種類を理解することができる</li> <li>・表情・態度・口調が言葉以上に重要であるということが理解できるようになる</li> </ul>	9	<p>【授業単元】社会的スキルⅠ 対人行動      Ⅱ 文書作成</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的スキルの実践 習得をする。</li> <li>5接客      6訪問      7訪問(謝る おわびをする)</li> <li>・ビジネス文書(社内文 社外文)の意義を理解することができる</li> </ul>				
2	<p>【授業単元】基本的対話スキル(1対1の会話)</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション・ミスコミュニケーションの原因を会話のプロセスの中で理解することができる</li> <li>・「聴く」「話す」の基本 「上手な質問」の要点を理解することができる</li> <li>・会話＝気持ちや考えの交換を事例を通して学ぶ</li> </ul>	10	<p>【授業単元】社会的スキルⅡ 文書作成</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社外文書を明瞭・簡潔に書ききを用いて作成できるようになる</li> </ul>				
3	<p>【授業単元】グループでの会話      自己表現スキルⅠ</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループとは? グループの意義を理解することができる</li> <li>・グループでの会話の基本を1対1との会話と比較し理解することができる</li> <li>・人間関係を円滑にする表現技術の要点を理解することができる</li> </ul>	11	<p>【授業単元】社会的スキルの実践Ⅱ 文書作成</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人の基本的マナー・教養、身につけるべき知識を学習し日々の行動から意識し活用できるようにする</li> <li>手紙      メール      SNS      FAX</li> </ul>				
4	<p>【授業単元】自己表現スキルⅠ      自己表現スキルⅡ</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係を円滑にする「上手な頼み方」「上手な断り方」のポイントを理解することができる</li> <li>・仕事上で必要とされる表現技術のスキルを理解することができる</li> <li>「報告」「連絡」「相談」 SWIH法      PREP法</li> </ul>	12	<p>【授業単元】サービスマインドⅠ サービスマインドとは</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス社会をふまえて、サービスマインドとは?、サービスとは?について理解することができる</li> <li>・サービスの心得を習得し、実践の場に活かすことができる</li> </ul>				
5	<p>【授業単元】自己表現スキルⅡ</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「交渉」というコミュニケーションについて理解することができる</li> <li>・「説得」というコミュニケーションについて理解することができる</li> <li>・プレゼンテーションの基本を理解し、簡単なプレゼンテーションができるようになる</li> </ul>	13	<p>【授業単元】サービスマインドⅠ サービスマインドとは</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスを作り出す基本要素を理解することができる</li> <li>・1 人 人(あなた)と顧客/顧客満足度の関係を整理し、適切な行動と顧客理解、顧客ニーズを理解することができる</li> <li>・2 環境 身だしなみを中心に環境サービスについて理解できる</li> </ul>				
6	<p>【授業単元】自己表現スキルⅢ</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トラブルのもととなる感情への対処法が理解できるようになる</li> <li>・アンガーマネジメントについて理解できるようになる</li> <li>・「感情」と「行動」の相関性、対処法が理解できるようになる</li> <li>怒りの感情の扱い方      怒りの伝え方      他者からの怒りの対処</li> </ul>	14	<p>【授業単元】サービスマインドⅡ サービスの基本要素</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業、店舗における経営理念、それを実現するための方針、サービスの方法 お客様への考えかを「プロセス」としてとらえ、その方針や目的を実現するための重要な過程を理解することができる</li> <li>理念、方針の理解      迅速対応      win-winの関係</li> </ul>				
7	<p>【授業単元】社会的スキル 対人行動</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な社会的スキル マナー/仕事に対する姿勢について、理解できるようになる</li> <li>・社会的スキル 対人行動を理解し、活用できるようになる</li> <li>1挨拶      2敬語      3電話対応      4携帯電話</li> </ul>	15	<p>【授業単元】定期試験 終了後の解答解説</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分らない問題を洗い出し、課題を抽出する</li> <li>抽出された課題の何が分らなかったのかを特定し、理解する</li> </ul>				
8	<p>【授業単元】中間試験</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験終了後、最後の単元のまとめをおこなう。</li> <li>・分らない問題を洗い出し、課題を抽出する</li> <li>抽出された課題の何が分らなかったのかを特定し、理解する</li> </ul>	<p>【評価について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価は、筆記試験で行う。</li> <li>・授業内で学んだ知識を確認する。</li> <li>・定期試験は、60分とし、終了後解説をおこなう。</li> <li>・筆記試験は、中間テスト(40点) 期末テスト(60点)の合計100点で評価する。</li> <li>・評価は、学則規定に準ずる。</li> </ul>					
<p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎授業に指示した内容にマーキングをし、しっかり理解する</li> <li>・わからないことは、積極的に質問をする</li> </ul>							

## 授 業 概 要

科目名	チャレンジプログラム指導	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	田邊 慎悟		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
基本的なビジネスマナー及び接遇を理解して、対利用者ではなく対人としての接し方を身につける。 ソーシャルワーカーとしての基本的な役割や活躍する業界を理解する。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
子どもの健全育成事業に関する研究及び社会福祉領域における実習前評価システムの開発研究を実施。 医療ソーシャルワーカーとして、新人から初任者研修担当講師や看護専門学校にて社会福祉科目の担当をした。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
レジュメ 必要に応じて、随時資料を追加で配布する					ソーシャルワーカーが働く領域は多岐にわたります。自身の関心だけではなく、幅広い視点をもって情報収集に努めてください。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション			9	【授業単元】 対人援助スキル①～自己紹介～				
	【到達目標】 認識と経験からの価値観が形成されることを理解する。 ソーシャルワークの視点を考察する。				【到達目標】 現場体験先へ送付する自己紹介書を作成することができるようになる。				
2	【授業単元】 尊敬語・謙譲語・丁寧語			10	【授業単元】 対人援助スキル②～計画目的～				
	【到達目標】 記録にあたって、言葉の使い分けを理解する。				【到達目標】 後期に実施される現場体験へ向けて、計画目的を作成する。 ①いい目的とは？どのように目的はたてるのか。 ②具体的な目的と抽象的な目的				
3	【授業単元】 電話応対			11	【授業単元】 対人援助スキル③～クライアントの方との関わり～				
	【到達目標】 施設等の校外機関へ電話をする際のマナーを理解する。				【到達目標】 現場実践において、不快を与えない関わり方について理解をする。 ①煩雑や距離 ②言葉かけ ③雑談を雑談で終わらせない				
4	【授業単元】 TPOに合わせた姿勢			12	【授業単元】 対人援助スキル④～感想と考察～				
	【到達目標】 見学実習や現場体験時に相手を不快にさせない姿勢を理解する。				【到達目標】 自身のスペシフィックな体験を感想で留まらせるのではなく、考察へ昇華させることができるようにする。				
5	【授業単元】 記録のとりかた			13	【授業単元】 対人援助実践①～事例検討～				
	【到達目標】 主観的情報と客観的情報を区別して、記録に記載ができるようになる。				【到達目標】 事例を通して、対人コミュニケーションを実施できるようにする。 ①場面設定 ②役割設定 ③会話スクリプトの構築など				
6	【授業単元】 ソーシャルワーカーの働く領域①			14	【授業単元】 対人援助実践②～ロールプレイ～				
	【到達目標】 高齢・障害・児童・低所得・医療分野等で働くソーシャルワーカーの役割と働く場所を理解する。				【到達目標】 事例検討内容を踏まえて、ロールプレイを実践し、会話スクリプト等のブラッシュアップを行う。				
7	【授業単元】 ソーシャルワーカーの働く領域②			15	【授業単元】 各グループ実践発表				
	【到達目標】 各領域のソーシャルワーカーの役割と場所についてプレゼン資料をまとめる。				【到達目標】 13回目、14回目で構築した対人援助場面のロールプレイを発表する。 ①環境の配慮がみられているか ②相手に不快を与えない発言や姿勢であるか ③ソーシャルワーカーの視点が組み込まれているか				
8	【授業単元】 中間試験(プレゼンテーション)			<b>【成績評価の方法と基準】</b>					
	【到達目標】 知識の共有のために、他者へ伝えるようにプレゼンテーションを実施する。 ①パワーポイントの見やすさ ②自身の言葉で語られているか ③オーディエンスを意識した発表になっているか			学期に準ずる。 ①個人ワーク、グループワークの取り組み状況、提出物等から各回5点を配点。 ※ただし、8回目、15回目は除く ②8回目の中間試験はプレゼンテーション内容を鑑みて15点を配点 ※評価項目はシラバス8回目に記載 ③15回目の対人援助場面のロールプレイ発表にて60点を配点 ※評価項目は15回目に記載					
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
チャレンジ体験は「学生」といえず、施設を利用する方及び家族からは職員として見られることもあります。専門職としてだけではなく、社会人としてのビジネススキルも求められます。遅刻・欠席がないよう体調管理も含め留意して受講して									

## 授業概要

科目名	チャレンジプログラム	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	田邊 慎悟		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	5 単位	総時間数	150 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
様々な現場での専門職員や利用者を知ることを通して、自分の将来像を明確にすることを目的とする。それを明確にすることによって、普段の学業や私生活において意味付けを追加し、充実した学校生活を送ることができるようになる。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
福祉専門職育成に携わる教員が、当プログラムの目的及び実習に関する基本的なマナーについて指導をする。合わせて、各事業所における現場職員が、実習機会を提供し、利用者理解と事業所理解に資する技術・知識について指導を行う。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
教材:適宜資料を配布					実習内容の振り返りと共に、関連する内容についての調べ学習やボランティアの参加等を要する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 9/29	【授業単元】 チャレンジ前プログラム① 分野別(高齢・障害・福祉・教育)における業務内容・多職種連携				9 12/1	【授業単元】 4日体験プログラム②			
	【到達目標】 分野別(高齢・障害・福祉・教育)における業務内容、多職種連携をグループでまとめ、理解することができる					【到達目標】 4日間の同施設体験を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 利用者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる 支援者の役割を理解することができる			
2 10/6	【授業単元】 チャレンジ前プログラム② 実習ロールプレイ(挨拶・実習生としての話し方・聞き方) 実習先アクセス調査				10 12/8	【授業単元】 4日体験プログラム③			
	【到達目標】 実習生としての基本的なマナーについて理解し、実践することができる					【到達目標】 4日間の同施設体験を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 利用者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる 支援者の役割を理解することができる			
3 10/13	【授業単元】 1日体験プログラム①				11 12/15	【授業単元】 4日体験プログラム④			
	【到達目標】 施設見学等を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる					【到達目標】 4日間の同施設体験を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 利用者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる 支援者の役割を理解することができる			
4 10/20	【授業単元】 1日体験プログラム②				12 1/12	【授業単元】 講演			
	【到達目標】 施設見学等を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる					【到達目標】 外部講師の話から支援者の役割等を理解し、説明することができる			
5 10/27	【授業単元】 1日体験プログラム③				13 1/19	【授業単元】 講演			
	【到達目標】 施設見学等を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる					【到達目標】 外部講師の話から支援者の役割等を理解し、説明することができる			
6 11/3	【授業単元】 1日体験プログラム④				14 1/26	【授業単元】 プレゼン発表① 定期試験			
	【到達目標】 様々な施設において対象者と主体的にコミュニケーションをとることができる 施設の働き・役割について説明することができる					【到達目標】 これまで学んだことを復習することができる 内容をまとめ、プレゼンを行うことができる 定期試験後に解説を行い、重点項目について説明することができる			
7 11/17	【授業単元】 講演:児童相談所 中テスト				15 2/2	【授業単元】 プレゼン発表② 定期試験			
	【到達目標】 外部講師の話から児童相談所の役割等を理解し、説明することができる これまで学んだことを復習することができる					【到達目標】 これまで学んだことを復習することができる 内容をまとめ、プレゼンを行うことができる 定期試験後に解説を行い、重点項目について説明することができる			
8 11/24	【授業単元】 4日体験プログラム①				<b>【成績評価の方法と基準】</b>				
	【到達目標】 4日間の同施設体験を行い、施設の概要や職員の業務内容、利用者像を知ることができる 利用者と主体的にコミュニケーションをとることができる 自分のコミュニケーションにおける課題を発見し、取り組む計画が作れる 支援者の役割を理解することができる				小テスト、中テスト、定期試験にて総合評価を行う。 合計点数 GP ◆A評価 100～90点 4.0 ◆B評価 89～80点 3.0 ◆C評価 79～70点 2.0 ◆D評価 69～60点 1.0 ◆E,F評価 59点以下又は出席不良は、不合格とする。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
デバイスは十分な充電を行って講義を受けてください。 チャレンジプログラムにおいては1～4限まで要するが、1コマと表記する。									

## 授 業 概 要

科目名	情報リテラシー I	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	株式会社 プレーンスタッフコンサルタンツ		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく活用できる</li> <li>・Wordを利用し、複合文書を作成できる</li> <li>・図解や画像を駆使した、訴求力のあるプレゼン資料を作成して発表できる</li> </ul>									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
滋慶学園グループの企業である(株)プレーンスタッフコンサルタンツのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施。学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
オリジナルのe-learningテキスト					e-learningテキストで操作手順を確認し、PC操作を実践する				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 CCT入門1 web検索、マウスの操作、PCTラブル時の解決方法				9	【授業単元】 PowerPoint1 基本操作			
	【到達目標】 検索力を身につけ問題を解決できる					【到達目標】 プレゼンテーションソフトの基本操作ができる			
2	【授業単元】 CCT入門2 ITリテラシー 滋慶学園 ITリテラシー理解度テスト				10	【授業単元】 PowerPoint2 視覚力を上げる			
	【到達目標】 新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく上手に活用できる					【到達目標】 図形や画像を活用したスライドを作成できる			
3	【授業単元】 CCT入門4 Officeの基本操作				11	【授業単元】 PowerPoint3 動きを付ける			
	【到達目標】 Excelの基本的な操作ができる					【到達目標】 スライドに動きを付け、全てのスライドを完成できる			
4	【授業単元】 Word基礎1 基本操作				12	【授業単元】 プレゼン基礎3 発表スライド作成			
	【到達目標】 文書作成ソフトを使って、効率的にビジネス文書を作ることができる					【到達目標】 表の活用・図表の効果的な表現をすることができる			
5	【授業単元】 Word基礎2 画像や図形				13	【授業単元】 PowerPoint4 発表			
	【到達目標】 画像や図形を駆使した文書を作成できる					【到達目標】 作成したプレゼン資料を発表できる			
6	【授業単元】 Word基礎3 表の作成				14	【授業単元】 PowerPoint試験対策			
	【到達目標】 表を駆使した文書を作成できる					【到達目標】 PowerPoint講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる			
7	【授業単元】 Word試験対策				15	【授業単元】 PowerPoint定期試験、振り返り			
	【到達目標】 Word講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる					【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、PowerPoint資料を作成できる			
8	【授業単元】 Word中テスト				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験はPCを使用したPowerPointスライド作成を行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、Word資料を作成できる								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
PC操作は日々繰り返すことでタイピング速度が上がり、効率的な資料作成やデータ処理が可能になります。できるだけ日常に取り入れて活用してください									

## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク特別演習 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	小島 修・安部 直美		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
ソーシャルワークにおける知識・技術を体系的に学ぶための確認を目的とする。特に、ソーシャルワーカーとしての身構え・気構え・心構えについて体験的に理解することを通して、自己の成長と安心安全な環境作りを行う。									
<b>【学習内容】</b> (どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
ソーシャルワーカーとして現場(高齢分野・医療分野)で相談業務をしてきた教員が、4年間の学校生活を送る中で将来像を明確にし、その後の就職とキャリア形成ができるマネジメント力を涵養する									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
教材:teamsからの配布資料					なし				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> 新入生オリエンテーション  <b>【到達目標】</b> 学校のルールとクラスメイトについて知ることができる				9	<b>【授業単元】</b> 導入研修④-1  <b>【到達目標】</b> クラスメイトを知ることができる			
2	<b>【授業単元】</b> 健康診断  <b>【到達目標】</b> 健康診断を受けることができる				10	<b>【授業単元】</b> 導入研修④-2  <b>【到達目標】</b> 多様な価値のある社会の中で自分らしく生活する方法を身につける			
3	<b>【授業単元】</b> 導入研修①-1  <b>【到達目標】</b> 学科の目的や授業のルールを確認することができる。				11	<b>【授業単元】</b> 入学式  <b>【到達目標】</b> これからも学びをわくわくすることができる			
4	<b>【授業単元】</b> 導入研修①-2  <b>【到達目標】</b> バリテラシーについて理解することができる				12	<b>【授業単元】</b> 社会福祉科4年生の卒業研究発表への参加準備  <b>【到達目標】</b> 発表資料を読み込み、グループで質問を考えることができる 聞く姿勢を身に付けることができる			
5	<b>【授業単元】</b> 導入研修②-1  <b>【到達目標】</b> teamsでデータを活用することができる				13	<b>【授業単元】</b> 社会福祉科4年生の卒業研究発表への参加①  <b>【到達目標】</b> 先輩たちのプレゼンを学ぶ 発表する姿勢、聞く姿勢を学ぶ			
6	<b>【授業単元】</b> 導入研修②-2  <b>【到達目標】</b> ロイノートでデータを活用することができる ロイノートで自己紹介をすることができる				14	<b>【授業単元】</b> 社会福祉科4年生の卒業研究発表への参加②  <b>【到達目標】</b> 先輩たちのプレゼンを学ぶ 発表する姿勢、聞く姿勢を学ぶ			
7	<b>【授業単元】</b> 導入研修③-1  <b>【到達目標】</b> 学校生活でのルールをすることができる				15	<b>【授業単元】</b> 社会福祉科4年生の卒業研究発表の振り返り  <b>【到達目標】</b> 先輩たちのプレゼンにおいて気が付いたことを共有することができる			
8	<b>【授業単元】</b> 導入研修③-2  <b>【到達目標】</b> 各授業の目的を知ることができる				<b>【成績評価の方法と基準】</b>				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
授業内容に応じて、心理カウンセラー科と合同授業を行います。									



## 授 業 概 要

科目名	心理学と心理的支援	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	本 庄 繁		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理学の基礎的諸理論を説明できる。</li> <li>・心理学の各学習項目が、福祉における対象者の心の理解にどのように関わるか説明できる。</li> <li>・生涯発達各段階に特有な発達課題と危機を説明できる。</li> </ul>									
<p>専門学校で30年間以上、心理学諸科目を担当してきた教員が、社会福祉分野で働くために必要な心理学的知識を習得する授業を行う。社会福祉実践においては、社会的な側面からケースに適した援助を行うが、心理的側面からはどう対象者の心を理解し、支援したらよいかを考える機会にしてほしい。</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
心理学と心理的支援(日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集) 中央法規					これまでの対人関係の中で体験してきたことと心理学の内容を関連づけて理解し、さらに現在の人との関係の中で知識をどう活用できるか考えてほしい。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	<p>【授業単元】 心理学の視点</p> <p>【到達目標】 心理学の発展の歴史を学ぶことにより、現代の心理学では心をどのように捉えているか説明できる。福祉の対象者の心を理解するために心理学をどう活用するか自分の見解を述べるができる。</p>				9	<p>【授業単元】 心の発達の基盤</p> <p>【到達目標】 認知発達と言語発達の基本的な過程を説明できる。アタッチメントのあり方が、その後の対人関係に及ぼす影響について説明できる。産後期の概念と人間の可塑性について意見を述べるができる。</p>			
2	<p>【授業単元】 感情・動機づけ・欲求</p> <p>【到達目標】 マズローの欲求階層説を説明し、心理支援にどう役立てられるか意見を述べられる。行動(例えばBPSD)の背後にある欲求(動機)を指摘できる。感情の仕組みと機能について、主な理論を説明できる。</p>				10	<p>【授業単元】 心の健康と不適応</p> <p>【到達目標】 現代のストレス理論について説明できる。ストレスにどう立ち向かい、健康を維持するかにについて、自分の対処法を振り返ることができる。ストレスによる不適応、主な疾患について説明できる。</p>			
3	<p>【授業単元】 感覚・知覚</p> <p>【到達目標】 感覚モダリティと知覚の成立する過程を説明できる。視覚・聴覚障害や発達障害の方の、知覚の特性について知覚の仕組みの観点から説明できる。知覚における諸現象(現実を再構成するときにおこること)について説明できる。</p>				11	<p>【授業単元】 健康生成論</p> <p>【到達目標】 健康生成論の基本的な考え方が、健康増進にどう役立つか説明できる。健康な高齢者集団を調べ、首尾一貫性感覚がどう働いているか仮説を立てられる。逆境を生き抜いてきた人々にどんな心理的、環境的特徴があるかを調べ、レジリエンスがどんな要因から構成されているか指摘できる。</p>			
4	<p>【授業単元】 学習・行動</p> <p>【到達目標】 古典的条件づけの仕組みと、その応用について説明できる。道具的条件づけの仕組みに基づいた、心理支援について説明できる。観察学習の実例を指摘し、子どもの教育への配慮について意見を述べられる。</p>				12	<p>【授業単元】 心理アセスメント</p> <p>【到達目標】 あるケースを用いて、事例定式化(ケースフォーミュレーション)の練習をする。インテーク面接においてどのように情報を集め、心理アセスメントを行ったらよいか説明できる。心理アセスメントに用いられる主な心理検査の概要を説明できる。</p>			
5	<p>【授業単元】 認 知</p> <p>【到達目標】 記憶の種類を挙げて、それぞれについて説明できる。認知障害の人に対して必要な支援を述べられる。主な認知バイアスとそれを防ぐための方法を指摘できる。</p>				13	<p>【授業単元】 ソーシャルワークにおける心理的支援</p> <p>【到達目標】 ソーシャルワークにおいて、どのような心理的支援が必要か指摘できる。支持的精神療法の概略を説明できる。マイクロカウンセリングの基本的な技法を実際に練習する。動機づけ面接のやり方の概要を説明できる。</p>			
6	<p>【授業単元】 個人差</p> <p>【到達目標】 知能理論が知能検査にどのように影響しているか指摘できる。類型論・特性論の利点と欠点を指摘できる。類型論・特性論が、心理的アセスメントにどう使われているか説明できる。</p>				14	<p>【授業単元】 心理療法</p> <p>【到達目標】 心理職との連携に必要な代表的な心理療法の基本的な概念と進め方を説明できる。特に精神分析、認知行動療法、応用行動分析、家族療法、ブリーフ・セラピー、対人関係療法について、その概要、および効用と限界について説明できる。</p>			
7	<p>【授業単元】 人と環境</p> <p>【到達目標】 対人関係に影響する主な効果を指摘できる。集団が個人の心理にどう影響するかを、実例を挙げて説明できる。効果的なリーダーシップをとるにはどのような要因が重要か説明できる。</p>				15	<p>【授業単元】 第2Q 定期試験</p> <p>【到達目標】 (60点) 定期試験は、各回の授業内容に関する理解を問う五肢択一問題、および各回授業で考えた内容に関する記述式問題。終了後に解答解説、および将来の国家試験への学習の動機づけ。</p>			
8	<p>【授業単元】 生涯発達 小テスト実施</p> <p>【到達目標】 ライフサイクルにおける各発達課題を、エリクソンに基づいて説明できる。バルテスの生涯発達理論に基づいて、発達とは何かについて自分の意見を述べられる。発達における遺伝要因と環境要因の役割について、自分の見解を述べられる。</p>				<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>定期試験は、各回の授業内容に関する理解を踏まえ国家試験に準じた五肢択一問題、および各回授業で考えた内容に関する記述式問題を出題。</p> <p>科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。また、試験はTeamsのクイズで行う。毎回授業の小テストは、各回5点満点×13回=65点。(8回目の小テストは実施するが配点には含まない)、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業においては、ペアワーク、グループワーク中心に行うので、それぞれのテーマについて、自分で考えて意見を持ち、できるだけ、みんなで考えていくください。									

## 授 業 概 要

科目名	障害者福祉	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	渡邊知行		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
1障害者福祉の理念について歴史的背景や考え方を踏まえて総合的に理解する。 2障害者福祉に関する法制度の概要や障害福祉サービスについて具体的な内容を知る。 3社会福祉士または精神保健福祉士として障害福祉の現場で果たす役割や支援のあり方について理解する。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
障害者グループホームの支援者として実務経験を積みながら、大学院で障害者福祉分野の研究に取り組んできた講師が、現場の事例や学術的な背景を含めた授業を実施する。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座8 障害者福祉』中央法規					授業中に触れた内容の周辺事項で興味をもった事があった時、インターネット等を利用して自己学習することを期待します。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 障害者福祉に関する法律の全体像			
	【到達目標】 ・障害について考えて、自分なりの障害観を持つ					【到達目標】 ・障害者福祉の関連法について全体像を学ぶ。 ・障害者福祉の関連法(身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法、児童福祉法、発達障害者支援法)の概要を理解する。			
2	【授業単元】 障害者の定義と特性				10	【授業単元】 障害者福祉に関する法律①			
	【到達目標】 ・様々な障害の法的な定義を理解する。 ・様々な障害の特性を理解する。					【到達目標】 ・障害者総合支援法の体系について学ぶ。 ・障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスの概要を理解する。			
3	【授業単元】 障害に対する考え方				11	【授業単元】 障害者福祉に関する法律②			
	【到達目標】 ・ICFとICIDHの違いを学ぶ。 ・医学モデルと社会モデルの違いを理解する。					【到達目標】 ・障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスの具体的な内容(訓練等給付、介護給付など)を理解する。			
4	【授業単元】 障害者福祉の理念				12	【授業単元】 障害者福祉に関する法律③			
	【到達目標】 ・ノーマライゼーションについて理解する。 ・障害福祉に関する重要な概念を理解する。					【到達目標】 ・バリアフリー法の概要を理解する。 ・障害者雇用促進法の概要を理解する。 ・障害者優先調達推進法の概要を理解する。			
5	【授業単元】 日本の障害者福祉				13	【授業単元】 障害者福祉に関する法律④			
	【到達目標】 ・障害者基本法について背景と経緯を含めて理解する。 ・障害者福祉制度の発展過程について、背景も含めて理解する。					【到達目標】 ・障害者差別解消法の概要を理解する。 ・障害者虐待防止法の概要を理解する。			
6	【授業単元】 障害者福祉の行政と福祉計画				14	【授業単元】 障害者に対する支援の方法			
	【到達目標】 ・障害者福祉の社会基盤を整備するための行政について理解する。 ・障害福祉に関する福祉計画について学ぶ。					【到達目標】 ・障害者福祉に関係する支援者の役割を理解する。 ・利用者に関する計画について学ぶ。			
7	【授業単元】 障害者の生活実態				15	【授業単元】 定期試験・授業全体の振り返りおよび試験解答解説			
	【到達目標】 ・障害者の生活実態について統計データ等を基に把握する。 ・障害者世帯のニーズと支援のあり方について理解する。					【到達目標】 ・今期授業で学んだ内容を理解する。 ・障害福祉に関する歴史と現状、理念や制度などを踏まえて、現在提供されている障害福祉サービス等の具体的な内容を把握する。			
8	【授業単元】 中間試験・前半授業の振り返りおよび試験解答解説				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・前半授業で学んだ内容を理解する。 ・障害福祉に関する歴史と現状、理念や制度などの概要を把握する。								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
講義は、概要や概念、理論などを理解する場です。せっかく理解しても、しっかり復習しなければ知識として定着しません。特にテストで間違えたところは、必ず復習をしてください。									

## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	山田 伸		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
1. 人と環境との相互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 2. ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。 3. ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。 4. コミュニティワークの概念とその展開について理解する。 5. ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
ソーシャルワーカー(精神保健福祉士・社会福祉士)として、精神科病院で相談援助(ソーシャルワーク)に従事している教員が、ソーシャルワーク実践の基盤となる基礎的な知識を習得する授業を行う。授業展開としては、講義を中心に、個人ワーク、グループワークも行う。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目) (日本ソーシャルワーク教育学校連盟編) 中央法規出版					他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めるために、事前学習・事後学習を行う。また、ソーシャルワークは人々の生活課題や社会の問題等の解決に働きかけることから、普段の日常生活の中から、これら課題や問題意識を持つことが求められる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション 第1章 人と環境の相互作用に関する理論とソーシャルワーク 第1節 ソーシャルワーカーが学ぶ理論 <b>【到達目標】</b> ・本科目の位置づけ、本講義の進め方を理解し、主体的な学びへの意識を醸成する。 ・ソーシャルワーカーが学ぶ理論のタイプを理解する ・ソーシャルワークの共通基盤とは何かを理解する ・ソーシャルワーク固有の視点とは何かを考える				9	<b>【授業単元】</b> 第3章 ソーシャルワークの課程 アセスメント① 第1節 アセスメントの意義と目的 第2節 アセスメントの方法 <b>【到達目標】</b> ・ソーシャルワークにおけるアセスメントの重要性について学ぶ ・「生活者」や「生活」への接近の方法としてのアセスメントについて学ぶ ・個人と社会環境への視点に基づくアセスメントについて学ぶ ・アセスメントを支える理論について学ぶ・アセスメントの方法や構成要素について学ぶ			
2	<b>【授業単元】</b> 第1章 人と環境の相互作用に関する理論とソーシャルワーク 第2節 システム理論 <b>【到達目標】</b> ・システム理論の基本的な考え方を理解する ・ソーシャルワークにおけるシステム理論の有用性を理解する ・システム理論を援用したソーシャルワーク実践の全体像を理解する				10	<b>【授業単元】</b> 第3章 ソーシャルワークの課程 アセスメント② 第2節 アセスメントの方法 第3節 アセスメントの留意点 <b>【到達目標】</b> ・アセスメントに有効なマッピングの技法について学ぶ ・ソーシャルワークの固有性や専門性を表すアセスメントについて学ぶ ・アセスメントにおける関係者や当事者との協働の重要性について学ぶ ・継続的で多角的な視点から個人と社会に迫るアセスメントについて学ぶ			
3	<b>【授業単元】</b> 第1章 人と環境の相互作用に関する理論とソーシャルワーク 第3節 生態学理論 <b>【到達目標】</b> ・生態学の基本的な考え方を理解する ・エコシステムの視座とは何かを理解する ・ライフモデル(ジャーメインとギッターマン)の考え方を理解する				11	<b>【授業単元】</b> 第4章 ソーシャルワークの課程 プランニング① 第1節 プランニングの意義と目的 第2節 プランニングのプロセスと方法 <b>【到達目標】</b> ・プランニングとは何かについて理解する ・ソーシャルワークではプランニングがどのように行われるか理解する ・ソーシャルワークにおけるプランニングの意義を理解する ・目的・目標の設定について理解する			
4	<b>【授業単元】</b> 第1章 人と環境の相互作用に関する理論とソーシャルワーク 第4節 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル <b>【到達目標】</b> ・バイオ・サイコ・ソーシャルモデルの基本的な内容を理解する ・ソーシャルワーク実践とバイオ・サイコ・ソーシャルモデルの関係を理解する				12	<b>【授業単元】</b> 第4章 ソーシャルワークの課程 プランニング② 第2節 プランニングのプロセスと方法 第3節 プランニングにおける留意点 <b>【到達目標】</b> ・計画内容の設定について理解する ・倫理的な実践のために留意すべきことを理解する ・包括的な支援のために連携や協働の重要性を理解する			
5	<b>【授業単元】</b> 第1章 人と環境の相互作用に関する理論とソーシャルワーク 第5節 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク <b>【到達目標】</b> ・人の生活に生じる課題は、「人と環境の相互作用」から生じることを理解する ・生活課題をミクロ・メゾ・マクロのそれぞれのレベルから捉える視点を養う				13	<b>【授業単元】</b> 第5章 ソーシャルワークの課程 支援の実施とモニタリング 第1節 支援の実施 第2節 モニタリング 第3節 効果測定 <b>【到達目標】</b> ・支援の実践における目的と方法、留意点について学ぶ ・モニタリングの目的と内容、方法と手続き、留意点について理解する ・モニタリングから再アセスメントまでの流れを理解する ・効果測定の目的と意義、基本的な方法であるシングル・システム・デザインについて理解する			
6	<b>【授業単元】</b> 第1章 人と環境の相互作用に関する理論とソーシャルワーク 第6節 ソーシャルワークの目標と展開過程 第2章 ソーシャルワークの課程 ケースの発見とエンゲージメント(インテーク) <b>【到達目標】</b> ・ソーシャルワークの目標について理解する ・ソーシャルワークの展開過程について、その概要を理解する ・人が他者から援助を受け入れるプロセスを学ぶ				14	<b>【授業単元】</b> 第6章 ソーシャルワークの課程 支援の最終と結果評価、アフターケア 第1節 支援の最終 第2節 支援の結果評価 第3節 アフターケア <b>【到達目標】</b> ・支援の最終が「過程」であることを理解する ・ソーシャルワーカー・クライアント双方で行うことの意味について理解する ・支援の最終後の生活課題の再燃の可能性と、新たな課題の発生を予測する視点の重要性を理解する ・結果評価の意義、視点、方法を理解する			
7	<b>【授業単元】</b> 第2章 ソーシャルワークの課程 ケースの発見とエンゲージメント(インテーク) 第1節 ケースの発見 第2節 エンゲージメント(インテーク) <b>【到達目標】</b> ・ケース発見のさまざまな形について学ぶ ・インボランタリー・クライアント、援助要求力の弱い人々への支援について学ぶ ・エンゲージメントの意味と役割を学ぶ ・クライアントとの関係構築の留意点を学ぶ ・メゾ・マクロ実践におけるエンゲージメントの留意点を学ぶ				15	<b>【授業単元】</b> 定期試験 解説及び前期学習内容の振り返り(まとめ) <b>【到達目標】</b> ・前期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、前期学習目標の達成度を振り返り、後期学習に向けた目標設定ができる。			
8	<b>【授業単元】</b> 中テスト 解説および学習内容の振り返り <b>【到達目標】</b> ・前期第1～7回の学習内容から出題 ・中テスト解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する ・国家試験対策(演習問題)				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
ソーシャルワーカーとして実践に携わるには、さまざまな知識を学ぶ必要があります。まずは、ソーシャルワーカーとして考え、語り、行動する際よりどころとなる理論的知識を学ぶことから始まります。他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めていきましょう。									

## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	山田 伸		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
1. 人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 2. ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。 3. ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。 4. コミュニティワークの概念とその展開について理解する。 5. ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
ソーシャルワーカー(精神保健福祉士・社会福祉士)として、精神科病院で相談援助(ソーシャルワーク)に従事している教員が、ソーシャルワーク実践の基盤となる基礎的な知識を習得する授業を行う。授業展開としては、講義を中心に、個人ワーク、グループワークも行う。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目) (日本ソーシャルワーク教育学校連盟編) 中央法規出版					他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めるために、事前学習・事後学習を行う。また、ソーシャルワークは人々の生活課題や社会の問題等の解決に働きかけることから、普段の日常生活の中から、これら課題や問題意識を持つことが求められる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ ① 第1節 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 第2節 ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ <b>【到達目標】</b> ・視点、視座、モデル、アプローチ等の意味合いを理解する ・ジェネラリストが実践モデル、アプローチを学ぶべき理由を理解する ・実践モデル、アプローチの特徴、歴史的な概要、流れについて理解する 生活モデル、治療モデル、ストレスモデル				9	<b>【授業単元】</b> 第10章 ケアマネジメント(ケースマネジメント) 第1節 ケアマネジメント(ケースマネジメント)の原則 第2節 ケアマネジメント(ケースマネジメント)の意義と方法 <b>【到達目標】</b> ・ケアマネジメント(ケースマネジメント)の歴史、基本的な原則を学ぶ ・ケアマネジメント(ケースマネジメント)の意義を理解する ・ケアマネジメント(ケースマネジメント)のモデルとプロセスを理解する			
2	<b>【授業単元】</b> 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ ② 第1節 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 第2節 ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ <b>【到達目標】</b> ・ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチを理解する 心理社会的アプローチ 機能的アプローチ 問題解決アプローチ				10	<b>【授業単元】</b> 第11章 グループを活用した支援 第1節 グループワークの意義と目的 第2節 グループワークの展開過程 第3節 グループワークとセルフヘルプグループ <b>【到達目標】</b> ・グループワークが何を目的に実践されるのかを学ぶ ・グループ・プロセスを理解して、実践のポイントを把握する ・グループの発達段階に応じた介入を理解する ・グループワークとセルフヘルプグループの区別を理解する			
3	<b>【授業単元】</b> 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ ③ 第1節 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 第2節 ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ <b>【到達目標】</b> ・ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチを理解する 課題中心アプローチ 行動変容アプローチ 認知アプローチ				11	<b>【授業単元】</b> 第12章 コミュニティワーク 第1節 コミュニティワークの意義と目的 第2節 コミュニティワークの展開 第3節 コミュニティワークの理論的系譜とモデル <b>【到達目標】</b> ・地域の課題に対するコミュニティワークの目的について理解する ・コミュニティワークの展開過程、各技法の特徴やねらい、計画や評価の視点、手法を理解する ・住民が主体となる地域福祉活動の意義を学ぶ ・コミュニティワークの歴史を学ぶ			
4	<b>【授業単元】</b> 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ ④ 第1節 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 第2節 ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ <b>【到達目標】</b> ・ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチを理解する 危機介入アプローチ エンパワメントアプローチ ナラティブアプローチ				12	<b>【授業単元】</b> 第13章 ソーシャルアドミニストレーション 第1節 ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義 第2節 組織介入・組織改善の実践モデル 第3節 組織運営における財源の確保 <b>【到達目標】</b> ・ソーシャルアドミニストレーションの概念と定義を理解する ・組織介入・組織改善の実践モデルを理解する ・組織運営における財源の種類を理解する			
5	<b>【授業単元】</b> 第7章 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ ⑤ 第1節 ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方 第2節 ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ <b>【到達目標】</b> ・ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチを理解する 解決志向アプローチ さまざまなアプローチ(アドラー心理学、ロジャース 交流分析、神経言語プログラミング)				13	<b>【授業単元】</b> 第14章 ソーシャルアクション 第1節 ソーシャルアクションの概念とその意義 第2節 コミュニティ・オーガナイズング <b>【到達目標】</b> ・事例を通じて、ソーシャルアクションの基本を理解する ・ソーシャルアクションの意義を理解する ・コミュニティ・オーガナイズングの実例を学ぶ ・ソーシャルワークにおけるコミュニティ・オーガナイズングの系譜を理解する			
6	<b>【授業単元】</b> 第8章 ソーシャルワークの面接 第1節 面接の意義と目的 第2節 面接の方法と実際 <b>【到達目標】</b> ・日常会話と面接の特徴の違いを理解する ・ソーシャルワークにおける面接の意義、目的を理解する ・ソーシャルワーク面接の形態や手段、場所の多様性、基本的留意点を理解する ・具体的な面接技法を理解する				14	<b>【授業単元】</b> 第15章 スーパービジョンとコンサルテーション 第1節 スーパービジョンの意義、目的、方法 第2節 コンサルテーションの意義、目的、方法 <b>【到達目標】</b> ・スーパービジョンの意義、目的、機能について理解する ・スーパービジョンの方法について理解する ・コンサルテーションの意義と目的、方法について理解する ・コンサルテーションとスーパービジョンの違いを理解する			
7	<b>【授業単元】</b> 第9章 ソーシャルワークの記録 第1節 記録の意義と目的 第2節 記録の内容 第3節 記録のフォーマット <b>【到達目標】</b> ・専門職として記録を作成する意義と目的を理解する ・専門職の記録に求められる倫理的責任、求められる内容を理解する ・さまざまな記録のフォーマットを学ぶ ・根拠ある記録の書き方のポイントを学ぶ				15	<b>【授業単元】</b> 定期試験 解説及び後期学習内容の振り返り(まとめ) <b>【到達目標】</b> ・後期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、後期学習目標の達成度を振り返り、国家試験に向けて具体的な取り組みを考える			
8	<b>【授業単元】</b> 中テスト 解説および学習内容の振り返り <b>【到達目標】</b> ・後期第1～7回の学習内容から出題 ・中テスト解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する ・国家試験対策(演習問題)				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
ソーシャルワーカーとして実践に携わるには、さまざまな知識を学ぶ必要があります。まずは、ソーシャルワーカーとして考え、語り、行動する際よりどころとなる理論的知識を学ぶことから始まります。他の科目で学習した知識と相互に関連付けて理解を深めていきましょう。									

## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	原田悟史・山崎亮太	
学科	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルワーカーの価値と役割を知り、基礎となる倫理観を説明することができる</li> <li>・ソーシャルワーカーの価値観のもと、クライアントが抱えている課題を客観的・分析的に捉える視点や、それに応じた面談技術の基本を習得することができる</li> <li>・演習授業を通じて、将来同じ分野の仕事を目指す他者と連携、協働することができる</li> </ul>								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
医療・障害・高齢分野にてソーシャルワークを実践してきた教員が、ソーシャルワーカーの基礎となるマインドや対人援助技術をペアワーク、グループワークを中心に実践的な授業を実施する								
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】			
毎回Teams上でレジュメを配布 PC・タブレット等のTeamsを閲覧できるデバイス					他科目で学んだ内容を演習授業にて多角的に体现できるよう、ソーシャルワーカーに必要な基礎知識を復習すること			
	授業計画				コマ	授業計画		
1	【授業単元】 オリエンテーション	【到達目標】 ・「演習」のねらいと進め方について理解する ・ペア・グループワークでのルールを知る ・他者の意見や考えに耳を傾けることができる	9	【授業単元】 面談の基本技法① 個人の価値観とSWの専門職としての価値観	【到達目標】 ・個人の価値観とSWの専門職の価値観の相違を説明することができる	10	【授業単元】 面談の基本技法② 「言語」コミュニケーションと「非言語」コミュニケーションの活用	【到達目標】 ・言語・非言語コミュニケーションについて理解し、非言語の箇所の背景とその後の反応について考えることができる
	【授業単元】 ソーシャルワーカーの使命と役割			【授業単元】 面談の基本技法③ 信頼関係構築に向けた適切な質問技法				
2	【授業単元】 ソーシャルワーカーの「倫理」	【到達目標】 ・ソーシャルワーカーとしての「価値観」を説明することができる ・ソーシャルワーカーが活躍する場所と役割を知ることができる	11	【授業単元】 面談の基本技法④ 「言い換え」と「要約」	【到達目標】 ・相手の発した言葉を別の言葉に言い換えることができる ・相手の発した言葉を要約し、不明確な場合には明確化することができる	12	【授業単元】 自己理解と自己覚知①	【到達目標】 ・現時点での自分の価値観を説明することができる
	【授業単元】 自己理解と自己覚知②			【授業単元】 定期試験①				
3	【授業単元】 自己理解と自己覚知①	【到達目標】 ・自らがもつ感情を客観的に捉え、相談援助の専門職の視点で考えることができる	13	【授業単元】 感情の理解	【到達目標】 グループで模擬インテーク面談を実践する(15分×4グループ)	14	【授業単元】 他社理解① 基本的なコミュニケーション技術「受容」「傾聴」「共感」の活用	【到達目標】 ・主観的情報と客観的情報を分けて考え、相手の良さや強みを発見することができる
	【授業単元】 感情の理解			【授業単元】 定期試験②				
4	【授業単元】 他社理解① 基本的なコミュニケーション技術「受容」「傾聴」「共感」の活用	【到達目標】 ・主観的情報と客観的情報を分けて考え、相手の良さや強みを発見することができる	15	【授業単元】 模擬インテーク面談の振り返り	【到達目標】 模擬インテーク面談を振り返り、面談時における良い点と改善点を考え、次年度以降の実習に活かすことができる	8	【授業単元】 他社理解② 他者をより深く知る手法	【到達目標】 ・クライアントの置かれている状況、課題、ストレスを考えることができる
	【授業単元】 他社理解② 他者をより深く知る手法			【成績評価の方法と基準】				
5	【授業単元】 他社理解② 他者をより深く知る手法	【到達目標】 ・クライアントの置かれている状況、課題、ストレスを考えることができる	8	【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テスト(模擬面談)を60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験はグループごとに模擬面談をおこない、採点する ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【履修に当たっての心構え・留意点】 他科目で学んだ内容も含み、科目横断的に授業を展開していきますので、復習をしましょう。							

## 授 業 概 要

科目名	現代の精神保健の課題と支援	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	福井博一		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
次の2点を目標とする。 ①精神保健福祉士として、さまざまな精神保健の課題について理解し、説明することができる。 ②あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に対して、精神保健福祉士として支援するための知識・方法について理解し、説明することができる。									
<b>【学習内容】</b>									
精神保健福祉士・公認心理師・臨床心理士として、あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に応じてきた講師が、患者や利用者とかかわるために必要とされる、精神保健の課題と支援に関する授業を行う。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟「精神保健の課題と支援」(中央法規)					授業内容と、実習やアルバイト、自らの日常生活をつねに結び付けて考えることは、精神保健の課題と支援における立派な授業時間外学習である。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> ・オリエンテーション  <b>【到達目標】</b> ・精神保健の課題と支援の目標・予定・進め方について理解できる。 ・国家試験過去問の傾向と対策について理解することができる。 ・精神保健とは、ということについて理解し、説明することができる。				9	<b>【授業単元】</b> ・中テスト返却と講評 ・精神保健における家族の課題と支援～その1～  <b>【到達目標】</b> ・返却・講評された中間試験を振り返り、後半の課題を明確にすることができる。 ・児童虐待の現状と対策について理解し、説明することができる～その1～。			
2	<b>【授業単元】</b> ・精神保健の概要と課題～その1～  <b>【到達目標】</b> ・対人援助における想像力について理解し、説明することができる。				10	<b>【授業単元】</b> ・精神保健における家族の課題と支援～その2～  <b>【到達目標】</b> ・児童虐待の現状と対策について理解し、説明することができる～その2～。			
3	<b>【授業単元】</b> ・精神保健の概要と課題～その2～  <b>【到達目標】</b> ・社会・時代の変化と精神保健の課題の変化について考え、理解し、説明することができる。				11	<b>【授業単元】</b> ・精神保健における家族の課題と支援～その3～  <b>【到達目標】</b> ・思春期の家族関係・友人関係・恋愛関係について理解し、説明することができる。 ・自らの人間関係にについて振り返ることができる。			
4	<b>【授業単元】</b> ・精神保健の概要と課題～その3～  <b>【到達目標】</b> ・社会的孤立の問題について理解し、説明することができる。				12	<b>【授業単元】</b> ・精神保健における家族の課題と支援～その4～  <b>【到達目標】</b> ・性と心の結びつきについて理解し、説明することができる。 ・精神保健における性行動への対応について理解し、説明することができる。			
5	<b>【授業単元】</b> ・精神保健の概要と課題～その4～  <b>【到達目標】</b> ・社会的貧困の問題について理解し、説明することができる。				13	<b>【授業単元】</b> ・精神保健における家族の課題と支援～その5～  <b>【到達目標】</b> ・性別違和について理解し、説明することができる。 ・性別違和の当事者の生きづらさとその支援について理解し、説明することができる。			
6	<b>【授業単元】</b> ・精神保健の概要と課題～その5～  <b>【到達目標】</b> ・精神保健の課題と支援の歴史について理解し、説明することができる。				14	<b>【授業単元】</b> ・精神保健における家族の課題と支援～その6～  <b>【到達目標】</b> ・結婚に関する意識調査に基づく結婚観の変化について理解し、説明することができる。 ・結婚により生じる精神保健の問題について理解し、説明することができる。			
7	<b>【授業単元】</b> ・精神保健の概要と課題～その6～  <b>【到達目標】</b> ・エリクソンのライフサイクルについて理解し、説明することができる。 ・各発達段階の課題について理解し、説明することができる。				15	<b>【授業単元】</b> ・定期試験  <b>【到達目標】</b> ・前期14回の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。			
8	<b>【授業単元】</b> ・中テスト  <b>【到達目標】</b> ・1～7回目の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。				<b>【成績評価の方法と基準】</b> ・定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合し、A～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
・つねに現場を意識して、クライアントや利用者とうかがわかるかを想定しながら授業に参加してください。									

## 授 業 概 要

科目名	現代の精神保健の課題と支援	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	福井博一		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
次の2点を目標とする。 ①精神保健福祉士として、さまざまな精神保健の課題について理解し、説明することができる。 ②あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に対して、精神保健福祉士として支援するための知識・方法について理解し、説明することができる。									
<b>【学習内容】</b>									
精神保健福祉士・公認心理師・臨床心理士として、あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に応じてきた講師が、患者や利用者とかかわるために必要とされる、精神保健の課題と支援に関する授業を行う。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟「現代の精神保健の課題と支援」(中央法規)					授業内容と、実習やアルバイト、自らの日常生活をつねに結び付けて考えることは、精神保健の課題と支援における立派な授業時間外学習である。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> ・オリエンテーション ・精神保健における学校教育の課題と支援～その1～  <b>【到達目標】</b> ・後期後半の授業の目的・予定について理解することができる。 ・現代の学校教育における諸課題について理解し、説明することができる。				9	<b>【授業単元】</b> ・中テスト返却と講評 ・精神保健における職場の課題と支援～その1～  <b>【到達目標】</b> ・職場における勤労者のストレスについて理解し、説明することができる～その1～。			
2	<b>【授業単元】</b> ・精神保健における学校教育の課題と支援～その2～  <b>【到達目標】</b> ・いじめの問題とその対策について理解し、説明することができる。				10	<b>【授業単元】</b> ・精神保健における職場の課題と支援～その2～  <b>【到達目標】</b> ・職場における勤労者のストレスについて理解し、説明することができる～その2～。			
3	<b>【授業単元】</b> ・精神保健における学校教育の課題と支援～その3～  <b>【到達目標】</b> ・学校における暴力問題について理解し、説明することができる。 ・非行問題について理解し、説明することができる。				11	<b>【授業単元】</b> ・精神保健における職場の課題と支援～その3～  <b>【到達目標】</b> ・過労死の問題と対策について理解し、説明することができる。			
4	<b>【授業単元】</b> ・精神保健における学校教育の課題と支援～その4～  <b>【到達目標】</b> ・子どもの自殺とその対策について理解し、説明することができる。				12	<b>【授業単元】</b> ・精神保健における職場の課題と支援～その4～  <b>【到達目標】</b> ・職場における4つのケアについて理解し、説明することができる。			
5	<b>【授業単元】</b> ・精神保健における学校教育の課題と支援～その5～  <b>【到達目標】</b> ・教職員の精神疾患の現状について理解し、説明することができる。 ・教職員の支援について理解し、説明することができる。				13	<b>【授業単元】</b> ・精神保健における職場の課題と支援～その5～  <b>【到達目標】</b> ・事業場における勤労者のメンタルヘルス対策について理解し、説明することができる。			
6	<b>【授業単元】</b> ・精神保健福祉士として働くということとお金について～その1～  <b>【到達目標】</b> ・現代社会において対人援助職者として働き、報酬を得るということについて理解し、説明することができる～その1～。				14	<b>【授業単元】</b> ・精神保健における諸課題と支援  <b>【到達目標】</b> ・緩和ケアについて理解し、説明することができる。			
7	<b>【授業単元】</b> ・精神保健福祉士として働くということとお金について～その2～  <b>【到達目標】</b> ・現代社会において対人援助職者として働き、報酬を得るということについて理解し、説明することができる～その2～。				15	<b>【授業単元】</b> ・定期試験  <b>【到達目標】</b> ・後期14回の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。			
8	<b>【授業単元】</b> ・中テスト  <b>【到達目標】</b> ・1～7回目の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。				<b>【成績評価の方法と基準】</b>				
					・定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合し、A～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
つねに現場を意識して、クライアントや利用者とうかがわかるかを想定しながら授業に参加してください。									

# 授 業 概 要

科目名	精神保健福祉の原理	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	安部 直美		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間

**【授業を通じての到達目標】**

下記7点を、本科目の到達目標とする。

①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み(理念・視点・関係性)について理解する。②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容を踏まえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。④精神障害者への関わりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。⑤現在の精神保健福祉士の基本的枠組み(理念・視点・関係性)と倫理綱領に基づく職責について理解する。⑥精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。⑦近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。

**【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)**

精神保健福祉士として急性期の総合病院で医療ソーシャルワーカーの実務にあたってきた教員が、ソーシャルワーカーとして基盤となる価値観や理念について現場での体験やエピソードを交えながら具体的にわかりやすく伝える授業を行う

**【使用教科書・教材・参考図書】**

最新 精神保健福祉士養成講座5  
精神保健福祉の原理 中央法規

**【授業時間外における学習】**

授業中に行なった問題(実際の国家試験で出題された問題や過去の模擬試験から引用)や資料を用いて復習を行う。

コマ	授業計画	コマ	授業計画
1	<p>【授業単元】 講義オリエンテーション</p> <p>【到達目標】 『精神保健福祉の原理』の授業の目的について説明できる。 精神保健福祉士がどのような仕事をするのかイメージすることができる。</p>	9	<p>【授業単元】 精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造①</p> <p>【到達目標】 諸外国における精神障害者排除の歴史的事実について説明することができる。</p>
2	<p>【授業単元】 障害者福祉の理念と歴史的展開①</p> <p>【到達目標】 「障害」とは何かを考え、「障害者福祉の理念がどのように変遷してきたのかを説明することができる。</p>	10	<p>【授業単元】 精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造②</p> <p>【到達目標】 精神障害者の人権保障に関する国際的な取り組みについて説明することができる。</p>
3	<p>【授業単元】 障害者福祉の理念と歴史的展開②</p> <p>【到達目標】 日本において、精神障害者福祉がどのように展開されてきたのか概要を説明することができる。</p>	11	<p>【授業単元】 精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造③</p> <p>【到達目標】 明治以降の日本において、精神障害者に係る施策の動向に影響を与えた各種事件の概要を理解し説明することができる。</p>
4	<p>【授業単元】 精神障害と精神障害者の概念①</p> <p>【到達目標】 各制度における「精神障害者」の定義を説明し、「精神障害者」の定義の変遷について説明することができる。</p>	12	<p>【授業単元】 精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造④</p> <p>【到達目標】 近年の日本において、精神障害者に係る施策の動向に影響を与えた各種事件の概要を理解し説明することができる。</p>
5	<p>【授業単元】 精神障害と精神障害者の概念②</p> <p>【到達目標】 国際生活機能分類(ICF)とは何か、説明することができる。</p>	13	<p>【授業単元】 精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造⑤</p> <p>【到達目標】 精神障害者に係る「排除」や「社会的障壁」とは何なのかを考え、生み出す要因と構造を考察することができる。 精神障害者に係る「排除」や「社会的障壁」を除去するために何ができるのかを考え説明することができる。</p>
6	<p>【授業単元】 精神障害と精神障害者の概念③</p> <p>【到達目標】 精神障害について構造的に理解し、精神障害の障害特性について、生活場面を想定しながら具体的に説明することができる。</p>	14	<p>【授業単元】 前期の総復習</p> <p>【到達目標】 各単元の重要ポイントを再度確認することで、定期試験に向けての準備を開始することができる</p>
7	<p>【授業単元】 精神障害と精神障害者の概念④</p> <p>【到達目標】 精神障害に対する近年の世の中の動向について理解し、説明することができる。</p>	15	<p>【授業単元】 定期試験 定期試験解説</p> <p>【到達目標】 前期に学習した内容を踏まえ定期テストへの準備、当日の受験、答え合わせを通して自身の中に定着させる。また、その振り返りを通して後期の学習への意欲を持つ。</p>
8	<p>【授業単元】 1～7回までの授業の総復習 中テスト及び中テスト解説</p> <p>【到達目標】 1～7回までの総復習を行い、授業内容を踏まえた中テストを実施することで、「精神保健福祉士の主な対象となる人と社会の捉え方」に関する知識の整理と定着をはかることができる。</p>	<p><b>【成績評価の方法と基準】</b></p> <p>毎回の小テストは5点満点、中テストは15点満点とし、合計点数を2で割った点数と定期テストの60点を合計して100点満点のうちの何点かで評価する。小テスト、中テストでは記号選択式、〇×問題、記述問題などを授業の内容に応じて適宜出題する。グループワークなどで課題に取り組む場合はその完成度で評価する可能性もある。定期テストは5択の選択式問題と記述問題を組み合わせて出題する。記述問題については自由な論述を期待するが授業で学んだことを踏まえていることが大切で、その内容がソーシャルワーカーとしての視点とかけ離れている場合には減点の対象とする。</p>	

**【履修に当たっての心構え・留意点】**

精神保健福祉士の基盤を学びながら、他の人とのコミュニケーションを通じてソーシャルワークについての理解を深めることを目的としています。授業内でお互いに安心して学び合うことができるように努めます。



## 授 業 概 要

科目名	精神保健福祉の原理	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	安部 直美	
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数 60 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>								
<p>下記7点を、本科目の到達目標とする。</p> <p>①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み(理念・視点・関係性)について理解する。②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容を踏まえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。④精神障害者への関わりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。⑤現在の精神保健福祉士の基本的枠組み(理念・視点・関係性)と倫理綱領に基づく職責について理解する。⑥精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。⑦近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解する。</p>								
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>								
精神保健福祉士として急性期の総合病院で医療ソーシャルワーカーの実務にあたってきた教員が、ソーシャルワーカーとして基盤となる価値観や理念について現場での体験やエピソードを交えながら具体的にわかりやすく伝える授業を行う								
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>			
最新 精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の原理 中央法規					授業中に行った問題(実際の国家試験で出題された問題や過去の模擬試験から引用)や資料を用いて復習を行う。			
コマ	授業計画				コマ	授業計画		
1	【授業単元】 精神障害者の生活特性①				9	【授業単元】 「精神保健福祉士」の役割と機能①		
	【到達目標】 日本におけるこれまでの精神科医療が入院者に与えた影響を理解し、支援者としての関わりを考え説明することができる					【到達目標】 精神保健福祉士法の成立とその目的について説明することができる。		
2	【授業単元】 精神障害者の生活特性②				10	【授業単元】 「精神保健福祉士」の役割と機能②		
	【到達目標】 精神障害者の家族が置かれている状況とその生活実態を理解し、説明することができる					【到達目標】 精神保健福祉士の倫理綱領を理解する。 精神保健福祉士の抱えるジレンマや倫理的ジレンマについて具体的に説明することができる。		
3	【授業単元】 精神障害者の生活特性③				11	【授業単元】 「精神保健福祉士」の役割と機能③		
	【到達目標】 精神障害者の社会生活の実態を理解し、「地域での本人らしい生活」とはどのようなものなのか説明することができる					【到達目標】 精神保健福祉士の業務特性と業務指針について理解し、説明することができる。		
4	【授業単元】 精神障害者の生活特性④				12	【授業単元】 「精神保健福祉士」の役割と機能④		
	【到達目標】 近年の新たなメンタルヘルズ課題及びメンタルヘルズ課題につながる「場」や「状況」を理解し、説明することができる。					【到達目標】 精神保健福祉士の職域・職域について理解し、業務内容の実際について把握することができる。		
5	【授業単元】 精神保健福祉の原理と理念①				13	【授業単元】 総復習①		
	【到達目標】 精神保健福祉士の国家資格創設に至る経緯を知り、ソーシャルワーク専門職としての存在意義を説明することができる。					【到達目標】 各単元の重要ポイントを再度確認しつつ、過去の国家試験の問題を解いてみることを通して現在の理解度を高めることができる。		
6	【授業単元】 精神保健福祉の原理と理念②				14	【授業単元】 総復習②		
	【到達目標】 精神保健福祉士の価値・原理にはどのようなものがあるのか説明することができる。 精神保健福祉士による援助で必要とされる視野や視点について説明することができる。					【到達目標】 各単元の重要ポイントを再度確認することで、定期試験に向けての準備を開始することができる		
7	【授業単元】 精神保健福祉の原理と理念③				15	【授業単元】 定期試験 定期試験解説		
	【到達目標】 精神保健福祉士の援助における関係性の特性について説明することができる。					【到達目標】 「精神保健福祉の原理」で学習した内容を踏まえ定期テストへの準備、当日の受験、答え合わせを通して自身の中に定着させる。また、その振り返りを通して2年次の学習への意欲を持つ。		
8	【授業単元】 1～7回までの授業の総復習 中テスト及び中テスト解説				<b>【成績評価の方法と基準】</b>			
	【到達目標】 1～7回までの総復習を行い、授業内容を踏まえた中テストを実施することで、「精神障害のある人々が置かれている状況や生活実態」「そのような人々や環境に対するソーシャルワークの展開を支える精神保健福祉士の存在意義」に関して知識の整理と定着をはかることができる。				<p>毎回の小テストは5点満点、中テストは15点満点とし、合計点数を2で割った点数と定期テストの60点を合計して100点満点のうちの何点かで評価する。 小テスト、中テストでは記号選択式、○×問題、記述問題などを授業の内容に応じて適宜出題する。グループワークなどで課題に取り組む場合はその完成度で評価する可能性もある。定期テストは5択の選択問題形式により出題する。</p>			
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>								
精神保健福祉士の基盤を学びながら、他の人とのコミュニケーションを通じてソーシャルワークについての理解を深めることを目的としています。授業内でお互いに安心して学び合うことができるように努めます。								

## 授 業 概 要

科目名	情報リテラシーⅡ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	株式会社 プレーンスタッフコンサルタンツ		
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
Excelのグラフや画像・動画を取り入れた、訴求力のあるプレゼンテーションスライドを作成し発表できる Excelを用いた統計処理(関数や機能)を行って研究発表に活かせる									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
滋慶学園グループの企業である(株)プレーンスタッフコンサルタンツのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施。学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
オリジナルのe-learningテキスト					e-learningテキストで操作手順を確認し、PC操作を実践する				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 OCT入門1 情報検索とファイルとフォルダ Word差込印刷				17	【授業単元】 初級データサイエンス中テスト 振り返り プレゼンテーション応用D スライドマスター			
2	【到達目標】 知りたい情報を正確に検索できる ファイルとフォルダの違いを理解してデータを整理保管できる 差込印刷機能を利用して、アンケート依頼分や宛名ラベルを作成できる				18	【到達目標】 Excelを使用した統計処理の中テストを振り返り、正しく操作できる プレゼンテーションのスライドマスター機能を活用できる			
3	【授業単元】 Word応用 長文加工 院内ポスター作成				19	【授業単元】 AI機械学習体験 スクラッチ体験1			
4	【到達目標】 長文作成における必要な操作ができる Wordの機能を使用し色影や配色を意図して院内ポスターを作成できる				20	【到達目標】 実践を通して機械学習やスクラッチについて理解を深めることができる			
5	【授業単元】 プレゼンテーション基礎1-2				21	【授業単元】 スクラッチ2-3			
6	【到達目標】 何を伝えるかを簡潔に示したスライド作成の設計ができる レイアウト、配色等、デザインに考慮した図解を作成できる				22	【到達目標】 実践を通してスクラッチについて理解を深めることができる			
7	【授業単元】 プレゼンテーション基礎3-4				23	【授業単元】 プレゼンテーション応用A プレゼンテーション応用B			
8	【到達目標】 表の活用・図表の効果的な表現をすることができる 画像とグラフの効果的な活用ができる				24	【到達目標】 COUNTIF関数やピボットテーブルを使用したアンケート集計ができる 効果的なグラフの作成方法を理解し、活用できる			
9	【授業単元】 プレゼンテーション基礎5 プレゼンテーションⅠ 試験対策(復習問題として実施)				25	【授業単元】 プレゼン制作1-2			
10	【到達目標】 効果的なアニメーション効果の設定、データの共有方法について理解し活用できる プレゼンテーション講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる				26	【到達目標】 テーマに沿ったプレゼンテーション資料を作成できる			
11	【授業単元】 初級データサイエンス(統計編)1-2				27	【授業単元】 プレゼン制作3 プレゼンテーション試験対策			
12	【到達目標】 データの特徴を数値化できる(平均、分散、標準偏差) データの特徴を視覚化できる1(基本統計量を求める、ヒストグラムの作成)				28	【到達目標】 テーマに沿ったプレゼンテーション資料を作成できる プレゼンテーション講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる			
13	【授業単元】 初級データサイエンス(統計編)3 初級データサイエンス(統計編)試験対策				29	【授業単元】 定期試験 プレゼンテーション作成 プレゼンテーション選択問題、振り返り			
14	【到達目標】 データの特徴を視覚化できる2(散布図、相関係数を求める) 初級データサイエンス1-3で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる				30	【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、プレゼンテーション資料を作成できる プレゼンテーション資料作成時のPowerPointの操作方法を正しく選択できる			
15	【授業単元】 初級データサイエンス中テスト 統計処理実技、選択問題				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。  また、試験はPCを使用したプレゼンテーション資料作成を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
16	【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、Excelを使用した統計処理を実施できる Excel統計処理の操作方法を正しく選択できる								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
PC操作は日々繰り返すことでタイピング速度が上がり、効率的な資料作成やデータ処理が可能になります。できるだけ日常に取り入れて活用してください									

## 授業概要

科目名	高齢者福祉	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	前田 明乃		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
1、高齢者の定義と特性をふまえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する 2、高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する 3、高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する 4、高齢期における生活課題をふまえて、社会福祉士としての適切な支援の在り方を理解する									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
高齢者福祉施設、地域包括支援センターのセンター長として相談援助業務に18年間携わる。現在も、成年後見や保育事業、多世代による地域づくりのサポートに携わる経験をもつ教員が、高齢者福祉制度の歩み並びに現代における高齢者支援の実際を交えながら、社会福祉士に求められる基礎的な知識や考え方を習得する授業を行う。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
最新社会福祉士養成講座 高齢者福祉(中央法規出版) タブレット(Microsoft Teams)、授業時に配布する資料					予習・復習として、学生自身の日常生活圏等における高齢者関連の時事問題や支援制度等を意識的に情報収集し、それに対する個人の考えをまとめる。授業での発表や提出は事前通知する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 導入ガイダンス 高齢者と少子高齢社会(1)高齢者の社会的理解と身体的特性				9	【授業単元】 介護保険制度(1)制度の概要と仕組み			
	【到達目標】 ・高齢者の定義を説明できる ・ソーシャル・ネットワークとソーシャル・サポートの概念について説明できる ・高齢者の身体的特徴6つと主な疾患について説明できる ・高齢者へのアセスメントやコミュニケーションの要点を述べるができる					【到達目標】 ・介護保険制度の目的・理念と改正の背景ならびに方向性を説明できる ・財源構成と費用負担構造を説明できる ・国、都道府県、市町村の役割と被保険者の対象要件を説明できる			
2	【授業単元】 高齢者と少子高齢社会(2)高齢者の精神的特性				10	【授業単元】 介護保険制度(2)制度利用の仕組み			
	【到達目標】 ・精神機能の老化と高齢期における精神障害の特性を説明できる ・認知症の定義および代表的な4つの認知症について主な症状とケア方法を説明できる ・老年期うつ病の特徴と留意点を説明できる					高齢者の介護実態 ・要介護(要支援)認定の仕組みとプロセスを説明できる ・介護認定審査会と介護保険審査会の違いを説明できる ・介護給付と予防給付、市町村特別給付の違いを説明できる ・介護報酬と利用者の費用負担について説明できる			
3	【授業単元】 高齢者を取り巻く社会環境				11	【授業単元】 介護保険制度(3)地域支援事業			
	【到達目標】 ・高齢化率の水準と推移をふまえ、日本の高齢化の状況について説明できる ・世帯構成の変化に伴う家族の役割や介護問題について説明できる ・近年の家族介護に関する代表的な3つの問題に対するソーシャルワーカーの役割を説明できる					【到達目標】 ・地域支援事業の目的と体系を整理し、介護予防から総合事業への移行を説明できる ・地域包括支援センターの設置目的や設置体制を説明できる ・地域包括支援センターの業務内容と三職種の役割を説明できる			
4	【授業単元】 高齢者の生活実態				12	【授業単元】 介護保険制度(4)介護保険サービスの体系			
	【到達目標】 ・高齢者の所得状況と経済的問題、就労の実態について説明できる ・高齢者雇用安定法の概要を説明できる ・平均寿命の変化と健康寿命、要介護者数の推移を述べるができる ・高齢者の生活実態における課題と必要な支援について述べるができる					【到達目標】 ・居宅サービス、介護予防サービスを具体的に2つ以上挙げることができる ・地域密着型サービスの特徴と具体的なサービスを2つ以上説明できる ・介護保険3施設の特徴を説明できる			
5	【授業単元】 専門職の役割と支援の実態				13	【授業単元】 高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律(高齢者虐待防止法)			
	【到達目標】 ・フォーマルな専門職の役割を相互理解し、インフォーマルな援助者について説明できる ・個人、家族、グループ、地域へ的高齢者ソーシャルワークにおける考え方を述べるができる ・終末期ケアにおけるソーシャルワークの意義と具体的な支援方法を述べるができる					【到達目標】 ・高齢者虐待について、種別・類型ごとに傾向を説明できる ・高齢者虐待防止法の目的と特徴について説明できる ・虐待対応における支援の視点とプロセスを説明できる			
6	【授業単元】 高齢者福祉の歴史と理念(1)高齢者観と高齢者福祉の発展過程～明治から昭和中期～				14	【授業単元】 高齢者支援の関係法規			
	【到達目標】 ・高齢者観の変遷をふまえ、現代における3つの高齢者観について概念を述べるができる ・明治期の加齢規則における考え方の特徴や具体的な内容を述べるができる ・戦後の日本国憲法成立から昭和中期までの法整備について背景要因と共に説明できる					【到達目標】 ・高齢者医療確保法の概要および後期高齢者医療制度について説明できる ・日本におけるバリアフリー政策展開および法概要を説明できる ・高齢者住まい法制定に至る流れとサービス付き高齢者向け住宅の位置づけを述べるができる			
7	【授業単元】 高齢者福祉の歴史と理念(1)高齢者観と高齢者福祉の発展過程～昭和後期から平成～				15	定期試験 前期授業の振り返り			
	【到達目標】 ・ゴールドプラン～新ゴールドプラン～ゴールドプラン21 策定背景とサービス体制整備を説明できる ・介護保険制度の創設から近年の地域包括ケアシステム構築までの施策と課題を説明できる ・高齢者福祉の概念および法律にみられる高齢者福祉の理念を述べるができる					【到達目標】 ・前期授業 全範囲を対象とした筆記試験による理解度の確認 ・定期試験問題の解答解説と前期授業の振り返り			
8	【授業単元】 老人福祉法 中テスト(第1～7回までの授業範囲を出題対象とする)				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 ・老人福祉法成立の経緯と目的、理念について説明できる ・老人福祉法に基づく措置の実施権者と具体的な内容を2つ述べるができる ・老人福祉法と介護保険法の関係性、地域包括ケアの実現に向けた法改正について述べるができる								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
社会の変化や政策、動向に対して積極的に情報を取り入れる姿勢で取り組みましょう。部分的に、授業内でグループワークを取り入れ、専門職として考える力も習得できるよう進行する予定です。									

## 授 業 概 要

科目名	児童・家庭福祉	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	富永 あかり		
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<p>子どもの最善の利益を実現させるため、どのような法律や制度、アプローチ方法があるかを理解できる。</p> <p>また、現代の制度や法律等がどのような歴史の変遷を経ているかを理解した上で、現代の「子ども」「家庭」「子どもを取り巻く環境」等における様々な問題(課題)に対してどのような支援策があるかを具体的に説明できる。</p>									
【学習内容】									
<p>様々な児童福祉施設や生活保護のケースワーカー(公務員)として子どものいる家庭を支援し、現在はスクールソーシャルワーカーとして活動する教員が、教科書、レジュメ、事例検討などを活用しながら単元に沿って展開をしていく。</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
<p>3最新 社会福祉士養成講座 児童・家庭福祉 ／一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 参考文献:入門スクールソーシャルワーク論/ミネルヴァ書房</p>					<p>予習:教科書を一読してから、授業に参加すること (確認してほしいキーワードはコマシラバスに記載しますので、そこを中心に読んでおきましょう) 復習:復習クイズに答える準備をしておきましょう</p>				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 子どもの権利、子どもの命と発達				9	【授業単元】 子ども家庭福祉の実施機関			
	【到達目標】 子どもの定義を理解する。 子どもを「子ども」としてでなく「1人の人間」として捉えることができる。					【到達目標】 児童相談所等の子ども家庭福祉の実施機関の目的や業務を理解する。			
2	【授業単元】 子どもと家庭・地域 子ども家庭福祉とは				10	【授業単元】 子ども家庭福祉にかかわる関係機関・施設と利用方式			
	【到達目標】 「子どもの最善の利益」を保障するために、親や保護者の重要性を理解する。 理念・制度・方法を切り離さず、子ども家庭ソーシャルワークの全体像を理解する。					【到達目標】 児童福祉施設やその他の関係機関の目的及び役割等を理解する。			
3	【授業単元】 子ども家庭福祉に至る前の歴史をたどる 子どもの権利擁護変遷				11	【授業単元】 自分が生まれ育った地域の「子ども家庭福祉」の実施機関			
	【到達目標】 「子ども家庭福祉」支援するという考えに至るまでの歴史を知り、社会の歪みやその中で生じた問題に対処しようとした取り組みを理解する。					【到達目標】 自分が生まれ育った地域の「子ども家庭福祉」の実施機関にどのようなものがあるかを具体的に説明できる。			
4	【授業単元】 子どもを取り巻く社会環境 現代社会における課題と子育て・子育てへの影響				12	【授業単元】 子ども家庭福祉の人材と専門職			
	【到達目標】 平成以降の子ども家庭福祉の変遷を理解する。 現代社会の子どもとその家庭の現状を知り、様々な施策の改善点を考察する。					【到達目標】 子ども家庭福祉実践を行う機関や施設について理解する。 実践現場における専門職の役割と資格について理解する。			
5	【授業単元】 子ども家庭福祉の法体系				13	【授業単元】 子ども家庭福祉の計画的推進			
	【到達目標】 児童福祉六法と関連法律の概要について理解する。					【到達目標】 地域共生社会づくりと民間組織、住民との共同連帯の考え方を理解する。			
6	【授業単元】 子ども家庭福祉の実施体制				14	【授業単元】 中間テストの解説 第9回からの振り返り			
	【到達目標】 子ども家庭福祉行政の機構、国・都道府県・市町村の役割と業務を理解する。					【到達目標】 中間テストにおける重要項目を理解する。 第8回から第13回で学んだ要点を理解し、具体的に説明することができる。			
7	【授業単元】 今までの振り返り				15	【授業単元】 定期テスト			
	【到達目標】 第1回から第6回で学んだ要点を理解し、具体的に説明することができる。					【到達目標】 前期の授業における重要事項を理解し、自分がわかったこととわからなかったことを明確にすることができる。			
8	【授業単元】 中間テスト 子ども家庭福祉の財源と費用負担				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 子ども家庭福祉の財政について学び、施策の財源がどのようにまかなわれているかを理解する。				<p>講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。</p> <p>・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。</p>				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
<p>子ども家庭福祉から昔や現在の社会問題(課題)が見えてくることを踏まえた上で授業に取り組んでください。後期が発展となりますので、ノートにまとめて「見える化」しておきましょう。</p>									

## 授 業 概 要

科目名	児童・家庭福祉		必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	富永 あかり			
学科 コース	社会福祉科		学年	1年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間	
【授業を通じての到達目標】											
子どもの最善の利益を実現させるため、どのような法律や制度、アプローチ方法があるかを理解できる。 また、現代の制度や法律等がどのような歴史の変遷を経て理解した上で、現代の「子ども」「家庭」「子どもを取り巻く環境」等における様々な問題(課題)に対してどのような支援策があるかを具体的に説明できる。											
【学習内容】											
様々な児童福祉施設や生活保護のケースワーカー(公務員)として子どものいる家庭を支援し、現在はスクールソーシャルワーカーとして活動する教員が、教科書、レジュメ、事例検討などを活用しながら単元に沿って展開をしていく。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
3最新 社会福祉士養成講座 児童・家庭福祉 ／一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟 参考文献:入門スクールソーシャルワーク論/ミネルヴァ書房						予習:教科書を一読してから、授業に参加すること (確認してほしいキーワードはコマシラバスに記載しますので、そこを中心に読んでおきましょう) 復習:復習クイズに答える準備をしておきましょう					
コマ	授業計画					コマ	授業計画				
1	【授業単元】 子ども・子育て支援 子ども子育て支援にかかわる実践					9	【授業単元】 ひとり親家庭への支援、DVと女性支援 ひとり親家庭への支援にかかわる実践、女性福祉にかかわる実践				
	【到達目標】 日本の子ども・子育て支援施策の概要を理解できる。 子育て及び子育てにおいて抱えやすい困難について理解する。						【到達目標】 ひとり親が抱えがちな問題(課題)を理解できる。 DV問題、性被害や性的に搾取されている女性に対する支援を知ることができる。				
2	【授業単元】 母子保健 母子保健や医療との協働による実践					10	【授業単元】 スクールソーシャルワーク 教育との協働にかかわる実践				
	【到達目標】 母子保健法の目的や対象、様々な事業の考え方などを理解できる。 社会福祉(児童)の立場で母子保健との情報共有の意義を説明できる。						【到達目標】 学校におけるソーシャルワーカーの役割について説明できる。				
3	【授業単元】 保育 保育における実践					11	【授業単元】 少年非行、若者支援 若者の自立支援にかかわる実践				
	【到達目標】 保育に関する制度の流れや最近の動向を理解する。 保育におけるソーシャルワーク実践の意義と方法を説明できる。						【到達目標】 若者の抱える困難や課題とその背景を考え、若者が社会とかかわる重要性を説明できる。				
4	【授業単元】 要保護児童等と在宅支援 児童虐待にかかわる実践 その1					12	【授業単元】 障害のある子どもへの支援 障害児にかかわる実践				
	【到達目標】 要支援児童等とそのかかえている課題や在宅支援における他機関連携と支援のポイントについて理解できる。 子どもの利益を図ることと保護者を支援することの関係や関係機関との連携で生じる葛藤への対処について考察できる。						【到達目標】 障害児支援は、子どもを取り巻く家族や支援者への支援も重要であることを理解する。				
5	【授業単元】 児童虐待にかかわる支援 児童虐待にかかわる実践 その2					13	【授業単元】 ソーシャルアクション 当事者参画とアドボカシーに関わる実践				
	【到達目標】 児童虐待の定義と現状を理解できる。 児童虐待への対応が実際どのように行われているかを理解する。						【到達目標】 子どもが権利主体として、意見や思いが聴かれることの重要性について述べるることができる。				
6	【授業単元】 社会的養護 社会的養護にかかわる実践					14	【授業単元】 中間テストの解説 第9回からの振り返り				
	【到達目標】 社会的養護の仕組みを理解する。 社会的養護における権利擁護を理解する。 子どもが社会的養護に至るプロセス、その後のケア、家族再統合の支援を理解できる。						【到達目標】 中間テストにおける重要項目を理解する。 第8回から第13回で学んだ要点を理解し、具体的に説明することができる。				
7	【授業単元】 今までの振り返り					15	【授業単元】 定期テスト				
	【到達目標】 第1回から第6回で学んだ要点を理解し、具体的に説明することができる。						【到達目標】 後期の授業における重要事項を理解し、自分がわかったこととわからなかったことを明確にすることができる。				
8	【授業単元】 中間テスト / 子ども家庭福祉におけるソーシャルワーク、子ども家庭福祉におけるアセスメント					【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。					
	【到達目標】 介入と支援の意味、調査の基本を理解できる。 アセスメントの基本と子ども家庭福祉において特に重視すべき支援を理解できる。					・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】											
子ども家庭福祉から昔や現在の社会問題(課題)が見えてくることを踏まえた上で授業に取り組んでください。後期が発展となりますので、ノートにまとめて「見える化」しておきましょう。											

授 業 概 要

科目名	貧困に対する支援	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	吉成 孝夫	
学科 コース	社会福祉科	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
①貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。 ②貧困の歴史と貧困観の変遷について理解する。 貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解する。 困による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。								
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
福祉事務所などでの行政事務経験はないが、2008年12月の年越し派遣村の活動や、墨田区でボランティアとして、ホームレス支援活動に参加した経験がある。貧困や格差問題の解決は今や日本社会の最重要課題である。問題を抱える人々の視点からこれらの問題に接近する態度を共に学びたい								
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】			
最新 社会福祉士養成講座 4貧困に対する支援(中央法規)					・必ず学習プリントを読み返し、授業の振り返りを行う ・小テストは何度も復習し直し定着を図る			
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	【授業単元】 授業オリエンテーション			9	【授業単元】 生活保護の財源と予算(教科書第4章第8節)			
	【到達目標】 ①本講座で具体的に何を学ぶのかを理解し、学習意欲が持てるようになる ②日本及び諸外国の公的扶助制度を概観する中で、公的扶助の概念を理解する ③公的扶助制度と社会保険制度の違いを理解する				【到達目標】 ①生活保護費の基本的性格を理解する ②生活保護費に関する費用を理解する ③国家予算と保護費の関係を理解する			
2	【授業単元】 貧困・低所得者問題と社会的排除(教科書第2章)			10	【授業単元】 最低生活保障水準と生活保護基準(教科書第5章)			
	【到達目標】 ①貧困・低所得とは何か(概念定義)を生活および社会階層の観点から理解する ②貧困の定義および社会的排除に関して欧米の研究結果と貧困の実態調査を理解する ③現代における貧困・低所得者問題の諸相について理解する				【到達目標】 ①最低生活保障水準の考え方を理解する ②生活保護基準について理解する ③最低生活および生活保護最低基準の実態を学ぶ			
3	【授業単元】 公的扶助制度の歴史①—欧米—(教科書第3章・第1節)			11	【授業単元】 生活保護の動向(教科書第6章)			
	【到達目標】 ①イギリスを中心に旧救貧法制定の背景と内容及び社会構造上の意義について理解する ②1834年の新救貧法の歴史的背景とその内容及びその影響について学ぶ 資本主義経済体制の進展の中で、貧困問題の解決に救貧法では解決できず、やがて様々な要因の下で、公的扶助が誕生し、さらに現代的展開を理解する				【到達目標】 ①被保護者の数及び被保護世帯数の最近の動向を理解する ②保護の開始及び休止について最近の動向を理解する ③特に医療扶助・介護扶助の最近の動向について理解する			
4	【授業単元】 公的扶助制度の歴史②—日本—(教科書第3章・第2節)			12	【授業単元】 生活保護の運営・実施体制(教科書第8章)			
	【到達目標】 ①日本近代史における救貧法の歴史の変遷とその内容を理解する ②第二次世界大戦後の生活保護法の制定とその内容及び意義について理解する ③近年の貧困問題の深刻化に伴う生活保護法の改正について理解する				【到達目標】 ①中央政府・地方府県の役割を理解する ②福祉事務所の役割を理解する ③社会福祉主事の役割を理解する			
5	【授業単元】 公的扶助の役割と意義(教科書第1章第2節)			13	【授業単元】 低所得者対策の概要①(教科書第7章第1節～第3節pp163～186)			
	【到達目標】 ①社会保障体系の中の公的扶助の位置と役割を理解する ②セーフティネット機能としての公的扶助の意義を理解する ③ナショナルミニマムとしての公的扶助の意義と役割を理解する				【到達目標】 ①生活困窮者自立支援法の概要とその事業について理解する ②生活福祉資金制度の成立過程とその概要について理解する ③社会手当制度の沿革および内容について理解する			
6	【授業単元】 生活保護制度の仕組み①(第4章第1節～第2節)			14	【授業単元】 貧困・低所得者に対する相談援助活動(教科書第9章)			
	【到達目標】 ①生活保護法の目的を理解する ②生活保護法の基本原則を理解する ③保護の原則を理解する				【到達目標】 ①生活保護制度における相談援助活動の特徴とプロセスを理解する ②多職種との連携・協同について理解する ③相談援助活動の具体例を通して実際の援助例を学び理解を深める。			
7	【授業単元】 保護の種類・内容・方法及び保護施設(第4章第3節～第4節)			15	【授業単元】 定期試験 振り返りおよび定期試験問題の解答解説			
	【到達目標】 ①生活扶助をはじめとした8種類の扶助について理解する ②生活保護における方法の意味を理解する ③保護施設の種類と種類及び主な役割を理解する				【到達目標】 これまで学んだ知識を試験問題に取り組み中で定着させる			
8	【授業単元】 被保護者の権利と義務(教科書第4章第5節～第7節)			【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 ①被保護者の権利と義務を理解する ②いわゆる不正受給問題についての実態を調べ、どうあるべきかを学ぶ ③不服申し立て及び行政事件訴訟について理解する			科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】								
勉強は何よりも言葉の定義から始まるので、絶えずわからない言葉が出てきたら、国辞典などを利用して意味内容を理解するよう努めてください。また、漫然と勉強するのではなく、日々の出来事と結び付け、疑問を持つように訓練することが大切です。								

## 授 業 概 要

科目名	地域連携プログラム指導	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年	担当 教員	安部直美・小島 修		
学科 コース	心理カウンセラー科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
地域連携プログラムや学校行事に関連した準備や振り返りを行うとともに、そのプロセスにおいて既習内容と関連させる。									
<b>【学習内容】</b> (どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
福祉専門職育成に携わる教員が、当プログラムの目的及び実習に関する基本的なマナーについて指導をするとともに、学校行事に学生が主体的な姿勢で参加できるようにファシリテートを行う。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
適宜資料を配布するとともに、各自の取り組む内容に関連するWEBサイトや教科書を参照すること。					実習内容の振り返りとともに、関連する内容についての主体的な調べ学習やボランティアの参加を要する。				
<b>授業計画</b>									
<b>【地域連携プログラムの実習内容の振り返りとシェア】</b>									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習プログラム参加に際して、日誌記入の仕方、実習先での利用者・職員との基本的な関わり方等について最低限必要なことを理解するとともに、状況に応じた行動ができるようになる。</li> <li>・実習プログラムにおいて日々体験した内容を言語化し、クラス内シェアをするとともに、他の学生の活動や気づきにふれ、次回の行動につなげていく。</li> </ul>									
<p>☆その他のプログラムについて</p> <p>スポーツ大会に向けた活動及び振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツフェスティバルの目的と身につける力を理解し、主体的に参加できるようになる。</li> <li>・クラスプレゼンテーションを学生が主体となって企画するとともに、その準備や練習に取り組む。</li> <li>・参加競技や役割について、各自の強みを生かし取り組むことに留意するとともに、合意形成の手順を理解する。</li> <li>・実施後の振り返りを行い、今後の学校生活や就職後の仕事につながる行動に生かす。</li> </ul> <p>学園祭に向けた活動及び振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学園祭の目的を理解し、その目的や意識して行動ができるようになる。</li> <li>・他学年や他学科、教員、外部機関等と連携してイベントを構築していくにあたり、必要な視点を知りスキルを磨く。</li> <li>・地域住民にソーシャルワーカーの役割について理解を得るために必要なことを考える。</li> <li>・実施後の振り返りを通して、ソーシャルワーカーとして地域にいかに関与していく必要があるかについて考える素地を得る。</li> </ul>									
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>					<b>【成績評価の方法と基準】</b>				
グループワークやペアワーク等で、主知的な姿勢で課題解決に臨む姿勢を求める。					記述試験とする。 成績の評価については、学則に準ずる。				

## 授 業 概 要

科目名	地域連携プログラム	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年	担当 教員	安部直美・小島 修		
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	8 単位	総時間数	240 時間
【授業を通じての到達目標】									
地域における社会福祉・精神保健福祉領域の多様な対象の支援に必要な基礎を、講義・演習科目と福祉現場体験を通して身につける。 3年次の「相談援助実習」、4年次の「精神保健福祉援助実習」の学びを補完、強化し、卒業研究の学びにつなげるのオリジナルプログラムとして行う。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
福祉専門職育成に携わる教員が、当プログラムの目的及び実習に関する基本的なマナーについて指導をする。合わせて、各事業所における現場職員が、実習機会を提供し、利用者理解と事業所理解に資する技術・知識について指導を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
適宜資料を配布するとともに、各自の取り組む内容に関連するWEBサイトや教科書を参照すること。					実習内容の振り返りとともに、関連する内容についての主体的な調べ学習やボランティアの参加を要する。				
授 業 計 画									
<p><b>社会福祉・精神保健福祉領域に特化した施設実習プログラム</b></p> <p>1年次授業で学んだ知識・技術を、その実習先において必要な援助に変換して実践する。(スペシフィックソーシャルワークの実践)</p> <p>★ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別支援計画を立案する力につなげるコミュニケーション力の強化</li> <li>・3年次の「相談援助実習」、4年次の「精神保健福祉援助実習」に向けた記録のトレーニング</li> </ul> <p>★取り組む内容</p> <p>基本的なコミュニケーション／人間形成／利用者理解</p> <p>★プログラム内容</p> <p>社会福祉・精神保健福祉分野等の協力施設での現場体験(実習)</p> <p>★実施日程</p> <p>原則木曜日</p> <p>※前・後期は異なる事業所</p> <p>※後期は、前期内容を踏まえた上で、精神保健福祉領域や各施設の抱えている課題を自発的に発見し、その課題を解決する考え方・姿勢を持ち、限られた時間内にて最善の解決方法を模索する。</p> <p>活動を通した振り返り・活動報告会</p> <p>事業所実習プログラムで取り組んだ内容については、後期終了時に活動報告会にてプレゼンテーションを行う。</p>									
【履修に当たっての心構え・留意点】					【成績評価の方法と基準】				
実習時には感染症予防等もふまえ、体調管理に留意する必要がある。 また、主体的な姿勢で課題解決に臨む姿勢を求める。					日誌、月報及び活動報告会のプレゼンテーション及び個人の振り返りを通して評価を行う。 評価の基準等は学則に準ずる。				



## 授 業 概 要

科目名	情報リテラシーⅡ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	株式会社 プレーンスタッフコンサルタンツ		
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
Excelのグラフや画像・動画を取り入れた、訴求力のあるプレゼンテーションスライドを作成し発表できる Excelを用いた統計処理(関数や機能)を行って研究発表に活かせる									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
滋慶学園グループの企業である(株)プレーンスタッフコンサルタンツのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施。学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
オリジナルのe-learningテキスト					e-learningテキストで操作手順を確認し、PC操作を実践する				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 ・ 2	【授業単元】 CCT入門1 情報検索とファイルとフォルダ Word差込印刷				17 ・ 18	【授業単元】 初級データサイエンス中テスト 振り返り プレゼンテーション応用D スライドマスター			
	【到達目標】 知りたい情報を正確に検索できる ファイルとフォルダの違いを理解してデータを整理保管できる 差込印刷機能を利用して、アンケート依頼分や宛名ラベルを作成できる					【到達目標】 Excelを使用した統計処理の中テストを振り返り、正しく操作できる プレゼンテーションのスライドマスター機能を活用できる			
3 ・ 4	【授業単元】 Word応用 長文加工 院内ポスター作成				19 ・ 20	【授業単元】 AI機械学習体験 スクラッチ体験1			
	【到達目標】 長文作成における必要な操作ができる Wordの機能を使用し色彩や配色を意識して院内ポスターを作成できる					【到達目標】 実践を通して機械学習やスクラッチについて理解を深めることができる			
5 ・ 6	【授業単元】 プレゼンテーション基礎1-2				21 ・ 22	【授業単元】 スクラッチ2-3			
	【到達目標】 何を伝えるかを簡潔に示したスライド作成の設計ができる レイアウト、配色等、デザインに考慮した図解を作成できる					【到達目標】 実践を通してスクラッチについて理解を深めることができる			
7 ・ 8	【授業単元】 プレゼンテーション基礎3-4				23 ・ 24	【授業単元】 プレゼンテーション応用A プレゼンテーション応用B			
	【到達目標】 表の活用・図表の効果的な表現をすることができる 画像とグラフの効果的な活用ができる					【到達目標】 COUNTIF関数やピボットテーブルを使用したアンケート集計ができる 効果的なグラフの作成方法を理解し、活用できる			
9 ・ 10	【授業単元】 プレゼンテーション基礎5 プレゼンテーションⅠ 試験対策(復習問題として実施)				25 ・ 26	【授業単元】 プレゼン制作1-2			
	【到達目標】 効果的なアニメーション効果の設定、データの共有方法について理解し活用できる プレゼンテーション講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる					【到達目標】 テーマに沿ったプレゼンテーション資料を作成できる			
11 ・ 12	【授業単元】 初級データサイエンス(統計編)1-2				27 ・ 28	【授業単元】 プレゼン制作3 プレゼンテーション試験対策			
	【到達目標】 データの特徴を数値化できる(平均、分散、標準偏差) データの特徴を視覚化できる1(基本統計量を求める、ヒストグラムの作成)					【到達目標】 テーマに沿ったプレゼンテーション資料を作成できる プレゼンテーション講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる			
13 ・ 14	【授業単元】 初級データサイエンス(統計編)3 初級データサイエンス(統計編)試験対策				29 ・ 30	【授業単元】 定期試験 プレゼンテーション作成 プレゼンテーション選択問題、振り返り			
	【到達目標】 データの特徴を視覚化できる2(散布図、相関係数を求める) 初級データサイエンス1-3で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる					【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、プレゼンテーション資料を作成できる プレゼンテーション資料作成時のPowerPointの操作方法を正しく選択できる			
15 ・ 16	【授業単元】 初級データサイエンス中テスト 統計処理実技、選択問題				【成績評価の方法と基準】 〃科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。  また、試験はPCを使用したプレゼンテーション資料作成を行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、Excelを使用した統計処理を実施できる Excel統計処理の操作方法を正しく選択できる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
PC操作は日々繰り返すことでタイピング速度が上がり、効率的な資料作成やデータ処理が可能になります。できるだけ日常に取り入れて活用してください									

授業概要

科目名	スクールソーシャルワーク論	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	長田 美穂		
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
* 学校の管理運営制度や学校生活との関連において、スクールソーシャルワーカーに求められる倫理と役割を身につけることができる。 * スクールソーシャルワーカーに求められる総合的な技能習得を目指す。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
精神保健福祉士・公認心理師・保育士の国家資格を持ち、心理学分野の論文で博士(学術)を取得している。現在はスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを兼務しており、専門学校・大学での講師経験を持つ教員が実際のスクールソーシャルワークの事例をふまえながら授業を展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教員作成の資料を使用する。 参考図書: ●「新スクールソーシャルワーク論：子どもを中心に考えた理論と実践」山下美三郎ら編、学苑社 ●「雄たれやく子どもたち」水谷修著、日本評論社					授業後は、内容を整理し、ノートにまとめる。またニュースなどで最近の子どもたちに関わる問題や学校の状況について敏感になっておきましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 シラバスと授業の説明	【到達目標】 スクールソーシャルワークとは何かを説明できる。			9	【授業単元】 児童・生徒が抱える福祉的課題3(特別な支援が必要な子どもたちの理解)	【到達目標】 特別な支援が必要な子どもたちについて説明できる。		
	【到達目標】								
2	【授業単元】 日本におけるスクールソーシャルワークのあゆみ	【到達目標】 日本のスクールソーシャルワークの歴史を理解する。			10	【授業単元】 学校におけるマイノリティの子どもたちの理解(LGBTQ、虐待を受けていた子ども、外国籍の子ども)	【到達目標】 ①虐待を受けていた子どもたちへの支援方法、②子どもたちのジェンダーの問題で理解できたこと、LGBTQの子どもたちへ支援したいこと、③外国籍の子どもたちへのSSWとしての支援方法、について説明できる。		
	【到達目標】								
3	【授業単元】 教育相談とスクールソーシャルワークの関係について	【到達目標】 スクールソーシャルワーカーと教育相談の関わりの説明ができる。			11	【授業単元】 日本の教育制度と教育行政1	【到達目標】 公教育費の現状について説明できる。		
	【到達目標】								
4	【授業単元】 児童・生徒を取り巻く地域の現状—遊び場や子ども会など	【到達目標】 地域における子どもの居場所について説明できる。			12	【授業単元】 日本の教育制度と教育行政2	【到達目標】 教職員や教育委員会の役割を説明できる。		
	【到達目標】								
5	【授業単元】 児童・生徒を取り巻く学校の現状	【到達目標】 学校教育法について理解し、学校の現状について説明できる。			13	【授業単元】 スクールソーシャルワークの倫理と価値	【到達目標】 バイステイックの7原則も含めて、スクールソーシャルワークの倫理と価値について理解できる。		
	【到達目標】								
6	【授業単元】 児童・生徒が抱える福祉的課題1(不登校・いじめ)	【到達目標】 不登校やいじめの現状について把握し、その対策なども説明できる。			14	【授業単元】 諸外国のスクールソーシャルワークの役割	【到達目標】 諸外国のスクールソーシャルワークを理解できる。		
	【到達目標】								
7	【授業単元】 児童・生徒が抱える福祉的課題2(児童虐待・外国人児童生徒の就学問題など)	【到達目標】 子ども発達にどのような影響を及ぼすのか説明できる。			15	【授業単元】 定期試験、振り返り	【到達目標】 今までの授業の本質的な理解		
	【到達目標】								
8	【授業単元】 中テスト・事例	【到達目標】 1回～7回までの授業内容を理解できる。事例について自分の考えをまとめることができる。			【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小点数以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
最初1回にレクチャーをして、その後グループワークを行い理解を深める。クラスの意見・考えについては発表を通じて知り、自分以外の視点に気付くことにより、深く理解できるようにする。									

## 授 業 概 要

科目名	社会福祉の原理と政策	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	内藤 博幸		
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
現代社会における福祉制度や意義や理念、福祉政策との関係について理解し、その概要を説明できる。福祉政策におけるニーズと資源について理解する。福祉政策の課題について理解し、解決策を模索する。福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解し、福祉国家論の基本を説明できるようにする。福祉政策の構成要素(福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割)について理解する。福祉政策と関連政策(教育政策、住宅政策、労働政策等)の関係について理解し、市場経済における労働・教育と福祉政策との関係を概説できるようにする。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
福祉国家及び福祉政策に関する研究経験のある教員が、現代社会における福祉政策を理解するための授業を行う。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
「4 社会福祉の原理と政策」中央法規					授業を受けたその日のうちに、今一度内容を確認することが重要です。そこで、必ず疑問点が、見えてくるはずです。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> 社会福祉の思想・哲学 P48～ 福祉政策において重要な概念・理念 P119～131  <b>【到達目標】</b> ・福祉政策の下となった理念の変遷を説明できる ・自由主義・社会主義・保守主義などのイデオロギーを理解し簡単な説明ができる ・社会権、ノーマライゼーション、福祉多元主義など重要な用語の解説ができる ・ウェルフェアからワークフェアへの意味を解説できる				9	<b>【授業単元】</b> 男女共同参画社会と母子家庭の現状  <b>【到達目標】</b> ・女性解放運動(フェミニズム運動)の簡単な歴史を解説できる ・男女共同参画社会の目的は何かを解説できる ・男女平等に関する国際指標をあげ、日本の位置を説明できる ・安倍内閣の女性政策を説明できる			
2	<b>【授業単元】</b> 福祉政策におけるニーズと資源(リソース) P134～148  <b>【到達目標】</b> ・非貨幣ニードという発想が生まれた背景を解説できる ・ブラッドショーのニード分類を理解し、解説することができる。 ・ニーズ(必要)とデマンド(需要)を解説できる ・必要原則と貢献原則 報酬と用具の用語解説ができる				10	<b>【授業単元】</b> 福祉国家の類型  <b>【到達目標】</b> ・先進各国の社会保障費の現状を解説できる ・テイトマスの福祉国家の分類を説明できる ・E.アンデルセンの福祉国家レジームを解説できる ・ウイレンスキーの福祉国家収斂説を説明できる			
3	<b>【授業単元】</b> 福祉政策と資源配分 P169～177      分配の正義 P148～150  <b>【到達目標】</b> ・ロールズの格差原理を解説できる ・ハレート効率性を理解する ・現金給付と現物給付の長所・短所をあげることができる				11	<b>【授業単元】</b> アメリカの社会保障制度 P311～  <b>【到達目標】</b> ・アメリカの医療制度を解説できる ・アメリカの年金制度を解説できる ・アメリカの高齢者政策を解説できる			
4	<b>【授業単元】</b> 福祉サービスの供給 P254～271  <b>【到達目標】</b> ・ウルフエンデン報告の福祉ミックス論を解説できる ・「平行棒理論」と「線り出し梯子理論」を解説できる ・PFIや指定管理者制度などNPMIについて説明できる ・ベストの「福祉トライアングル」を説明できる				12	<b>【授業単元】</b> イギリスの社会保障制度  <b>【到達目標】</b> ・イギリスの医療制度を解説できる ・イギリスの年金制度を解説できる ・イギリスの社会保障政策の流れを解説できる			
5	<b>【授業単元】</b> 福祉政策と保健医療政策 P202      P224～227 福祉政策と教育政策 P228～232  <b>【到達目標】</b> ・後期高齢者医療制度を説明できる ・地域完結型医療への転換を説明できる ・特別支援学校と就学支援制度を簡潔に理解する				13	<b>【授業単元】</b> フランス・ドイツ・スウェーデンの社会保障体制 P308～313  <b>【到達目標】</b> ・スウェーデンのエーデル改革を解説できる ・ドイツのハルト3改革を解説できる ・フランスの一般社会拠出金制度を説明できる			
6	<b>【授業単元】</b> 福祉政策と住宅政策 P233～238  <b>【到達目標】</b> ・老人保健施設、軽費老人ホーム、サ高住、特養の違いを説明できる ・住宅セーフティネット法の特徴をひとつ述べるができる。 ・住宅政策の課題をあげられる				14	<b>【授業単元】</b> 今日の我が国の福祉制度の課題  <b>【到達目標】</b> ・岸田首相の異次元の少子化対策の内容を解説できる ・岸田内閣の掲げる「新しい資本主義」とは何かを説明できる ・菅義偉内閣の子ども基本法制定と子ども家庭庁の新設について解説できる ・財政の問題を語るができる			
7	<b>【授業単元】</b> 福祉政策と災害政策 P245 ～251  <b>【到達目標】</b> ・民生委員と避難行動要支援者登録制度について説明できる ・生活支援相談員の職務を解説できる ・社協のボランティアコーディネータを説明できる ・被災者生活再建支援法を解説できる				15	<b>【授業単元】</b> ・社会福祉政策と理念の総復習 ・後期試験  <b>【到達目標】</b> ・グループ学習で、お互いの知識を確認する ・試験は60%以上の正解率			
8	<b>【授業単元】</b> 福祉政策と雇用政策 P239～244  <b>【到達目標】</b> ・福祉国家の福祉政策の重要性を説明できる ・フレキシキュリティ、ワークフェア、アクティベーションのそれぞれの違いを明確に説明できる。 ・求職者支援制度を説明できる ・最低賃金制度に関しての一通りの説明ができる				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 小テスト 毎回 5点満点 中テスト 第8回授業 15点満点 定期試験 15回授業 60点満点 * 小テスト・中テストは合計点を ÷2とする。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
配布プリントに解答を書き込むだけでなく、気が付いたことや理解に役立つことと思ったら、どんどんメモを取っていくことです。									

## 授 業 概 要

科目名	社会福祉の原理と政策	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	内藤 博幸	
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>								
現代社会における福祉制度や意義や理念、福祉政策との関係について理解し、その概要を説明できる。福祉政策におけるニーズと資源について理解する。福祉政策の課題について理解し、解決策を模索する。福祉の原理をめぐり理論と哲学について理解し、福祉国家論の基本を説明できるようにする。福祉政策の構成要素(福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割)について理解する。福祉政策と関連政策(教育政策、住宅政策、労働政策等)の関係について理解し、市場経済における労働・教育と福祉政策との関係を概説できるようにする。								
<b>【学習内容】</b> (どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)								
福祉国家及び福祉政策に関する研究経験のある教員が、現代社会における福祉政策を理解するための授業を行う。								
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>			
「新・社会福祉士養成講座4 社会福祉の原理と政策」中央法規					授業を受けたその日のうちに、今一度内容を確認することが重要です。そこで、必ず疑問点が、見えてくるはずですよ。			
回	授業計画			回	授業計画			
1	【授業単元】 イギリスでの社会福祉の源流 エリザベス教養法～トインビーホール P23～25			9	【授業単元】 現代社会の変化と福祉 人口動態や世帯の在り方から福祉政策の変化を見る P100～107			
	【到達目標】 ・エリザベス教養法の内容が説明できるようになる。 ・新教養法の3つの原則を上げることができる。 ・トインビーホール設置の目的と事業内容を説明できる。				【到達目標】 ・高齢化率の変遷を説明できる。 ・合計特殊出生率の変遷を説明できる。 ・世帯の在り方の変化を説明できる。 ・働き方の変遷を説明できる。			
2	【授業単元】 福祉国家の萌芽 貧困調査～ワイマール共和国の誕生 P26～27 P50～54			10	【授業単元】 社会保障予算の抑制委へ 「新しい日本型福祉社会の実現」(1979)～福祉八法改正(1990) P122～128			
	【到達目標】 ・貧困調査の意義とその報告内容を簡単に説明できる。 ・ナショナルミニマムについて簡潔に説明できる。 ・第一次大戦の結末と社会主義国家誕生を関連付けて説明できる。 ・ワイマール共和国誕生の意義を解説できる				【到達目標】 ・1979年の「新しい日本型福祉社会」とは、何かを説明できる。 ・1985年の基礎年金制度への改正とその目的を説明できる。 ・1989年「今後の社会福祉のあり方について」のポイント3つを指摘できる。 ・福祉八法改正の要点を3つあげられる。			
3	【授業単元】 福祉国家の発展 ルーズベルトの社会保障法～ジョンソンの「貧困戦争」 P28～31 P50～54			11	【授業単元】 社会福祉基礎構造改革 1994「21世紀福祉ビジョン」～2000「社会福祉法」 P129～155			
	【到達目標】 ・ルーズベルト大統領のニューディール政策と社会保障法を解説できる。 ・ベヴァリッジ報告の目指した生活保障を解説できる。 ・ジョンソン大統領の「貧困との戦い」の内容を説明できる。 ・福祉国家の意味を端的に説明できる。				【到達目標】 ・「21世紀福祉ビジョン」が目指した重要ポイント一つをあげる。 ・1998「社会福祉基礎構造改革」の「措置から契約へ」「多様な主体の参入」の意味と意義を説明できる。 ・2000年「社会福祉法」の最重要ポイントを一点あげられる			
4	【授業単元】 福祉国家の変容 福祉多元論～ワークフェアの拡がり P31～32 P50～54			12	【授業単元】 新自由主義的改革 小泉政権下の構造改革～民主党政権の政策 2005～介護保険制度の改正 2008・後期高齢者医療制度 2004・年金改革			
	【到達目標】 ・レーガノミクスやサッチャイズムを解説できる。 ・新自由主義が福祉政策に及ぼした影響を解説できる。 ・「第三の道」や「ポジティブウェルフェア」を解説できる。				【到達目標】 ・小泉政権が行った自立支援にはどのようなものがあったかを説明できる ・セーフティネットの底が抜けた日本の課題を解説できる ・民主党政権下の「税と社会保障の一体改革」の意味を解説できる			
5	【授業単元】 日本の福祉の源流 江戸時代～明治の社会事業政策 中央慈善協会設立(1908) P34～38			13	【授業単元】 安倍政権下の社会福祉政策 P200～201			
	【到達目標】 ・江戸時代の都市と農村での互助制度を簡単に述べることができる。 ・明治時代の篤志家による社会事業活動に関して、7人の活動内容を説明できる。 ・感化法の歴史的背景を議論できる ・明治期の慈善事業は篤志家によって支えられていたことを理解する。				【到達目標】 ・貧困対策としての生活困窮者自立支援法の中身を言える ・労働力不足対策としての女性活躍推進法の意味を解説できる ・アベノミクス 新・三本の矢の意味するところを説明できる			
6	【授業単元】 戦争と厚生事業 済世顧問制度(1917)～健康保険(1942) P38～41			14	【授業単元】 社会的包摂と地域共生社会の構築へ P194～209			
	【到達目標】 ・方面委員制度・済世顧問制度を説明できる。 ・健康保険制度を成立させた時代背景を具体的に述べることができる。 ・戦時厚生事業の目的を把握し、説明できる。 ・厚生年金の成立の事情を述べられる。				【到達目標】 ・地域包括ケアシステムを構築しようと考えたきっかけが何かを説明できる ・介護保険法と地域包括システムの関係を解説できる ・「一層高齢者フレンドリーな地域共生社会の関係を解説できる」「我が国・地方・地域共生社会」「我が事・丸ごと」地域共生社会をイメージできる			
7	【授業単元】 福祉国家への始動 マッカーサー三原則(1945)～国民皆保険の達成(1961) P40～42			15	【授業単元】 社会福祉の歴史の総復習 ・後期試験			
	【到達目標】 ・福祉三法を制定した必要性を説明できる。 ・新生活保護法の改正点を挙げることができる。 ・医療保険と年金保険制度に関して、簡単な説明ができる				【到達目標】 ・グループ学習で、お互いの知識を確認する ・試験は60%以上の正解率			
8	【授業単元】 福祉の充実期 1960～1975 所得倍増計画(1960)～福祉元年(1973) P42～44			<b>【成績評価の方法と基準】</b>				
	【到達目標】 ・福祉六法をすべてあげることができる。 ・社会保障制度審議会「962年勧告」の重要部分を解説できる。 ・田中角栄首相の「福祉元年」の内容を説明できる ・福祉見直しが行われ始めた背景を解説できる			小テスト 毎回 5点満点 中テスト 第8回授業 15点満点 定期試験 15回授業 60点満点 * 小テスト・中テストは合計点を ÷2とする。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>								
配布プリントに解答を書き込むだけでなく、気が付いたことや理解に役立つことと思ったら、どんどんメモを取っていくことです。								

## 授 業 概 要

科目名	刑事司法と福祉	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	栗林 正彦		
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業 形態	講義	総単位数	単位	総時間数	時間
【授業を通じての到達目標】									
1. 刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを説明できる。 2. 刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について説明できる。 3. 刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について説明できる。									
【学習内容】									
近年、刑事司法とかかわる人に様々な支援ニーズがあることが広く認識されるようになった。本授業では、刑事司法における近年の動向とこれを取り巻く社会環境について理解し、「司法と福祉の連携」の必要性と実際の支援を学ぶ。 授業の進め方は講義中心で、第2回目以降は、前回までの授業を復習し、次の講義につなげていく。(小テストの実施)									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
「最新 社会福祉士養成 精神保健福祉士養成講座 10 刑事司法と福祉」 (中央法規)一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集					日常から起こり得る事件報道等について意識を傾け、授業で学んでいることと照らし合わせながら理解を深めるようにして下さい。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 ガイダンス、第1章 「刑事司法と福祉」総論			9	【授業単元】 第9章 社会内処遇① 更生保護の理念と概念				
	【到達目標】 1, 2, 3 刑事司法とソーシャルワークの関係を理解する。				【到達目標】 1, 2, 3 更生保護の歴史を確認しソーシャルワーカーの役割を理解する。				
2	【授業単元】 第2章 社会と犯罪			10	【授業単元】 第10章 社会内処遇② 更生保護の実際				
	【到達目標】 1, 2, 3 日本の社会と犯罪状況について理解する。				【到達目標】 1, 2, 3 更生保護の実際とネットワーク構築を理解する。				
3	【授業単元】 第3章 犯罪原因論と対策			11	【授業単元】 第11章 多様なニーズを有する犯罪行為者① 精神障害者を対象とした医療観察制度				
	【到達目標】 1, 2, 3 犯罪原因論にもとづく対応を理解する。				【到達目標】 1, 2, 3 医療観察制度の概要と社会復帰調整官・地域のソーシャルワーカーの役割を理解する。				
4	【授業単元】 第4章 刑罰とは何か			12	【授業単元】 第12章 多様なニーズを有する犯罪行為者② 高齢者・障害者による犯罪・非行と福祉				
	【到達目標】 1, 2, 3 刑罰制度の歴史や刑罰の本質と機能を理解する。				【到達目標】 1, 2, 3 高齢者・障害者への司法と福祉の連携による支援を理解する。				
5	【授業単元】 第5章 刑事司法			13	【授業単元】 第13章 多様なニーズを有する犯罪行為者③ アディクションを抱える人と刑事司法				
	【到達目標】 1, 2, 3 刑事手続と原則を理解する。				【到達目標】 1, 2, 3 アディクションと刑事司法におけるソーシャルワークを理解する。				
6	【授業単元】 第6章 少年司法			14	【授業単元】 第14章 犯罪被害者等支援				
	【到達目標】 1, 2, 3 少年法の目的や機能、少年保護手続きの流れを理解する。				【到達目標】 1, 2, 3 犯罪被害者等への支援の実際を理解する。				
7	【授業単元】 施設内処遇① 成人			15	【授業単元】 第15章 コミュニティと刑事司法、まとめ				
	【到達目標】 1, 2, 3 処遇のあり方と福祉専門職の業務内容を理解する。				【到達目標】 1, 2, 3 これまでの学びを振り返る。				
8	【授業単元】 第8章 施設内処遇② 少年			<b>【成績評価の方法と基準】</b> 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。					
	【到達目標】 1, 2, 3 矯正教育のあり方と社会復帰支援について理解する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
講義中心の授業となると常に受け身になるが、まずは聴く姿勢を培う。 (対人援助においては、聴くことが相談の第一歩) また、その際自分自身でも「考える」という習慣を付ける。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	菊池留美	
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>								
①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。 ②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。 ③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。								
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>								
大学院での研究、病院・地域包括支援センターでのソーシャルワーク実践の経験がある教員が、社会福祉士の役割・業務内容や社会福祉士に求められる価値観・倫理等、社会福祉士として基盤となる価値・知識に関する授業を行う。								
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>			
『ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』中央法規出版、2021年。随時、レジュメや資料を配布する。					授業中に行った確認テストやレジュメを用いて復習を行うこと。授業中に紹介した書籍については、個々の興味によって参考にする事。			
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション、社会福祉士・精神保健福祉士とソーシャルワーク			9	【授業単元】 ソーシャルワークの基盤となる考え方:理念(当事者主権、自立支援、エンパワメント)			
	【到達目標】 当科目の概要と目的を理解する。 社会福祉士・精神保健福祉士とソーシャルワークの関係について理解する。				【到達目標】 事例を基に、ソーシャルワークの基盤となる考え方を理解する			
2	【授業単元】 ソーシャルワークの概念 ソーシャルワークの構成要素			10	【授業単元】 ソーシャルワークの基盤となる考え方:(ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン)			
	【到達目標】 事例を基に、ソーシャルワーク、ソーシャルワーカーの概念に触れる				【到達目標】 事例を基に、ソーシャルワークの基盤となる考え方を理解する。			
3	【授業単元】 ソーシャルワークの概念 ソーシャルワークの構成要素			11	【授業単元】 ソーシャルワークの形成過程:ソーシャルワークの源流と基礎確立期			
	【到達目標】 事例を基に、ソーシャルワークの構成要素を理解する				【到達目標】 欧米のソーシャルワークの誕生を理解する			
4	【授業単元】 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ:社会福祉士			12	【授業単元】 ソーシャルワークの形成過程:ソーシャルワークの発展期			
	【到達目標】 社会福祉士の根拠法である「社会福祉士及び介護福祉士法」について理解する				【到達目標】 欧米のソーシャルワークの発展とその背景を理解する			
5	【授業単元】 ソーシャルワーク専門職である社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけ:精神保健福祉士			13	【授業単元】 ソーシャルワークの形成過程:ソーシャルワークの展開期と統合化			
	【到達目標】 精神保健福祉士の根拠法である「精神保健福祉士法」について理解する				【到達目標】 現在のソーシャルワークの基盤となるジェネラリスト・ソーシャルワークを理解する			
6	【授業単元】 ソーシャルワークの基盤となる考え方:原理(社会正義、人権)			14	【授業単元】 ソーシャルワークの形成過程:日本におけるソーシャルワークの形成過程			
	【到達目標】 事例を基に、ソーシャルワークの基盤となる考え方を理解する				【到達目標】 日本におけるソーシャルワークの形成過程を理解する			
7	【授業単元】 ソーシャルワークの基盤となる考え方:原理(集団的責任、多様性の尊重)			15	【授業単元】 定期試験、解答解説			
	【到達目標】 事例を基に、ソーシャルワークの基盤となる考え方を理解する				【到達目標】 学んだことを振り返ることにより、疑問点やわからない点を確認し、今後の学びにつなげる。			
8	【授業単元】 1～7回目のまとめ、中テスト、解答解説			<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験80%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 前半のまとめを行い、中テストを行う。疑問点やわからない点を確認し、学びを深める。							
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>								
社会福祉士の基盤を学びながら、他の人とのコミュニケーションを通じてソーシャルワークについての理解を深めることを目的としています。授業内でお互いに安心して学び合うことができるように配慮します。								

## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法 (精神専門)	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	安藤 宏美		
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
1 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスを説明できる。2 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を説明できる。3 精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について説明できる。4 精神保健福祉士と所属機関の関係をふまえて、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について説明できる。5 個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をミクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性をふまえて説明できる。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
精神保健福祉士として精神科医療機関でソーシャルワークを行ってきた教員が、精神保健福祉士の専門性である「価値・知識・技術」を中心に据え、精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスや家族への支援方法、多職種連携・多機関連携の方法及び精神保健福祉士の役割、ソーシャルアドミニストレーション、個別支援からソーシャルアクションへの実践展開について、講義とそれに関連した具体的な事例検討等を実施する。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
『最新 精神保健福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法 [精神専門]』 中央法規出版					・復習: 授業資料と教科書の該当箇所を読み直し、理解を深める。 ・予習: 次回の授業資料と教科書の該当箇所を読み、不明点や疑問点を挙げておくことが望ましい。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ①オリエンテーション ②ソーシャルワークとは  【到達目標】 ①本科目の概要、受講のルール、国家試験における位置付けを理解できる。 ②ソーシャルワークの概要を説明できる。 ①目的 ②対象 ③活動領域				9	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセス4 アセスメント  【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスにおけるアセスメントの内容と用いられる主な技術を説明できる。			
2	【授業単元】 精神保健福祉領域のソーシャルワークの価値、視点  【到達目標】 精神保健福祉士の価値に根差した3つの視点を説明できる。				10	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセス5 プランニング  【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスにおけるプランニングの内容と用いられる主な技術を説明できる。			
3	【授業単元】 ①精神保健福祉領域のソーシャルワークの支援対象 ②精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の生活状況  【到達目標】 ①精神保健福祉領域のソーシャルワークの支援対象を説明できる。 ②精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の生活状況及び生活のしづらさを説明できる。				11	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセス6 インターベンション、モニタリング、エバリュエーション、ターミネーション  【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスにおけるインターベンション、モニタリング、エバリュエーション、ターミネーションの内容と用いられる主な技術を説明できる。			
4	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の人権  【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の人権をめぐる状況を説明できる。 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の人権擁護について自分の考えを述べるができる。				12	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークにおける面接技術1  【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークにおける面接の特性及び精神保健福祉士に求められる基本姿勢を説明できる。			
5	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の支援の理念  【到達目標】 精神障害者支援の理念のうち、世界的に主流のものや近年注目されているものを説明できる。				13	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークにおける面接技術2  【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークにおいて用いられる面接技術を使い始められる。			
6	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセス1 インテーク  【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスにおけるインテークの内容と用いられる主な技術を説明できる。				14	【授業単元】 前期まとめ  【到達目標】 前期の授業内容を振り返り、定期試験に備えることができる。			
7	【授業単元】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセス2 インテーク  【到達目標】 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスにおけるインテークの内容と用いられる主な技術を説明できる。				15	【授業単元】 定期試験  【到達目標】 前期の全授業の要点を理解することができる。			
8	【授業単元】 ①中テスト ②精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセス3 アセスメント  【到達目標】 ①学習した内容の要点を復習し、現段階での自身の理解度を確認できる。 ②精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスにおけるアセスメントの内容と用いられる主な技術を説明できる。				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
・疑問点や不明点はまず自分で調べたり考えてから質問するのが望ましい。 ・授業内容を受け取るだけでなく「それについて自分はどう思うのか」を考えること。 ・他者とのワーク時は「ソーシャルワーカーとして必要な技術の練習」とらえて取り組むこと。									

## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法 (精神専門)	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	安藤 宏美		
学科 コース	社会福祉科	学年	2	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
1 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスを説明できる。2 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を説明できる。3 精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について説明できる。4 精神保健福祉士と所属機関の関係をふまえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について説明できる。5 個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をマイクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性をふまえて説明できる。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
精神保健福祉士として精神科医療機関でソーシャルワークを行ってきた教員が、精神保健福祉士の専門性である「価値・知識・技術」を中心に据え、精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークのプロセスや家族への支援方法、多職種連携・多機関連携の方法及び精神保健福祉士の役割、ソーシャルアドミニストレーション、個別支援からソーシャルアクションへの実践展開について、講義とそれに関連した具体的な事例検討等を実施する。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
『最新 精神保健福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法 [精神専門]』 中央法規出版					<ul style="list-style-type: none"> <li>・復習: 授業資料と教科書の該当箇所を読み直し、理解を深める。</li> <li>・予習: 次回の授業資料と教科書の該当箇所を読み、不明点や疑問点を挙げておくことが望ましい。</li> </ul>				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する集団を活用した支援1  <b>【到達目標】</b> 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する集団を活用した支援(ソーシャル・グループワーク)の概要を理解し、以下について説明できる。 (1)定義 (2)基本的枠組み (3)理論的モデル (4)歴史 (5)展開過程 (6)グループワークの実践				9	<b>【授業単元】</b> 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるチームアプローチ1  <b>【到達目標】</b> 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるチームアプローチの概要を説明できる。			
2	<b>【授業単元】</b> 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する集団を活用した支援2  <b>【到達目標】</b> 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する集団を活用した支援(ソーシャル・グループワーク)の概要を理解し、以下について説明できる。 (1)定義 (2)基本的枠組み (3)理論的モデル (4)歴史 (5)展開過程 (6)グループワークの実践				10	<b>【授業単元】</b> 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるチームアプローチ2 ピアサポート  <b>【到達目標】</b> 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるピアサポートの意義を説明できる。			
3	<b>【授業単元】</b> 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するアウトリーチ  <b>【到達目標】</b> 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するアウトリーチの意義、方法、形態、留意点を説明できる。				11	<b>【授業単元】</b> 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるチームアプローチ3 ピアサポート  <b>【到達目標】</b> AA (Alcoholics Anonymous) のメンバーをゲストに迎え、精神保健福祉士とピアとの協働のあり方について自分の意見を述べるができる。			
4	<b>【授業単元】</b> 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるケアマネジメント1  <b>【到達目標】</b> 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるケアマネジメントの意義、目的、展開過程、方法、チームの概要を説明できる。				12	<b>【授業単元】</b> 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるソーシャルアクション  <b>【到達目標】</b> 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるソーシャルアクションの視点、歴史、展開過程、政策提言のあり方の概要を説明できる。			
5	<b>【授業単元】</b> 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるケアマネジメント2  <b>【到達目標】</b> 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対する支援におけるケアマネジメントの意義、目的、展開過程、方法、チームの概要を説明できる。				13	<b>【授業単元】</b> 精神保健福祉領域のソーシャルアドミニストレーション  <b>【到達目標】</b> ソーシャルアドミニストレーションの概念、意義、展開方法を説明できる。			
6	<b>【授業単元】</b> 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の家族に対する支援1  <b>【到達目標】</b> 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の家族が置かれてきた状況を説明できる。				14	<b>【授業単元】</b> まとめ  <b>【到達目標】</b> 後期の授業内容を振り返り、定期試験に備えることができる。			
7	<b>【授業単元】</b> 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の家族に対する支援2  <b>【到達目標】</b> 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人の家族に対する支援の意義と方法を説明できる。				15	<b>【授業単元】</b> 定期試験  <b>【到達目標】</b> 後期の全授業の要点を理解することができる。			
8	<b>【授業単元】</b> (1)中テスト (2)精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するコミュニティワーク  <b>【到達目標】</b> (1)学習した内容の要点を復習し、現段階での自身の理解度を確認できる。 (2)精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するコミュニティワークの概要を説明できる。				<b>【成績評価の方法と基準】</b>				
					科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問点や不明点はまず自分で調べたり考えてから質問するのが望ましい。</li> <li>・授業内容を受け取るだけでなく「それについて自分はどう思うのか」を考えること。</li> <li>・他者とのワーク時は「ソーシャルワーカーとして必要な技術の練習」とらえて取り組むこと。</li> </ul>									



## 授 業 概 要

科目名	精神保健福祉制度論		必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	宮路雄大		
学科 コース	社会福祉科		学年	2年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害者に関する法制度の体系について理解する。</li> <li>・精神保健福祉法、医療観察法等の医療に関する制度の概要と課題、制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。</li> </ul>										
【学習内容】										
精神保健福祉士として、現場で働く際に必要な諸制度の意義や目的、福祉サービスについての理解を深める。また、実践の場がイメージできるよう実践現場での体験談などを交え講義を行う。担当教員は、精神保健福祉士として認知症専門病院、精神科病院に勤務経験がある。										
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】				
「最新 精神保健福祉士養成講座 精神保健福祉制度論」中央法規						教科書、レジュメを読み込み予習と復習を行ってください。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション、精神障害者の制度・政策の理解①				9	【授業単元】 精神障害者の生活支援に関する制度②				
	【到達目標】 ・授業の到達目標、学習内容を理解する。 ・社会保障が精神障害者に果たす機能と役割を体系的に理解する。 ・精神障害者に対する生活保障について、制度を理解し説明できる。					【到達目標】 ・相談支援制度成立までの歴史的背景、概要、枠組みを理解する。 ・相談支援専門員の役割を理解、説明できる。				
2	【授業単元】 精神障害者の制度・政策の理解②				10	【授業単元】 精神障害者の生活支援に関する制度③				
	【到達目標】 ・精神障害者の医療や福祉制度の策定過程の変遷を学ぶ。					【到達目標】 ・居住支援制度の理解を深める。精神保健福祉士として、居住支援における役割は何か学ぶ。また、精神科病院に長期入院する患者の退院を阻む壁は何か調べ、精神保健福祉士として、どのように向き合うか考察する。				
3	【授業単元】 精神障害者の医療に関する制度①				11	【授業単元】 精神障害者の生活支援に関する制度④				
	【到達目標】 ・精神保健福祉法の概要について学び、理解を深める。 ・精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割を理解する					【到達目標】 ・居住支援制度の概要、仕組みについて理解する。精神保健福祉士の視点、役割から居住確保や継続した居住の支援について考察する。				
4	【授業単元】 精神障害者の医療に関する制度②				12	【授業単元】 精神障害者の生活支援に関する制度⑤				
	【到達目標】 ・精神科医療と関係の深い政策について把握、理解を深める。 ・精神保健福祉士として、専門性、視点を生かして、政策にどのように関わるのか理解する。					【到達目標】 ・精神障害者が働くことの意味を理解する。 ・精神障害者に関連する就労サービスは何か知る。 ・就労支援における精神保健福祉士の役割は何か学ぶ。				
5	【授業単元】 精神障害者の医療に関する制度③				13	【授業単元】 精神障害者の経済的支援①				
	【到達目標】 ・医療観察法の概要、目的、仕組みを理解し、説明できる。 ・医療観察法における多職種チームの実践と精神保健福祉士の役割を理解する。また、各専門職の役割について説明できる。					【到達目標】 ・精神障害者の生活実態に触れ、経済的支援の必要性を学ぶ。 ・経済支援における精神保健福祉士の役割について学ぶ。 ・生活保護制度の概要、実際の暮らしについて触れ、生活実態を学ぶ。				
6	【授業単元】 精神障害者の医療に関する制度④				14	【授業単元】 精神障害者の経済的支援②				
	【到達目標】 ・関連政策や支援の歴史的背景について把握する。 ・関連政策や支援について、精神保健福祉士の実践として理解する。					【到達目標】 ・公的年金制度の概要、枠組みを学ぶ。 ・障害年金の制度、仕組み、受給までのプロセスを学ぶ、				
7	【授業単元】 精神障害者の生活支援に関する制度①				15	【授業単元】 期末試験				
	【到達目標】 ・生活支援の概念、生活支援とは何を意味しているかを理解する。 ・障害者総合支援法成立までの経緯、制度の体系を把握し、制度の内容が説明ができる。					【到達目標】 ・知識の定着を確認する。出題は選択式、記述式を用いる。				
8	【授業単元】 中間試験				【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 ・知識の定着を確認する。出題は選択式、記述式を用いる。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】										
・適宜グループワークを行います。グループワークでは、積極的な姿勢を期待します。										

## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク演習(精神専門)	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	宮路雄大		
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業 形態	演習	総単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
ソーシャルワーカーとしての、役割、倫理感について理解するとともに、実際に現場に出た際の実践力を養う。最終的には、支援者としての「センス」に磨きをかけ、高めてほしい。									
【学習内容】									
精神保健福祉士の実践活動に必要な基礎知識、基礎技術を座学と演習を通して学ぶ。担当教員は、精神科病院に精神保健福祉士として勤務歴がある。適宜、病院での実践を紹介し、精神保健福祉士のリアルな現場での働きを学ぶ。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
ソーシャルワーク演習(中央法規) 適宜、レジュメを配布					授業後、次回までに復習してほしい用語等を提示する。教科書、レジュメを用いて、授業の予習復習を行う。次回の授業時に確認する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 自己紹介				9	【授業単元】 地域移行支援から退院後・退院準備期 地生活定着域定着支援の利用・フォロー期、地域生活定着期			
	【到達目標】 演習の意義、目的、進め方を学ぶ。 講師の経験を通して、自分自身のキャリア形成について考察する					【到達目標】 退院準備期のプロセスを整理する。演習課題を通して、クライシスプランを立ててみる。精神科病院を退院したクライアントが利用できる支援について考察する。地域生活を再開する際の、エコマップを作成する。			
2	【授業単元】 演習教育における自己覚知				10	【授業単元】 ピアサポーター養成講座 準備期～開始期			
	【到達目標】 自分の価値観、障害者感、支援者としての自分を知る。					【到達目標】 精神保健福祉士として、自らが「ピアサポーター養成講座」を企画する際にどのようなプログラムを行うか考えてみる。グループワークの原則とは何か、説明できる。開始期に有効なアイスブレイクについて考える。			
3	【授業単元】 精神保健福祉士に求められる役割 演習の「ねらい」・展開方法				11	【授業単元】 ピアサポーター養成講座 作業期～終結期 グループワークの過程、精神保健福祉士の役割			
	【到達目標】 厚生労働省が示す精神保健福祉士に求められる役割を理解する 演習の「ねらい」を理解し、事例の読み方、使い方学ぶ。					【到達目標】 精神障害者に対する報道の在り方について考える。作業期における精神保健福祉士の役割、知識を学ぶ。事例を通して、作業期における観察記録を作成する。終結期における観察記録を作成する。			
4	【授業単元】 精神保健福祉士の実践における原理・原則 精神保健福祉士を取り巻く社会問題				12	【授業単元】 コミュニティソーシャルワークの理解 地域のニーズ把握・コミュニティアセスメント			
	【到達目標】 精神保健福祉士は、なぜクライアントの自己決定を尊重し支援するのか、過去の精神障害者を取り巻く歴史から、考察し、グループで意見交換を行い、理解を深める。					【到達目標】 事例を通して、なぜ「地域住民のグループホーム設立反対」活動が起こるのか、住民、利用者、支援者それぞれの立場になり考察する。Swot分析表をグループになり作成する。			
5	【授業単元】 個人に対する相談援助				13	【授業単元】 プランニング 社会資源の活用、開拓			
	【到達目標】 演習課題を通して、フェイスシート、ジェノグラムを作成。必要な支援について、考察する。市長同意や生活保護の説明をロールプレイにて行い、制度の知識定着を図る。					【到達目標】 swto分析表を復習する。グループになり、自分が住む地域のニーズを抽出しswot分析表を作成、発表する。			
6	【授業単元】 入院から地域移行支援について				14	【授業単元】 ネットワーキング ソーシャルアクション			
	【到達目標】 医療保護入院における退院後生活環境相談員の役割を学び、ロールプレイを通して制度の説明が出来るようになる。精神科医療におけるチーム医療、多職種連携を学ぶ。チームアプローチについての意義を考える。					【到達目標】 ネットワーキングの定義、意義を学び説明できるようになる。事例を通して、グループになり市の精神保健福祉士が行うソーシャルアクションの企画書を作成、発表する。			
7	【授業単元】 地域移行支援・支援準備期～支援中期				15	【授業単元】 定期テスト			
	【到達目標】 サービス等支援計画(案)を作成する際に必要なアセスメント項目を考え、ロールプレイを行う。事例を通して、支援中期の支援プロセスを学び、ピアサポーターとは何か、役割を学び、説明できるようになる。					【到達目標】 1～14回の授業の振り返りを行う。定期試験は記述式、選択式で行う。今までの知識の定着、理解度を確認する。			
8	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 1～7回目の授業を振り返る。中テストは、選択式、記述式で行う。今までの知識の定着、理解度を確認する。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
グループワーク、ロールプレイでは、積極的な姿勢を期待する。授業で発生した不明な点は、そのままにせず教員に質問してほしい。									

## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク演習(精神専門)	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	宮路雄大	
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業 形態	演習	総単位数	1 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
ソーシャルワーカーとしての、役割、倫理感について理解するとともに、実際に現場に出た際の実践力を養う。最終的には、支援者としての「センス」に磨きをかけ、高めてほしい。								
【学習内容】								
精神保健福祉士の実践活動に必要な基礎知識、基礎技術を座学と演習を通して学ぶ。担当教員は、精神科病院に精神保健福祉士として勤務歴がある。適宜、病院での実践を紹介し、精神保健福祉士のリアルな現場での働きを学ぶ。								
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】				
ソーシャルワーク演習(中央法規) 適宜、レジュメを配布				授業後に復習してほしい用語等を提示する。教科書、レジュメを用いて復習してほしい。次回の授業で確認する。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	【授業単元】 精神保健福祉士の多様な職場におけるソーシャルワーク実践			9	【授業単元】 プレイバックシアターについて			
	【到達目標】 多様な職場で働くソーシャルワーカーを知る。グループになり、将来自分はこの領域で働きたいのか、その理由、現場でどのような実践を行いたいのか、発表する。				【到達目標】 動画を視聴しプレイバックシアターの目的を理解する。			
2	【授業単元】 家族からの受診相談、インテーク面接(初回面接) ①			10	【授業単元】 プレイバックシアターグループ決め、配役決め、シナリオ作成			
	【到達目標】 精神科病院におけるインテーク面接とは何か知る。精神保健福祉士は、インテークを面接を行う際に、情報収集を行う。事例を通して、どのような情報収集を行うのか、グループになり、検討する。				【到達目標】 プレイバックシアターのグループ決め、シナリオ作成に取り掛かる。グループ活動を通して、チームワークを学ぶ。			
3	【授業単元】 家族からの受診相談、インテーク面接(初回面接) ②			11	【授業単元】 プレイバックシアターのシナリオ作成			
	【到達目標】 事例を読みインテーク用紙を作成する。グループになり、自分がどこの項目に注目し作成したのか発表する。実際の面接場面を想定し、患者役、精神保健福祉士を演じインテーク面接を行う。				【到達目標】 シナリオ作成を通して、グループメンバーとの関わり、チームワークを学ぶ。			
4	【授業単元】 医療保護入院における外国人の受診、入院支援			12	【授業単元】 プレイバックシアター ①劇の練習			
	【到達目標】 入院形態、退院後生活環境相談員について説明できるようになる。外国人のクライアントの権利擁護について考える。ミクロ、メゾ、マクロレベルのそれぞれの視点から、支援を考えられるようになる。				【到達目標】 劇の練習を通して、クライアントの心情、置かれている立場、支援の過程などを学ぶ。			
5	【授業単元】 精神科デイケア			13	【授業単元】 プレイバックシアター ②劇の練習			
	【到達目標】 精神科デイケアの役割、機能を学び、説明できるようになる。精神科で行うSstを学び、実際に事例を通して、ロールプレイ形式でsstを行う。Sstでの各役割を学ぶ。パーソナリティ障害の患者への関わり方を学ぶ。				【到達目標】 劇の練習を通して、クライアントの心情、置かれている立場、支援の過程などを学ぶ。			
6	【授業単元】 依存症(アディクション)①			14	【授業単元】 プレイバックシアター ③劇の練習			
	【到達目標】 依存症について知る。自分が支援者の立場で、どのような支援を行うのか、グループで意見交換を行い、発表する。断酒会などの自助グループの活動を知り、本人家族の体験談などに触れる。				【到達目標】 劇の練習を通して、クライアントの心情、置かれている立場、支援の過程などを学ぶ。			
7	【授業単元】 危機介入からの地域生活支援			15	【授業単元】 プレイバックシアター発表(定期テスト)			
	【到達目標】 事例を通して、病院の精神保健福祉士と相談支援専門員の連携、それぞれの役割について学ぶ。「8050」に触れ、なぜ孤立するケースが多いのか、課題は何か、専門職として何が出来るかグループになり考察する。				【到達目標】 プレイバックシアターを通して、クライアントの心情、置かれている立場、社会資源、支援の方法などを考察する。グループのメンバーと協力し主体的に発表を行う。			
8	【授業単元】 中テスト			【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 1～7回目の授業を振り返る。中テストは、選択式、記述式で行う。今までの知識の定着、理解度を確認する。			講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】								
グループワーク、ロールプレイでは、積極的な姿勢を期待する。授業で発生した不明な点は、そのままにせず教員に質問してほしい。								

**授 業 概 要**

科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	菊池留美	
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>								
①社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。 ②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。 ③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。 ④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。								
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>								
大学院での研究、病院・地域包括支援センターでのソーシャルワーク実践の経験がある教員が、社会福祉士の役割・業務内容や社会福祉士に求められる価値観・倫理等、社会福祉士として基盤となる価値・知識に関する授業を行う。								
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>			
『ソーシャルワークの基盤と専門職(共通・社会専門)』中央法規出版、2021年。随時、レジュメや資料を配布する。					授業中に行った確認テストやレジュメを用いて復習を行うこと。授業中に紹介した書籍については、個々の興味によって参考にすること。			
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ソーシャルワークの倫理:専門職倫理の概念			9	【授業単元】 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク			
	【到達目標】 なぜ専門職倫理が必要かを考える				【到達目標】 ソーシャルワークのグローバル定義を理解し、実践に則して考える			
2	【授業単元】 ソーシャルワークの倫理:倫理綱領			10	【授業単元】 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容			
	【到達目標】 ソーシャルワーカーの倫理綱領を理解する				【到達目標】 総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点を理解する			
3	【授業単元】 ソーシャルワークの倫理:倫理的ジレンマ			11	【授業単元】 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容			
	【到達目標】 倫理的ジレンマの内容と対応方法を考える				【到達目標】 ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容を理解する			
4	【授業単元】 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲			12	【授業単元】 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容			
	【到達目標】 社会福祉士の職域と役割を理解する				【到達目標】 多職種連携およびチームアプローチの意義と内容を理解する			
5	【授業単元】 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲			13	【授業単元】 実践現場で働くソーシャルワーカー			
	【到達目標】 多様や組織・機関・団体における専門職を理解する				【到達目標】 実践現場のソーシャルワーカーの方の話を聴き、ソーシャルワーカーの業務内容や大切にしていることを学び、考える			
6	【授業単元】 ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲			14	【授業単元】 まとめ			
	【到達目標】 諸外国のソーシャルワーカーの実際を学ぶことにより、普遍的なソーシャルワーカーの役割について考える				【到達目標】 1年間の総復習を行う。			
7	【授業単元】 ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク			15	【授業単元】 定期試験、解答解説			
	【到達目標】 ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象を理解する				【到達目標】 学んだことを振り返ることにより、疑問点やわからない点を確認し、今後の学びにつなげる。			
8	【授業単元】 1～7回目のまとめ、中テスト、解答解説			<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 前半のまとめを行い、中テストを行う。疑問点やわからない点を確認し、学びを深める。							
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>								
社会福祉士の基盤を学びながら、他の人とのコミュニケーションを通じてソーシャルワークについての理解を深めることを目的としています。授業内でお互いに安心して学び合うことができるように配慮します。								

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(専門)	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	石川 真弓		
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1. 社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する 2. 支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する 3. 社会資源の活用意義をふまえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する 4. 個別の事例の具体的な解決策および事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
高齢者施設の介護職員、相談員、施設長等と社会医療法人社団の病院と高齢者施設の両方の施設(病院)を掛け持ち、退院支援や在宅支援、施設入所などの相談業務を中心としたソーシャルワーカーを15年以上経験してきた。また、江戸川区内の高齢者相談員部会や全国老人保険協会支援相談部会、江戸川区介護保険人認定審査会などに所属し地域や行政と高齢者社会における地域活動を実施してきた。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 ソーシャルワークの理論と方法(社会専門)中央法規出版 タブレット(MicrosoftTeams)、授業時に配布する資料					他科目で学習した基礎知識を本科目にもつなげて授業に取り組めるよう復習をする。自身の日常生活圏域や社会の変化、社会問題等を意識的に情報収集する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 授業オリエンテーション ソーシャルワークの理論と方法(共通)の再確認  【到達目標】 ・社会福祉士に必要な知識の総体における本科目の位置づけを理解する ・講義の進め方を理解し、学びへの主体的な取り組みを意識する ・「ソーシャルワークの理論と方法(共通)」での学習をふまえて、本科目を学ぶ意義、個々の学習目標を明確化・言語化できる				9	【授業単元】 第2章 援助関係の形成方法と留意点  【到達目標】 ・援助関係形成における、ソーシャルワーカー自身の自己覚知、自己理解と他者理解の必要性を理解し自身と向き合い考えることができる ・パステイックの原則をふまえた援助関係の形成方法を実践的に理解する			
2	【授業単元】 第1章 総合的かつ包括的な支援の考え方  【到達目標】 ・ジェネラリストソーシャルワークと実践モデルの相互関係を説明できる ・総合的かつ包括的な支援の考え方を理解する(エンゲージメントとアセスメントスキル) ・事例を通して、多様化、複雑化した生活課題に対応するための関わり視点とネットワーク形成を理解する				10	【授業単元】 第3章 ネットワークの形成  【到達目標】 ・ネットワークの意義、概念、方法を理解する ・社会福祉政策動向のなかでのネットワークの位置づけを理解する(地域ケア会議、地域包括ケアシステム) ・ネットワークのプロセスと留意点を理解する(ソーシャルサポート・ネットワーク)			
3	【授業単元】 第1章 家族支援の実践  【到達目標】 ・家族を取り巻く社会の状況、複合的課題を理解する ・家族に関する基礎理論を理解し、「家族」をアセスメントする方法を理解する ・家族支援に求められる視点を理解し、ツールを活用して実践的に家族支援を考えることができる				11	【授業単元】 第3章 コーディネーション  【到達目標】 ・コーディネーションの意義と方法を理解する ・コーディネートを担う人材とその役割を理解する ・コーディネーションの構成要素とコーディネートの重要性をふまえた具体的手段を理解する			
4	【授業単元】 第1章 地域支援の実践  【到達目標】 ・地域課題の把握から解決に至るまでのプロセスを理解する ・地域における多様な団体、組織、機関との協働や連携の具体的方法を理解する ・地域支援を行う専門職として、必要な知識、スキル、価値を理解する				12	【授業単元】 第4章 社会資源の活用・調整  【到達目標】 ・ソーシャルワーク実践における社会資源の位置づけ、具体的な内容と活用を理解する ・ソーシャルワーカーの介入方法と社会資源との関係を理解する ・ジェネラリストソーシャルワークにおける社会資源の開発の捉え方を理解する			
5	【授業単元】 第1章 非常時や災害時支援の実践  【到達目標】 ・非常時や災害時の定義、生じる生活課題に対するソーシャルワークの目的を理解する ・ソーシャルワーク専門職の活動と支援の原則を理解する ・事例を通して、災害ソーシャルワークの展開と留意点を考えることができる				13	【授業単元】 第4章 社会資源開発のさまざまな方法  【到達目標】 ・社会資源開発の方法とプロセスを理解する ・事例を通して、社会資源開発に必要なソーシャルワーカーの知識とスキルを理解する			
6	【授業単元】 実践を考える  【到達目標】 ・地域支援の実践ならびに災害ソーシャルワークの展開事例をふまえて、予防的取り組みや災害発生時に活用できる地域での体制づくり・取り組みを考え提案することができる				14	【授業単元】 第5章 カンファレンス  【到達目標】 ・社会福祉士の業務や実践における会議の種類や開催に必要なスキルを理解する ・会議の運営と留意点を理解する			
7	【授業単元】 第2章 援助関係形成の意義と概念  【到達目標】 ・人間関係と援助関係の違いを理解し、ソーシャルワークにおける援助関係の重要性と意義を理解する ・ソーシャルワーク専門職のグローバル定義、構成要素、倫理綱領から、実践レベルにおける援助関係の意義と留意点を理解する				15	【授業単元】 定期試験 解説および前期学習内容の振り返り(まとめ)  【到達目標】 ・前期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、前期学習目標の達成度を振り返り、後期学習に向けた目標設定ができる			
8	【授業単元】 中テスト 解説および学習内容の振り返り  【到達目標】 ・前期第1～7回の学習内容から出題 ・中テスト解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する ・国家試験対策(演習問題)				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小点数以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
専門職種、職場における実践をイメージし社会福祉士としての思考を意識して取り組みましょう。自他の考えを受容する意識をもち、考える力・発言する力・質問する力を高められるよう積極的かつ協働の学習環境を意識してください。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワークの理論と方法(専門)	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	石川 真弓		
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1. 社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する 2. 支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する 3. 社会資源の活用意義をふまえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する 4. 個別の事例の具体的な解決策および事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
高齢者施設の介護職員、相談員、施設長等と社会医療法人社団の病院と高齢者施設の両方の施設(病院)を掛け持ち、退院支援や在宅支援、施設入所などの相談業務を中心としたソーシャルワーカーを15年以上経験してきた。また、江戸川区内の高齢者相談員部会や全国老人保険協会支援相談部会、江戸川区介護保険認定審査会などに所属し地域や行政と高齢者社会における地域活動を実施してきた。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 社会福祉士・精神保健福祉士養成講座 ソーシャルワークの理論と方法(専門科目) /中央法規出版					他科目で学習した基礎知識を本科目にもつなげて授業に取り組みめるよう復習をする。自身の日常生活圏域や社会の変化、社会問題等を意識的に情報収集する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 第5章 ミクロ・メゾ・マクロの会議①  【到達目標】 ・事例に基づき、ミクロ、メゾ、マクロレベルの会議(カンファレンス)を開催することができる ・会議開催に伴う記録、終了後フィードバックの意味と効果を実践的に理解する				9	【授業単元】 第7章 ファシリテーション  【到達目標】 ・ファシリテーションの定義、目的、活用領域を理解する ・ファシリテーションのプロセスと留意点を理解する			
2	【授業単元】 第5章 ミクロ・メゾ・マクロの会議②  【到達目標】 ・事例に基づき、ミクロ、メゾ、マクロレベルの会議(カンファレンス)を開催することができる ・会議開催に伴う記録、終了後フィードバックの意味と効果を実践的に理解する				10	【授業単元】 第7章 プレゼンテーション  【到達目標】 ・プレゼンテーションの意義、目的、方法を理解する ・問題への気付きと視点(フレームワーク)を理解する ・プレゼンテーション資料作成と事前準備、事後評価の必要性和留意点を理解する			
3	【授業単元】 第6章 事例分析、事例検討  【到達目標】 ・事例分析の目的と意義、方法と留意点を理解する ・事例検討の目的と意義、方法と留意点を理解する				11	【授業単元】 実践を考える  【到達目標】 ・ファシリテーション、プレゼンテーションの学習内容をふまえて、問題提起・プレゼンテーションを行うことができる ・自身に必要なスキルを客観的に評価し、次の学びにつなげることができる			
4	【授業単元】 第6章 事例研究  【到達目標】 ・事例研究の目的と意義、方法を理解する ・事例研究の実施プロセスと倫理的配慮を理解する				12	【授業単元】 第7章 ソーシャル・マーケティング  【到達目標】 ・ビジネスから捉える社会問題の視点を理解し、多面的、異なる価値観からの気付きを意識化する ・ソーシャル・ビジネスの要素と事業領域を理解する ・ソーシャル・マーケティングの定義と目的、基準、プロセスを理解する			
5	【授業単元】 第7章 ネゴシエーション①  【到達目標】 ・交渉の種類、原則を理解する ・展開過程を理解する ・交渉に必要な要素を理解する				13	【授業単元】 国家試験対策  【到達目標】 ・国家試験概要と傾向を確認する ・演習問題等を通して、国家試験に向けた学習対策を理解する			
6	【授業単元】 第7章 ネゴシエーション②  【到達目標】 ・事例に基づき、ネゴシエーションに取り組むことができる				14	【授業単元】 国家試験対策  【到達目標】 ・国家試験概要と傾向を確認する ・演習問題等を通して、国家試験に向けた学習対策を理解する			
7	【授業単元】 第7章 コンフリクト・レゾリューション  【到達目標】 ・コンフリクトとは具体的にどのような状況か、これに向き合う目的を理解する ・コンフリクトの構造と対処を理解する ・事例を通して、リスクコミュニケーションの重要性を理解する				15	【授業単元】 定期試験 解説および後期学習内容の振り返り(まとめ)  【到達目標】 ・後期授業の学習内容から出題 ・定期試験解説、後期学習目標の達成度を振り返り、国家試験に向けて具体的な取り組みを考える			
8	【授業単元】 中テスト 解説および学習内容の振り返り  【到達目標】 ・後期第1～7回の学習内容から出題 ・中テスト解説、学習内容の振り返りから理解度を確認する ・国家試験対策(演習問題)				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
専門職種、職場における実践をイメージし社会福祉士としての思考を意識して取り組みましょう。自他の考えを受容する意識をもち、考える力・発言する力・質問する力を高められるよう積極的かつ協働の学習環境を意識してください。									

授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク演習(社会専門) I	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	小島修・田原雄二・峯村里美		
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・ソーシャルワーカーとしての基礎となる技術・知識を実践を通して体得する。・座学で学んでいる内容を知識だけに留めず実践する中で、実践力を養い現場で生かすことのできる即戦力を身につける。・同じ専門職を目指す仲間通しの価値観に触れる、深める中で、視野の広さ・選択肢の豊富さに繋がり総合的に対応できる能力を習得する。(上記、前期・後期を通して)									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
高齢者、障害児者、地域福祉それぞれの分野でソーシャルワークの実務経験のある教員が、利用者本人を中心に据えたソーシャルワークの実践力を体得させるために、グループワークや事例検討を中心とした演習を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
テキストはなし。参考図書については授業にて適宜提示する。					地域共生型社会の中で、変わりゆく社会、多様化していく社会の情報を当たり前として捉えず、情報に敏感になり考える習慣を身に付けてほしい。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション  【到達目標】 演習の狙いと進め方を共有し、年間を通しての目標を明確にする 現場実習を見据え、ソーシャルワーカーとしての支援の視点を理解する				9	【授業単元】 インテーク③  【到達目標】 前回の振り返りを生かし実践し、技術を習得する			
2	【授業単元】 意思決定支援①  【到達目標】 代弁者として携わる専門職として、様々な価値観に触れ自身の考えが 当たり前でないことを理解する意思決定支援の重要性を学ぶ				10	【授業単元】 インテーク④  【到達目標】 インテークの事例をクライアント側の立場で考え、ソーシャルワーカーと 双方の立場を理解する			
3	【授業単元】 意思決定支援②  【到達目標】 実際の事例を通し意思決定支援の難しさ、葛藤を理解しながらも支援を 考える現時点での力量を把握する				11	【授業単元】 インテーク⑤  【到達目標】 前回の作成した事例をグループを交えてインテーク面接を実施場面が 変わっても対応できる実践力を習得する			
4	【授業単元】 ニュースを題材にした状況の想像①  【到達目標】 ストーリーを考えることで、想像力の差異や傾向の違いがあることを認 識し自分の価値観を知る、人の生活を想像するためには多くの知識が 必要であることを理解する				12	【授業単元】 アセスメント①  【到達目標】 アセスメントに求められるポイント、要素を復習・理解する			
5	【授業単元】 ニュースを題材にした状況の想像②  【到達目標】 前回の内容を発表し意見交換する中で、想定した登場人物の関心や心 理面の考察からお互いの観点や違いを認識する				13	【授業単元】 アセスメント②  【到達目標】 インテーク時に使用した事例をもとにアセスメントを行い課題解決に必 要な情報を収集できる			
6	【授業単元】 肯定的な反応  【到達目標】 否定的な内容について、傾聴しつつ肯定的な反応を返せるよう実践す る傾聴、受容だけでは解決しないことを認識しリフレーミングが活用でき る				14	【授業単元】 アセスメント③  【到達目標】 前回のアセスメント時の不足がないか検討しプランニングに必要な情報 を肉付けするアセスメントの重要ポイントを理解する			
7	【授業単元】 インテーク①  【到達目標】 相談援助の中でも、重要度が高く、日々繰り返されるインテークについ て重点的に学ぶ事例をもとに実際にインテーク面接を実施する				15	【授業単元】 定期テスト  【到達目標】 小論文を実施する			
8	【授業単元】 インテーク②  【到達目標】 前回のインテーク内容を振り返り意見交換し、ポイントを学びながら留 意点は何かを理解する				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、 AからFの6段階で評価を行う。また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15 点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整 数でない場合は、小数点以下は切上げとする。  1. レポートのテーマ内容や提出状況により評価する 2. 授業への参加姿勢、グループワーク、発表等の授業参画度により評価 する				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
固定概念を持たず、柔軟な考えと他者の意見を否定せずに受け止めることで 成長に活かしてください。共に考えるという姿勢を大切に。演習一つを大 切な実践の場と捉えて取り組んでください。									

## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク演習(社会専門)Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	小島修・田原雄二・峯村里美		
学科 コース	社会福祉科	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
<p>・ソーシャルワーカーとしての基礎となる技術・知識を実践を通して体得する。・座学で学んでいる内容を知識だけに留めず実践の中で、実践力を養い現場で生かすことのできる即戦力を身につける。・同じ専門職を目指す仲間通しの価値観に触れる、深める中で、視野の広さ・選択肢の豊富さに繋がりが総合的に対応できる能力を習得する。(上記、前期・後期を通して)</p>									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
<p>高齢者、障害児者、地域福祉それぞれの分野でソーシャルワークの実務経験のある教員が、利用者本人を中心に据えたソーシャルワークの実践力を体得させるために、グループワークや事例検討を中心とした演習を行う。</p>									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
テキストはなし。参考図書については授業にて適宜提示する。					地域共生型社会の中で、変わりゆく社会、多様化していく社会の情報を当たり前として捉えず、情報に敏感になり考える習慣を身に付けてほしい。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 プランニング①				9	【授業単元】 ソーシャルワーク支援過程実践③			
	【到達目標】 プランニングのポイントを理解する前回までにアセスメントした内容をもとに個人でプランニングを実施する					【到達目標】 各関係機関の役割で課題解決に向けたプランニングを行う専門性を理解し発信力を養う、想いを言語化することができる			
2	【授業単元】 プランニング②				10	【授業単元】 ソーシャルワーク支援過程実践④			
	【到達目標】 個人ワークの内容を持ち寄り意見交換しながらグループでプランニングを実施するグループワークの特性も理解する					【到達目標】 各関係機関のプランニング内容を持ち寄り担当者会議を行うそれぞれの専門性を生かし、チームで課題解決に向けたコーディネートができる			
3	【授業単元】 プランニング③				11	【授業単元】 事例検討①			
	【到達目標】 プランニング内容を発表し共有するクライアント中心の課題解決に向かうプランニングと終結がイメージできている					【到達目標】 世帯支援の事例を視野を様々なソーシャルワーカーの立場で読み取り、解決に向かうことができる			
4	【授業単元】 支援の実施・モニタリング①				12	【授業単元】 事例検討②			
	【到達目標】 意識が薄れがちな支援経過の中で新たな課題が生じていないかなど、感覚・気づきの視点を養う					【到達目標】 現場での実際の事例を解決することができる			
5	【授業単元】 支援の実施・モニタリング②				13	【授業単元】 多様性について			
	【到達目標】 プランニング内容に課題が生じた場合の原因を特定し、課題解決に向かうための支援を実施することができる					【到達目標】 これまで培ってきた視野・価値観で多様性について考え、他者の意見と取り入れ、自身の視点を発信できる			
6	【授業単元】 終結・アフターケア				14	【授業単元】 選択授業			
	【到達目標】 終結の意味合いを理解し、ロールプレイを通して、終結に伴う感情を理解する					【到達目標】 1年間授業を行った中で学生が希望する内容を実施一緒に考え価値観を共有や課題解決に向かえる			
7	【授業単元】 ソーシャルワーク支援過程実践①				15	【授業単元】 定期テスト			
	【到達目標】 実際に実践してきたソーシャルワークの過程を学生主体で行う過程で使用事例を作成する					【到達目標】 小論文を実施する			
8	【授業単元】 ソーシャルワーク支援過程実践②				<b>【成績評価の方法と基準】</b>				
	【到達目標】 事例に基づき支援するために必要な関係機関を挙げる各機関に分かれ機関の役割を理解・共有する				<p>科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。また、試験は筆記試験で行う。毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p> <p>1. レポートのテーマ内容や提出状況により評価する 2. 授業への参加姿勢、グループワーク、発表等の授業参画度により評価する</p>				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
<p>固定概念を持たず、柔軟な考えと他者の意見を否定せずに受け止めることで成長に活かしてください。共に考えるという姿勢を大切に。演習一つを大切な実践の場と捉えて取り組んでください。</p>									



**授 業 概 要**

科目名	卒業研究 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	安部/伊藤/小島/田邊/野口/原田
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位 総時間数 30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>							
社会福祉を経済・宗教・政治・歴史・科学といった様々な観点から考察することにより、実践的かつ創造的なソーシャルワーク実践を行うための力を身につける。							
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>							
一方的な知識の伝達授業ではなく、教員-学生及び学生-学生の双方向の学びに焦点をあてた授業の展開となる。ゲストスピーカーをはじめ、関係機関の訪問、ディスカッション、プレゼンテーションを実施し学びを深め、福祉に限らない知識や視点を身につける。※各ゼミナール担当教員によって授業形式は変動する。							
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>				<b>【授業時間外における学習】</b>			
各教員から適宜資料及びレジュメ等を配布する。				新聞やニュース、書籍等から自発的に情報収集し研鑽に努めること。			
コマ	授業計画			コマ	授業計画		
1	【授業単元】4年生合同 4月14日 オリエンテーション			9	【授業単元】 6月16日		
	【到達目標】 年間計画の作成 具体的行動計画の作成				【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など		
2	【授業単元】4年生合同 4月21日			10	【授業単元】 6月23日		
	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など				【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など		
3	【授業単元】4年生合同 4月28日			11	【授業単元】 6月30日		
	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など				【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など		
4	【授業単元】4年生合同 5月12日			12	【授業単元】 7月7日		
	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など				【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など		
5	【授業単元】4年生合同 5月19日			13	【授業単元】 7月14日		
	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など				【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など		
6	【授業単元】4年生合同 5月26日			14	【授業単元】 7月21日		
	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など				【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など		
7	【授業単元】4年生合同 6月2日			15	【授業単元】 7月28日		
	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など				【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など		
8	【授業単元】4年生合同 6月9日			<b>【成績評価の方法と基準】</b>			
	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など			12月15日(金)にゼミナール報告会を実施 プレゼンテーションを通して、以下の観点から評価する。 ①ゼミでの学びや体験を言語化することができるか ②オーディエンスを意識したプレゼンテーションになっているか ③社会課題に対してソーシャルワークの視点が含まれているか  評価詳細に関しては、学期に準じる			
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>							
何かが提供されるのではなく、ゼミナールでは創り上げていくことがコンセプトとなります。主体的に学びたいテーマや関心を提案していくようにしてください。							

## 授業概要

科目名	卒業研究 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	安部/伊藤/小島/田邊/野口/原田		
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
社会福祉を経済・宗教・政治・歴史・科学といった様々な観点から考察することにより、実践的かつ創造的なソーシャルワーク実践を行うための力を身につける。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
一方的な知識の伝達授業ではなく、教員-学生及び学生-学生の双方向の学びに焦点をあてた授業の展開となる。ゲストスピーカーをはじめ、関係機関の訪問、ディスカッション、プレゼンテーションを実施し学びを深め、福祉に限らない知識や視点を身につける。※各ゼミナール担当教員によって授業形式は変動する。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
各教員から適宜資料及びレジュメ等を配布する。					新聞やニュース、書籍等から自発的に情報収集し研鑽に努めること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】4年生合同 10月20日				9	【授業単元】 12月22日			
	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など					【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など			
2	【授業単元】4年生合同 10月27日				10	【授業単元】 11月12日			
	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など					【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など			
3	【授業単元】4年生合同 11月3日				11	【授業単元】 11月19日			
	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など					【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など			
4	【授業単元】4年生合同 11月17日				12	【授業単元】 1月28日			
	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など					【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など			
5	【授業単元】4年生合同 11月24日				13	【授業単元】 2月2日			
	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など					【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など			
6	【授業単元】4年生合同 12月1日				14	【授業単元】 2月9日			
	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など					【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など			
7	【授業単元】4年生合同 12月8日				15	【授業単元】 2月16日			
	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など					【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など			
8	【授業単元】4年生合同 12月15日				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 12月15日(金)にゼミナール報告会を実施 プレゼンテーションを通して、以下の観点から評価する。 ①ゼミでの学びや体験を言語化することができるか ②オーディエンスを意識したプレゼンテーションになっているか ③社会課題に対してソーシャルワークの視点が含まれているか  評価詳細に関しては、学則に準じる				
	【到達目標】 ゼミナール活動における修得 ①基礎知識 ②外部見学 ③ディスカッション ④講演など								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
何かが提供されるのではなく、ゼミナールでは創り上げていくことがコンセプトとなります。主体的に学びたいテーマや関心を提案していくようにしていただく。									

## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク特別演習Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	田邊 慎悟	
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>								
ソーシャルワーク実習に向けて、専門職としての知識・技術・姿勢・価値など最低限の力を身につける。同時に、既存の枠組みにとらわれることなく、社会課題に対して独創性かつEBPIに基づく行動がとれるようになる。								
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>								
医療・児童にてソーシャルワーク実践を行ってきたものが、ソーシャルワークの定義を踏まえた上で、実戦に必要な知識・技能を事例・ロールプレイ・講義を通して授業を展開していく。特に知識については、インプットからアウトプットすることにより伝える力を身につけていく。								
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>			
レジュメ 必要に応じて、随時資料を追加で配布する					ペア・グループを活用して実技試験に向けて準備を行っておくこと。同時に、指導を受けたい場合は事前に教員へアポイントをとって備えること。			
コマ	授業計画				コマ	授業計画		
1	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション ソーシャルワーク実践を行うために  <b>【到達目標】</b> 7月に実施されるOSCE及びSBTに関する説明実施 ソーシャルワーク実践における事前評価の重要性を理解する。				9	<b>【授業単元】</b> 家族の変化と求められる支援  <b>【到達目標】</b> 家族システムを通して、多様化する社会の[多様化]とは何を指すのか理解する。		
2	<b>【授業単元】</b> 介護保険制度  <b>【到達目標】</b> 介護保険制度について仕組み及び利用方法を説明することができる。				10	<b>【授業単元】</b> 多領域・多職種間の連携・協働  <b>【到達目標】</b> 連携・協働するための基本的な機能を理解する。		
3	<b>【授業単元】</b> 医療保険制度  <b>【到達目標】</b> 高額療養費制度及び標準負担額・限度額適用認定証の説明を実施することができる				11	<b>【授業単元】</b> 歪んだ信頼関係  <b>【到達目標】</b> 事例を通して、信頼関係の構築について理解する。		
4	<b>【授業単元】</b> 障害者手帳制度  <b>【到達目標】</b> 身体・知的・精神障害者手帳を申請する際に申請方法及び申請窓口等について説明することができる				12	<b>【授業単元】</b> 実習定期申請手続き  <b>【到達目標】</b> 実習艇申請のための書類作成		
5	<b>【授業単元】</b> 生活保護制度  <b>【到達目標】</b> 生活保護の申請及び受けられる扶助に関して説明することができる				13	<b>【授業単元】</b> ポジションの視点と理解  <b>【到達目標】</b> 認識と経験から形成される特徴を理解する。		
6	<b>【授業単元】</b> 2022/5/25 2021OSCE事例からの考察(加藤優)  <b>【到達目標】</b> インテーク面接の意義を踏まえた上で、事例検討の意義を理解する。 同時に会話スクリプトを構築していき、半構造化面接を構築する。				14	<b>【授業単元】</b> スーパービジョン実践  <b>【到達目標】</b> 事例のまとめ方と情報収集の枠組みを理解する		
7	<b>【授業単元】</b> 生命を巡る倫理  <b>【到達目標】</b> DSMの概念を理解した上で、事例検討し社会的ジレンマについて理解する。				15	<b>【授業単元】</b> SBT  <b>【到達目標】</b> SBT提出とフィードバック		
8	<b>【授業単元】</b> 単身化する社会  <b>【到達目標】</b> 孤立と孤独の違い。社会的な無縁とは何を指すのか理解する。				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 7月16日に試験を実施する。 【SBT】 オリエンテーション時に配布する資料を完成させ、OSCE当日に提出をする。 全体の6割以上の得点率及び各都において0点がないこととする。 【OSCE】 事前に提示されているルーブリック評価を用いて、以下3点からの評価を行い、全て合格することを必要とする。 ①実技項目 ○分間の面接の実施。ルーブリック評価を基に試験官2名及びクライアント1名の3者からの評価 全ての項目に対して、試験官及びクライアントからの評価にて1(不適切)評価がないこと。 ②報告 試験官に面接報告(面接内容・アセスメント・支援計画など)を要約して行う ③実習日誌の作成 上記3点を踏まえて総合的に評価を行う。			
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>								
社会福祉援助実習は「実習生」といえず、施設を利用する方及び家族からは職員として見られます。専門職としてだけでなく、社会人としてのビジネススキルも求められます。遅刻・欠席がないよう体調管理も含め留意して受講してください								

## 授 業 概 要

科目名	医学概論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	萩原 直美		
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
ソーシャルワーク専門職として、病者や家族を含めた支援者および地域住民のニーズを把握し、多職種・他機関との連携を図りながら問題解決に取り組んでいくために必要とする基礎的な医学知識を身につける。									
【学習内容】									
担当教員の看護師としての一般病棟・救急および手術室・療養型病床における様々な状態像を対象とした臨床経験と介護支援専門員としてのケアチームにおけるケアマネジメントおよび地域ネットワークの構築等における実務経験の視点を取り入れ、医療職種との連携をイメージできるような授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 1 医学概論					授業予定の教科書部分に事前に目を通して予習をしておくこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 <ガイダンス> 【第1章 ライフステージにおける心身の変化と健康課題（第1）】 【到達目標】 ・それぞれのライフステージにおける心身の特徴を説明できる。 ・乳幼児期における成長と発達の特徴について説明できる。				9	【授業単元】 【第6章 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション】（第1～3節） 【到達目標】 ・それぞれの疾病の原因、症状、治療について説明できる。 ・それぞれの疾病について日常生活上の留意点等を説明できる。			
2	【授業単元】 【第1章 ライフステージにおける心身の変化と健康課題（第2～3）】 【到達目標】 ・老化による心身の変化について述べられる。 ・それぞれのライフステージにおける健康課題について説明できる。				10	【授業単元】 【第6章 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション】（第4～8節） 【到達目標】 ・それぞれの疾病の原因、症状、治療について説明できる。 ・それぞれの疾病について日常生活上の留意点等を説明できる。			
3	【授業単元】 【第2章 健康および疾病の捉え方（第1～2節）】 【到達目標】 ・健康の定義や健康寿命の概念について述べられる。 ・ICFの概念とICIDHとの違いについて説明できる。				11	【授業単元】 【第6章 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション】（第9～12節） 【到達目標】 ・それぞれの疾病の原因、症状、治療について説明できる。 ・それぞれの疾病について日常生活上の留意点等を説明できる。 ・障害の分類や特徴、支援を行う際の留意点等を説明できる。			
4	【授業単元】 【第3章 身体構造と心身機能（第1～2節1～4）】 【到達目標】 ・人体各部位の名称を正確に述べることができる。 ・骨格系、筋系、循環器系、消化器系の構造とそれぞれの機能の特徴について説明することができる。				12	【授業単元】 【第6章 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション】（第13～16節） 【到達目標】 ・それぞれの疾病の原因、症状、治療について説明できる。 ・それぞれの疾病について日常生活上の留意点等を説明できる。 ・障害の分類や特徴、支援を行う際の留意点等を説明できる。			
5	【授業単元】 【第3章 身体構造と心身機能（第1～2節5～8）】 【到達目標】 ・呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系の構造とそれぞれの機能の特徴について説明することができる。				13	【授業単元】 【第6章 疾病と障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション】（第17～19節） 【到達目標】 ・それぞれの疾病の原因、症状、治療について説明できる。 ・それぞれの疾病について日常生活上の留意点等を説明できる。 ・障害の分類や特徴、支援を行う際の留意点等を説明できる。			
6	【授業単元】 【第3章 身体構造と心身機能（第1～2節9～12）】 【到達目標】 ・神経系、感覚器系、皮膚、血液の構造とそれぞれの機能の特徴について説明することができる。				14	【授業単元】 【第7章 公衆衛生（第1～2節）】 【到達目標】 ・予防医学の概念について説明できる。 ・各保健対策や疾病対策の特徴について説明できる。			
7	【授業単元】 【第4章 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程（第1節）】 【到達目標】 ・疾病の発生原因について述べられる。 ・病変の成立機序について述べられる。				15	【授業単元】 科目まとめ、振り返り <定期試験> <定期試験解答解説> 【到達目標】 ・科目の重要なポイントが確認できる。 ・自己学習に必要な課題を把握することができる。			
8	【授業単元】 【第5章 リハビリテーションの概要と範囲（第1～4節）】 <中間テスト> 【到達目標】 ・リハビリテーションの定義や目的を説明できる。 ・リハビリテーションの対象とかかわる専門職について述べられる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験は、筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト（8回目の授業で実施）は15点満点とする。その合計（80点満点）の1/2の点数（小数点以下切り上げ）を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
医療職種は、互いの専門性を尊重し協働していくチームの一員であると捉える。									

## 授 業 概 要

科目名	社会学と社会システム	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	内藤 博幸		
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	15 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
現実の社会が抱える問題を分析することによって、社会のシステム(制度・構造など)を理解する。詳細な到達目標は、社会変動と労働力の関係を説明できる。人口構造について我が国の特徴を理解する。都市化や過疎化など地域のあり方を概説できる。社会集団と組織を理解する。家族のあり方と機能について説明できる。生活様式とライフスタイルの変遷について考察する。人と社会との関係(役割、行為、ジレンマ)を理解する。さらに、具体的な社会問題(差別、貧困、社会的排除、ハラスメント、児童虐待、いじめなど)について解決策を提案することができるようになることである。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
10年以上の社会学そして社会保障制度に関する講義経験を持つ教員が、福祉的視野から社会というもののあり方、仕組み(社会システム)自体を理解するための授業を行う。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
「最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 3 社会学と社会システム」中央法規					授業を受けたその日のうちに、今一度内容を確認することが重要です。そこで、必ず疑問点が、見えてくるはず。そして、試験前には徹底的に覚えこまします。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 第1章 社会学の視点 容 P2~6 第2章 第5節 社会変動(社会学の誕生) P77~79				9	【授業単元】 第5章 自己と他者			
	【到達目標】 ・社会学がなぜ必要なのかを理解できる ・コントとマルクスの歴史観を解説できる ・社会学がなぜ学問として成立したのかを社会変動の視点で解説できる					【到達目標】 ・役割の意味を説明できる ・ミードの役割取得について解説できる ・ゴッフマンの印象操作を解説できる			
2	【授業単元】 第4章 第1節 家族とジェンダー P154~169				10	【授業単元】 第2章 第2節 組織と集団 P49~59			
	【到達目標】 ・家族の定義を言える ・我が国の家族のあり方の変容を解説できる ・家族の機能をオグバーンの理論を用いて説明できる ・家族機能とジェンダーについて考察することができる					【到達目標】 ・ゲゼルシャフトとゲマインシャフトを説明出来る ・第一次集団と第二次集団を説明出来る ・コミュニティとアソシエーションの違いが言える ・準拠集団の説明ができる			
3	【授業単元】 第2章 第6節 地域 PBB~102				11	【授業単元】 第2章 第7節 環境 P104~110 第3章 第4節 災害と復興 P146~152			
	【到達目標】 ・地球社会の過疎問題を説明できる ・ワースのアーバニズム論を語る事ができる ・クラークの都市の発展段階論を解説できる ・日本の都市社会学に関する学説を語る事ができる					【到達目標】 ・ベックのリスク社会を解説できる ・地球環境問題を解説できる ・社会的ジレンマに関する理論を説明できる ・SDGsを説明できる			
4	【授業単元】 第3章 市民社会と公共性 第1節 社会的格差 P112~122				12	【授業単元】 第2章 第4節 グローバリゼーション P65~76			
	【到達目標】 ・我が国の「格差」の現状を解説できる ・相対的貧困の定義が言える ・ブルデューの分化資本を解説できる ・ジニ係数等で格差の現状を解説できる					【到達目標】 ・グローバリゼーションの影響を考察できる ・ウォラーステインの世界システム論を解説できる ・在日外国人労働者の現状を語る事ができる ・グローバル化の経済への影響を説明できる			
5	【授業単元】 第3章 第2節 社会政策と社会問題 P123~145				13	【授業単元】 第2章 社会構造と変動 第1節 社会システム P28~38 第5節 社会変動 P77~87			
	【到達目標】 ・マートンやベッカーの社会問題への考察視点を説明できる ・社会問題に対する社会政策の意味を説明できる ・労働運動と福祉国家成立の関連を解説できる ・福祉国家成立の歴史の意味を解説できる					【到達目標】 ・コント・スベンサー・マルクスの社会変動を解説できる ・産業化を解説できる ・近代と前近代の説明ができる			
6	【授業単元】 第3章 第3節 差別と偏見 P134~145 終章 社会関係資本と社会的連帯 P230~236				14	【授業単元】 第1章 第2節 社会学の歴史 P13~27			
	【到達目標】 ・サムナーの内集団と外集団を解説できる ・リースマンの『孤獨な群衆』の内容を説明できる ・アドルノの権威主義的パーソナリティを解説できる ・ラベリング理論に関しての解説ができる					【到達目標】 ・社会学の歴史を解説できる ・脱工業化社会(第二の近代)とは何か、説明できる ・第三の情報革命(ブロックチェーン)を解説できる			
7	【授業単元】 第4章 生活と人生 P183~206				15	【授業単元】 全ての講義の総復習として振り返り授業 定期試験 60点			
	【到達目標】 ・ベティ=クラークの法則を説明できる ・かつての日本型雇用の特徴をあげられる ・女性労働の課題をあげられる ・ワークライフバランスの背景を説明できる					【到達目標】 定期試験での6割以上の正答率を目指す			
8	【授業単元】 第2章 第3節 人口 P51~63 中テスト15点満点				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・リースマンの人口理論を説明できる ・我が国の少子化に関する原因と政府の対策を解説できる ・高齢化の現状とその問題を指摘できる ・少子高齢化が社会経済に及ぼす影響を指摘することができる								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
配布プリントに解答を書き込むだけでなく、気が付いたことや理解に役立つことと思ったら、どんどんメモを取っていくことです。									

## 授 業 概 要

科目名	社会福祉調査の基礎	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	福田真清		
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉調査の意義と目的、方法の概要を理解する。</li> <li>・統計法の概要、社会福祉調査における倫理や個人情報保護について理解する。</li> <li>・量的調査と質的調査の方法、ITを活用した社会福祉調査の方法を理解する。</li> </ul>									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
<p>障害当事者やその家族を対象にした調査研究や福祉サービス事業所における管理者等で培った知識と経験を活用し、国家試験はもとより、実践現場でも応用可能な知識が習得できるよう、体系的なスモールステップで進めていく。</p> <p>なお、確実な知識の習得を目指すため、第5回、第9回、第14回で習得度テストを行う。</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(2021)『社会福祉調査の基礎』中央法規					テキストと授業で配布するレジュメの復習を勧める。本科目の受講にあたっては各授業に1時間の自宅学習(予習・復習等)を必要とする。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション、社会福祉調査の種類				9	【授業単元】 振り返り・習得度テスト(量的調査)			
	【到達目標】 ・社会福祉調査の種類 が説明できる。					【到達目標】 量的調査に関する基礎的知識の定着を図る。			
2	【授業単元】 社会福祉調査の展開、統計法				10	【授業単元】 質的調査の意義と目的			
	【到達目標】 ・ソーシャルワーカーが社会福祉調査に取り組む意義 ・統計法の5つのポイント が説明できる。					【到達目標】 ・質的調査の特徴と量的調査との違い が説明できる。			
3	【授業単元】 社会福祉調査の倫理と個人情報保護				11	【授業単元】 質的調査方法論の主なアプローチ			
	【到達目標】 ・社会福祉調査における倫理的配慮 ・OECD8原則と個人情報保護法のポイント が説明できる。					【到達目標】 ・対象者の選定 ・質的調査の方法 が説明できる。			
4	【授業単元】 社会福祉調査のデザイン				12	【授業単元】 質的データの整理と分析			
	【到達目標】 ・「演繹的」「帰納的」の違い ・量的調査の種類 が説明できる。					【到達目標】 ・データ分析のための基礎的作業の手順 ・データの分析方法の特徴 が説明できる。			
5	【授業単元】 振り返り・習得度テスト(社会福祉調査の基礎的知識)				13	【授業単元】 プログラム評価、実践評価			
	【到達目標】 ・社会福祉調査に関する基礎的知識の定着を図る。					【到達目標】 ・プログラム評価の種類 ・シングル・システム・デザインに基づく評価方法 が説明できる。			
6	【授業単元】 対象者の選定、測定				14	【授業単元】 振り返り・習得度テスト(質的調査)			
	【到達目標】 ・対象者の選定 ・尺度4種類の特徴 が説明できる。					【到達目標】 質的調査、ソーシャルワークにおける評価に関する基礎的知識の定着を図る。			
7	【授業単元】 データの収集方法				15	【授業単元】 社会福祉調査の展望、試験			
	【到達目標】 ・質問紙の配布と回収の方法 ・質問紙を作成するときの留意点 が説明できる。					【到達目標】 ・新しい調査手法 が説明できる。			
8	【授業単元】 量的データの整理と分析				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、習得度テスト(ほかの科目の中テストにあたり、第5、9、14回目の授業で実施)は各回5点満点・計15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・データ分析のための基礎的作業の手順 ・データの視覚化 ・基本的な検定方法の種類と特徴 が説明できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
それぞれの授業は連関し合っているため、わからない部分はそのままにせず、次の授業までに必ず消化しておくこと。									

## 授 業 概 要

科目名	社会保険	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	前期	担当 教員	伊藤亮太		
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
社会保険・福祉問題を正しく理解し、臨床において活躍できる人材養成を行う。また、社会福祉士国家取得対策としてその知識をまかなう。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学院において、社会保険制度の研究を行い、その後年金・医療・介護・資金計画等で個人のライフプランニング設計等に携わっている。研究だけではなく、実務双方からの授業を行い、資格試験対策だけではなく、その後の実務でも生かせるよう工夫していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新・社会福祉士養成講座「社会保険」(中央法規)					授業終了後の復習を怠らないこと。社会保険に関するニュースなど日ごろから改正項目等には注目しておくこと。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	<p>【授業単元】 第1章現代社会と社会保険 第1節人口動態の変化、第2節経済環境の変化</p> <p>【到達目標】 我が国における社会保険の定義を理解、説明することができる。人口動態および経済環境の変化、歴史的背景を学び、社会保険の変遷を理解する。</p>				9	<p>【授業単元】 第5章 社会保険制度の体系 第1節医療保険制度の概要②</p> <p>【到達目標】 日本の医療保険制度の特徴を理解する。高額療養費制度など実際に活用できる仕組みを理解し、いざというときに活用できるようになる。</p>			
2	<p>【授業単元】 第1章の続き、第2章社会保険の概念や対象およびその理念 第1節社会保険の概念と範囲、第2節社会保険の役割と意義</p> <p>【到達目標】 社会保険、公的扶助、社会手当の違いを理解し説明することができるようになる。 日本における社会保険制度構築の経緯と社会保険・社会福祉発展の流れを理解する。</p>				10	<p>【授業単元】 第5章 社会保険制度の体系 第2節介護保険制度の概要</p> <p>【到達目標】 介護保険制度の概要と、実際適用できる施設など実務でも活かせる内容を理解し、説明することができる。 要介護度に応じて何が適用できるのか把握できる。</p>			
3	<p>【授業単元】 第2章の続き 第3節社会保険の理念、第4節社会保険の対象 第5節 社会保険制度の展開</p> <p>【到達目標】 我が国の社会保険の流れを把握し、各年代においてどのような制度が策定されてきたか説明できるようになる。 社会保険の対象にはどのような制度があり、どのような役割を担っているか説明できるようになる。</p>				11	<p>【授業単元】 第5章 社会保険制度の体系、第3節年金制度の概要①</p> <p>【到達目標】 年金制度の体系を理解する。老齢年金の受給要件を理解するほか、ご自身が今後加入するであろう年金制度にどんなものがあるのかわかるようになる。</p>			
4	<p>【授業単元】 第3章 第1節社会保険の財政、第2節社会保険給付費</p> <p>【到達目標】 社会保険の財政状況の概要がつかめるようになる。 社会保険の財源を理解し、概要がつかめるようになる。</p>				12	<p>【授業単元】 第5章 社会保険制度の体系、第3節年金制度の概要②</p> <p>【到達目標】 遺族年金および障害年金の概要を理解する。どういったケースの場合に遺族年金や障害年金を受け取ることができるのか、また誰が受け取れるのかを把握する。</p>			
5	<p>【授業単元】 第3章続き 第3節国民負担率、第4節社会保険と経済 第4章 社会保険・社会扶助・民間保険の関係 第1節保険と扶助の考え方</p> <p>【到達目標】 社会保険の統計について、数字で把握し、現状を説明できるようになる。 保険と扶助の考え方を理解し何が異なるのか説明できるようになる。</p>				13	<p>【授業単元】 第5章 社会保険制度の体系、第3節年金制度の概要③</p> <p>【到達目標】 企業年金と個人年金の仕組みを理解する。公的年金の補完としてこれらの年金を活用できるようになる。</p>			
6	<p>【授業単元】 第4章の続き、第2節社会保険と社会扶助の考え方 第3節 社会保険と民間保険の現状</p> <p>【到達目標】 社会保険と民間保険の違いを把握できるようになる。 具体的な民間保険の仕組みを学び、実際に加入時に活かせるようになる。</p>				14	<p>【授業単元】 ここまでのおまとめ</p> <p>【到達目標】 問題演習により、これまでの内容を再確認していく。各項目における重要度の高い内容を再度理解する。</p>			
7	<p>【授業単元】 第4章の民間保険のおまとめ</p> <p>【到達目標】 様々な民間保険の仕組みを学び、社会保険の補完的な役割として活用できるようになる。 どういった場合にどんな保険に加入すべきか理解する。</p>				15	<p>【授業単元】 期末試験</p> <p>【到達目標】 期末試験で合格点に到達する</p>			
8	<p>【授業単元】 第5章 社会保険制度の体系 第1節医療保険制度の概要①</p> <p>【到達目標】 健康保険制度の仕組みを理解し、ご自身がどの健康保険に加入しているのか、どういった場合に活用できそうなのか理解する。</p>				<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>期末試験問題をもとに成績評価を行う。 問題は国家試験と同レベルとし、総合評点が 60～69点・・・D 70～79点・・・C 80～89点・・・B 90～100点・・・Aとする。 59点以下はFとし、出席不良はEとする。</p>				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
日頃から社会保険に関心を持ち、新聞やニュース、雑誌などで改正点や最新情報を把握しておくこと。									

## 授 業 概 要

科目名	社会保障	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	前期	担当 教員	伊藤亮太		
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
社会保障・福祉問題を正しく理解し、臨床において活躍できる人材養成を行う。また、社会福祉士国家取得対策としてその知識をまかなう。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学院において、社会保障制度の研究を行い、その後年金・医療・介護・資金計画等で個人のライフプランニング設計等に携わっている。研究だけではなく、実務双方からの授業を行い、資格試験対策だけではなく、その後の実務でも生かせるよう工夫していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新・社会福祉士養成講座「社会保障」(中央法規)					授業終了後の復習を怠らないこと。社会保障に関するニュースなど日ごろから改正項目等には注目しておくこと。				
回	授業計画				回	授業計画			
16	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第3節年金制度の概要④				24	【授業単元】 第6章 諸外国における社会保障制度 第1節 諸外国の社会保障			
	【到達目標】 年金制度のおさらいと、レジュメによる具体的な年金額の計算、事例を確認する。年金額がご自身で計算できるようになる。					【到達目標】 諸外国と日本を比較して、社会保障制度の違いを理解、説明できるようになる。各国の年金、医療、介護がどのような仕組みなのか説明できるようになる。			
17	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第3節年金制度の概要⑤				25	【授業単元】 第6章 続き 第2節 社会保障の国際比較、第3節 社会保障の国際化、過去問題演習			
	【到達目標】 国民年金制度と厚生年金制度のおさらいと、レジュメによる具体的な年金額の計算、事例を確認する。年金額がご自身で計算できるようになる。					【到達目標】 社会保障の国際化について各国との連携を説明できるようになる。過去問題をもとに、社会保障の仕組みを復習する。			
18	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第3節年金制度の概要⑥				26	【授業単元】 過去問題解説(一問一答形式)			
	【到達目標】 企業年金および個人年金のおさらいと、レジュメによる具体的な年金額の計算、事例を確認する。年金額がご自身で計算できるようになる。					【到達目標】 一問一答形式により、過去問題を解き、何が間違っているのか把握する。単純に問題を解くだけではなく、その後の実務に活かせるように、○×問題を解説していく。			
19	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第3節年金制度の概要⑦				27	【授業単元】 過去問題解説(一問一答形式)			
	【到達目標】 年金マスター問題をもとに、各自年金の計算や誰が受け取れるのかなど公的年金制度の一般的なQ&Aに答えられるようになる。					【到達目標】 一問一答形式により、過去問題を解き、何が間違っているのか把握する。単純に問題を解くだけではなく、その後の実務に活かせるように、○×問題を解説していく。			
20	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第4節 労災保険制度と雇用保険制度の概要①				28	【授業単元】 予想問題・過去問題による演習			
	【到達目標】 労災保険の仕組みと実際の受給件数を確認し、労災状況を理解する。他の社会保障制度との違いを把握する。					【到達目標】 五肢択一式の問題をもとに、国家試験対策を行う。試験で解けるようになるのはもちろんのこと、その後の私生活、仕事においても活かせるような演習を行っていく。			
21	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第4節 労災保険制度と雇用保険制度の概要②				29	【授業単元】 予想問題・過去問題による演習			
	【到達目標】 雇用保険制度の概要を学び、実際に利用できる制度にどのようなものがあるのか理解する。労働保険制度を取り巻く経済社会環境の変化について理解する。					【到達目標】 五肢択一式の問題をもとに、国家試験対策を行う。試験で解けるようになるのはもちろんのこと、その後の私生活、仕事においても活かせるような演習を行っていく。			
22	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第5節 生活保護制度の概要、第6節 社会手当制度の概要				30	【授業単元】 期末試験			
	【到達目標】 生活保護制度、社会手当制度の特徴および社会保障制度上の位置づけを理解する。					【到達目標】 期末試験で合格点に到達する			
23	【授業単元】 第5章 社会保障制度の体系、第7節 社会福祉制度の概要				【成績評価の方法と基準】 期末試験問題をもとに成績評価を行う。 問題は国家試験と同レベルとし、総合評点が 60～69点・・・D 70～79点・・・C 80～89点・・・B 90～100点・・・Aとする。 59点以下はFとし、出席不良はEとする。				
	【到達目標】 社会福祉制度の特徴および社会保障制度上の位置づけを理解する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
日頃から社会保障に関心を持ち、新聞やニュース、雑誌などで改正点や最新情報を把握しておくこと。									



## 授 業 概 要

科目名	福祉サービスの組織と経営	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	田邊 慎悟		
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
福祉サービスを提供する施設は多岐にわたっており、同時に変動しているものである。昨今、福祉ニーズも多様化し複雑となっている。その中で、専門職として福祉サービスを提供するということはどういったことなのか、同時に質の確保を保ち持続可能なサービスを提供するためには何が必要なのかを本講義を通して学び、幅広く福祉を捉えることが出来る社会福祉士になれる力を養う。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
子どもの健全育成事業に関する研究及び社会福祉領域における実習前評価システムの開発研究を実施。 医療ソーシャルワーカーとして、新人から初任者研修担当講師や看護専門学校にて社会福祉科目の担当をした。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
社会福祉士養成講座編集委員会 新・社会福祉士養成講座/11 福祉サービスの組織と経営 プリント【補助教材】に関しては、講義時に適宜配布する					授業は振替にて、要点の記述のみを行うため、講義内で教員の話した内容はノート等に記述し、不明な用語等については次回の授業までに調べるようにすること。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> オリエンテーション 「サービス」、財(goods)の概念  <b>【到達目標】</b> 福祉サービスの組織と経営とはどういった科目になるのか、科目の概要を理解する 国家試験で出題された問題を検討することにより、社会福祉士としてこの科目から何を求められているのかを学ぶ				9	<b>【授業単元】</b> モチベーション理論  <b>【到達目標】</b> 職員の動機づけにおけるモチベーション理論(過程・内容理論)を理解する			
2	<b>【授業単元】</b> 社会福祉法人についての歴史・目的・役割について理解する  <b>【到達目標】</b> 福祉サービスの歴史と概念を理解する 社会福祉法人のガバナンス及びコンプライアンスを理解する。				10	<b>【授業単元】</b> 人事考課とメンタルヘルスクア  <b>【到達目標】</b> 人材確保方針を踏まえ、人事制度を理解する。 職場におけるメンタルヘルスクアを理解する。			
3	<b>【授業単元】</b> 福祉サービスに関わる組織や団体 I (NPO法人・医療法人・営利法人)  <b>【到達目標】</b> NPO法人の役割とガバナンスについて理解する。 各種医療法人の特性を理解するとともに、コンプライアンスを理解する。				11	<b>【授業単元】</b> 人事考課(評価制度) 会計財務の基礎  <b>【到達目標】</b> 人事考課におけるヒューマンエラーの特性を理解する 会計財務における基礎用語を理解する			
4	<b>【授業単元】</b> 経営における戦略と戦術  <b>【到達目標】</b> 組織における内部分析及び外部分析を理解する。 PDCAサイクルの特性と活用方法を理解する。				12	<b>【授業単元】</b> 財務諸表  <b>【到達目標】</b> P/L, B/S, C/Fの財務諸表の関連性を理解する。 貸借対照表の見方の理解			
5	<b>【授業単元】</b> リーダーシップ論(基礎) 組織を動かす原則  <b>【到達目標】</b> リーダーシップの歴史の変遷から、リーダーシップ論を体系的に捉え理解する。 組織形態を理解することにより、チャンドラー戦略とアンソフの違いを理解する。				13	<b>【授業単元】</b> 組織論(応用)  <b>【到達目標】</b> サイモン、シャイン、アージリス、ヘドバークなどの組織論の特性を理解する。			
6	<b>【授業単元】</b> リーダーシップ論(応用) 組織論  <b>【到達目標】</b> 質実論からフィドラー理論に至るまでの、各リーダーシップ論の特性を理解する。 パーナードによる公式組織と非公式組織の特性を理解する。				14	<b>【授業単元】</b> 福祉サービスの死s期と経営  <b>【到達目標】</b> 組織体制といったハード面をはじめ、リーダーシップや定款、人材確保などのソフト面を踏まえて、社会福祉領域におけるサービスマネジメントを理解する。			
7	<b>【授業単元】</b> サービスマネジメント  <b>【到達目標】</b> コトラーによるサービス特性を踏まえ、サービスの品質マネジメントを理解する。				15	<b>【授業単元】</b> まとめ及び全体振り返り 定期試験  <b>【到達目標】</b> 専門職としてマネジメントを学ぶことが、どのように顧客(利用者・家族など)へサービスとしてつながるのかを理解することができる。			
8	<b>【授業単元】</b> リスクマネジメント 中間試験  <b>【到達目標】</b> ハインリッヒの法則及びブリーゼンの軌道モデルを事例意を通して理解する。				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点【(4点×25問)×0.6】、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験(五肢択一または五肢択2)で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
この科目は、自分たちが働きやすくなるためには何が必要なのかを問う科目でもあります。最新の情報をキャッチするよう心掛けてください。									

## 授 業 概 要

科目名	保健医療と福祉		必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	宮路雄大			
学科 コース	社会福祉科		学年	3年	授業 形態	講義	総単位数	2 単位	総時間数	15 時間	
【授業を通じての到達目標】											
①保健医療と関連する制度を理解し説明できる。②保健医療分野における専門職の働き、協同について理解する。③ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向の理解。④保健医療の課題をもつ人に対するソーシャルワーカーとしての適切な支援のあり方を学ぶ。											
【学習内容】											
実際の相談援助に必要な保健医療制度、保健医療サービスなどの基礎知識の定着を図る。また、MSWが医療現場で求められる役割についても、事例などを用いて考察する。担当教員は、精神科病院にて精神保健福祉士として勤務経験がある。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
「最新 社会福祉士養成講座 保健医療と福祉」中央法規						・教科書、レジュメを読み込み予習と復習を行ってください。 ・新聞やニュースをチェックして、保健医療や福祉の動向を追って下さい。					
コマ	授業計画					コマ	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション 保健医療の課題をもつ人の理解 ①					9	【授業単元】 保健医療領域に必要な政策・制度およびサービスに関する知識①				
	【到達目標】 ・授業の達成目標、受講ルールを学ぶ。 ・病者、健康の定義、生活者として捉える視点について理解を深める。 ・ICIDH、ICFについて理解を深め、説明出来る。						【到達目標】 ・保健医療制度の体系、仕組みを理解し、制度の説明ができる。 ・保健医療政策・制度の方向性、課題を理解する。				
2	【授業単元】 保健医療の課題をもつ人の理解 ②					10	【授業単元】 保健医療領域に必要な政策・制度およびサービスに関する知識②				
	【到達目標】 ・現代家族像の理解する。 ・疾病や障害が家族に与える影響を理解する。 ・ソーシャルワーカーに求められる家族支援とは何か考察する。						【到達目標】 ・医療法の概要、目的を理解する。 ・医療費保障制度の概要、仕組みを理解する。 ・診療報酬制度の体系を理解する。				
3	【授業単元】 保健医療の課題をもつ人の理解 ③					11	【授業単元】 保健医療領域における支援の実際①				
	【到達目標】 ・医療における患者の権利について理解する。 ・インフォームドコンセントについて理解し、説明できる。 ・インフォームドアセントについて理解し、説明できる。						【到達目標】 ・MSWの役割、業務指針について理解する。 ・保健医療分野におけるソーシャルワーク実践の歴史と動向を学び、日本と他国の相違点など考察する。				
4	【授業単元】 医療倫理 ①					12	【授業単元】 保健医療領域における専門職の役割と連携①				
	【到達目標】 ・医療倫理の基礎を理解する。 ・医療倫理の4原則について、説明できる。						【到達目標】 ・チーム医療とは何か、また各専門職の役割を理解する。 ・多職種連携と協同の重要性を理解する。 ・MSWの院内・院外の関係機関との連携について学ぶ。				
5	【授業単元】 医療倫理 ②					13	【授業単元】 演習① 回復期リハにおけるリスクのある人の理解 演習② 自宅退院に向けたMSWの役割				
	【到達目標】 ・意思決定支援の4モデルを理解し、説明できる。 ・身寄りのない人、自身で意思を表明できない人などの、意思決定支援にソーシャルワーカーとして、どのように関わるか考察する。						【到達目標】 ・回復期リハビリテーション期におけるリスクについて考察する。 ・事例を読み、医療現場における退院支援の実情を理解し、MSWの役割を考察する。				
6	【授業単元】 保健医療の動向①					14	【授業単元】 演習① 終末期ケアにおける支援				
	【到達目標】 ・疾病構造とその経年的な動向について把握する。 ・疾病構造の変化に伴う、保健と社会の役割について理解する。 ・健康格差について理解し、住んでいる地域、国の平均寿命を調べる。						【到達目標】 ・終末期ケアと緩和ケアの違いを調べる。 ・終末期に関わるMSWの役割について、事例を通して学ぶ。				
7	【授業単元】 保健医療の動向②					15	【授業単元】 期末試験				
	【到達目標】 ・在宅医療推進の背景と課題について理解する。 ・在宅医療推進の現場におけるMSWの役割は何か調べる。 ・地域包括ケアシステムの概要を理解し、医療機関の役割を学ぶ。						【到達目標】 ・選択式、記述式を用いて知識の定着を図る。				
8	【授業単元】 中間試験					【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 ・選択式、記述式の問題を用いて知識の定着を図る。					講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】											
・適宜グループワークを行います。主体的な取り組みを期待しています。											

## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク演習(社会専門)	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	小島修・峯村里美・田原雄二		
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年次で学んだ一連の援助技術をブラッシュアップし、現場における多種多様な事例にも対応できる力を身につける。</li> <li>・具体的な事例検討やワークを通して、マイクロ・メゾ・マクロのそれぞれのレベルで求められるソーシャルワーカーの役割と実践を体得する。(上記、前期・後期を通して)</li> </ul>									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
高齢者、障害児者、地域福祉それぞれの分野でソーシャルワークの実務経験のある教員が、利用者本人を中心に据えたソーシャルワークの実践力を体得させるために、グループワークや事例検討を中心とした演習を行う。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
テキストはなし。参考図書については授業にて適宜提示する。					日頃から、福祉に関する時事問題やニュースに興味を持ち、「なぜこうなのか」を自分なりに考察する習慣を身に付ける。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 プランニング①			
	【到達目標】 演習の狙いと進め方を共有し、年間を通しての目標を明確にする 現場実習を見据え、ソーシャルワーカーとしての支援の視点を理解する					【到達目標】 2年次に学んだプランニングのポイントを読み出し、本人の思いを叶えるためのプランニングを行う			
2	【授業単元】 インテーク①				10	【授業単元】 プランニング②			
	【到達目標】 2年次に学んだインテークのポイントを読み出し、事例をもとに実際にインテーク面接を実施する					【到達目標】 前回到続き、プランニングを行う			
3	【授業単元】 インテーク②				11	【授業単元】 サービス担当者会議(プランニングの発表)①			
	【到達目標】 インテーク面接を実施してどうだったかを振り返り、他者との意見交換を通して、できた点と改善点を把握する					【到達目標】 サービス担当者会議形式で、プランニングの説明(発表)と質疑応答を行う			
4	【授業単元】 アセスメント①				12	【授業単元】 サービス担当者会議(プランニングの発表)②			
	【到達目標】 2年次に学んだアセスメントのポイントを読み出し、インテークの事例を使って必要な情報を収集・整理する 課題だけでなく、ストレス視点やリフレーミングの活用により、強みや長所も引き出す					【到達目標】 前回到続き、プランニングの説明(発表)と質疑応答を行う 他グループの発表内容と比較検討しながら、プランニングの振り返りを行い、できた点と改善点を把握する			
5	【授業単元】 アセスメント②				13	【授業単元】 モニタリング①			
	【到達目標】 事例をさらに深めるために、模擬面接により補足情報を収集・整理する アセスメントの振り返りを行い、できた点と改善点を把握する					【到達目標】 2年次に学んだモニタリングのポイントを読み出し、一定期間経過後に本人および支援者(機関)に確認すべき内容を整理する			
6	【授業単元】 ニーズ整理①				14	【授業単元】 モニタリング②			
	【到達目標】 ニーズの3分類(フェルトニーズ、ノーマティブニーズ、リアルニーズ)について理解する アセスメントで得られた情報を分析し、ニーズを「フェルトニーズ(主訴)」と「ノーマティブニーズ(ソーシャルワーカーが推測するニーズ)」に分類する					【到達目標】 模擬面接によりモニタリングを行う 振り返りを行い、できた点と改善点を把握する			
7	【授業単元】 ニーズ整理②				15	【授業単元】 定期テスト			
	【到達目標】 模擬面接により、最終的な「リアルニーズ(本人と合意したニーズ)」を導き出す ニーズ整理を振り返り、他者との捉え方の類似点や相違点を知る					【到達目標】 小論文を実施する			
8	【授業単元】 本人の「思い」の文章化				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ニーズ整理により導かれたリアルニーズを基に、本人の思いを「過去」「現在」「未来」に分けて文章化する								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
3年次はこれまで学んだことを実際に活かす現場実習があります。人権感覚を持ち、本人主体という支援の軸を外さないよう、それぞれの演習に取り組んでください。									

## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク演習(社会専門)	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	小島修・田原雄二・峯村里美		
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年次で学んだ一連の援助技術をブラッシュアップし、現場における多種多様な事例にも対応できる力を身につける。</li> <li>・具体的な事例検討やワークを通して、ミクロ・メゾ・マクロのそれぞれのレベルで求められるソーシャルワーカーの役割と実践を体得する。(上記、前期・後期を通して)</li> </ul>									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
高齢者、障害児者、地域福祉それぞれの分野でソーシャルワークの実務経験のある教員が、利用者本人を中心に据えたソーシャルワークの実践力を体得させるために、グループワークや事例検討を中心とした演習を行う。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
テキストはなし。参考図書については授業にて適宜提示する。					日頃から、福祉に関する時事問題やニュースに興味を持ち、「なぜこうなのか」を自分なりに考察する習慣を身に付ける。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ソーシャルワークとAI化				9	【授業単元】 障害者の地域移行①			
	【到達目標】 各自が現場実習で学んだことの中から、「将来AI化できそうな業務(すでにAI化されているものも含む)」を抽出する グループワークにより他者の意見も取り入れながら、ソーシャルワークとAIの両立について理解する					【到達目標】 事例を取り上げ、障害者が地域移行するにあたり弊害となっている要因や課題と考えられるものを抽出する			
2	【授業単元】 虐待事例について考える①～高齢者				10	【授業単元】 障害者の地域移行②			
	【到達目標】 近年の高齢者虐待の事例を取り上げ、事案が起こる要因や背景について考察する グループワークにより、高齢者支援のソーシャルワーカーとして虐待防止に向けて果たしうる役割について理解する					【到達目標】 グループワークにより、前回のワークで抽出された課題の解決に向け、ソーシャルワーカーとして果たしうる役割について理解する			
3	【授業単元】 虐待事例について考える②～知的障害者				11	【授業単元】 多様性について①			
	【到達目標】 近年の知的障害者への虐待の事例を取り上げ、事案が起こる要因や背景について考察する グループワークにより、障害者支援のソーシャルワーカーとして虐待防止に向けて果たしうる役割について理解する					【到達目標】 ディベートを通して物事を多面的に捉え、他者の意見を尊重しながら自分の視点を発信できる			
4	【授業単元】 虐待事例について考える③～精神障害者				12	【授業単元】 多様性について②			
	【到達目標】 近年の精神科病院での虐待の事例を取り上げ、事案が起こる要因や背景について考察する グループワークにより、精神障害者支援のソーシャルワーカーとして虐待防止に向けて果たしうる役割について理解する					【到達目標】 ディベートを通じて学んだ様々な意見を元に、当事者の置かれた環境にどのような働きかけができるかを考える			
5	【授業単元】 虐待事例について考える④～子ども				13	【授業単元】 多様性について③			
	【到達目標】 近年の保育園または学校における虐待の事例を取り上げ、事案が起こる要因や背景について考察する グループワークにより、子ども支援のソーシャルワーカーとして虐待防止に向けて果たしうる役割について理解する					【到達目標】 環境へ働きかけのため、啓発活動に取り組むことができる			
6	【授業単元】 災害時のソーシャルワーク①				14	【授業単元】 選択授業			
	【到達目標】 事例をもとに大型台風による河川氾濫を想定し、起こりうるリスクや課題を抽出する グループワークにより、個別避難計画の作成体験を行う					【到達目標】 一年間の授業の中で、学生がさらに深めたいと希望する内容を実施する 本人中心の視点を持つソーシャルワーカーとしての実践力をつけ、最終学年に向けてのモチベーション維持につなげる			
7	【授業単元】 災害時のソーシャルワーク②				15	【授業単元】 定期テスト			
	【到達目標】 グループ発表を行い、災害時にソーシャルワーカーの果たしうる役割について理解する					【到達目標】 小論文を実施する			
8	【授業単元】 非常時のソーシャルワーク～BCP(事業継続計画)				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 BCP(事業継続計画)の概要を理解する 新型コロナウイルスの蔓延により職員が勤務できなくなった場合を想定したBCPの作成体験を行う								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
3年次はこれまで学んだことを実際に活かす現場実習があります。人権感覚を持ち、本人主体という支援の軸を外さないよう、それぞれの演習に取り組んでください。									

1. レポートのテーマ内容や提出状況により評価する
2. 授業への参加姿勢、グループワーク、発表等の授業参画度により評価する

## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク実習（社会）	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	実習	単位数	4	単位	総時間数	180	時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相談援助実習を通じて、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。</li> <li>・ 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</li> <li>・ 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</li> </ul>											
<b>【学習内容】</b> （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
社会福祉士としての実務経験が3年以上かつ実習指導者講習会を修了した実習担当者が、相談援助実習担当教員の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックとスーパービジョンを行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。											
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>						<b>【授業時間外における学習】</b>					
実習要項 社会福祉士指定科目 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
<b>授業計画</b>											
<p>以下の内容について、各実習施設における実習計画書に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成</li> <li>・ 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成</li> <li>・ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成</li> <li>・ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価</li> <li>・ 多種職連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際</li> <li>・ 社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解</li> <li>・ 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際</li> <li>・ 当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発に関する理解</li> </ul>											
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>						<b>【成績評価の方法と基準】</b>					
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。					

## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク実習指導（社会）	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	社会福祉科	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	3	単位	総時間数	90	時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談援助実習の意義について理解する。</li> <li>・相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術を体得する。</li> <li>・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</li> <li>・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。</li> </ul>											
<b>【学習内容】</b> （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
社会福祉士としての実務経験が5年以上もしくは実習教員講習会を修了した教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等をおこなう。											
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>						<b>【授業時間外における学習】</b>					
実習要項 社会福祉士指定科目 各教科書						実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。					
<b>授業計画</b>											
実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義</li> <li>・ 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解</li> <li>・ 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解</li> <li>・ 現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む。）</li> <li>・ 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解</li> <li>・ 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解（個人情報保護法の理解を含む。）</li> <li>・ 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解</li> <li>・ 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成</li> <li>・ 巡回指導</li> <li>・ 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成</li> <li>・ 実習の評価全体総括会</li> </ul>											
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>						<b>【成績評価の方法と基準】</b>					
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心がまえが求められる。						実習前試験(100点満点)の結果をふまえ、A～Eの6段階で評価する。					

## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク特別演習Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	安部/伊藤/小島/田邊/野口/原田		
学科 コース	社会福祉科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
社会福祉を経済・宗教・政治・歴史・科学といった様々な観点から考察することにより、実践的かつ創造的なソーシャルワーク実践を行うための力を身につける。									
<b>【学習内容】</b> (どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
一方的な知識の伝達授業ではなく、教員-学生及び学生-学生の双方向の学びに焦点をあてた授業の展開となる。ゲストスピーカーをはじめ、関係機関の訪問、ディスカッション、プレゼンテーションを実施し学びを深め、福祉に限らない知識や視点を身につける。※各ゼミナール担当教員によって授業形式は変動する									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
各教員から適宜資料及びレジュメ等を配布する。					新聞やニュース、書籍等から自発的に情報収集し研鑽に努めること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】3年生合同 4月14日 オリエンテーション				9	【授業単元】 9月1日			
	【到達目標】					【到達目標】			
2	【授業単元】3年生合同 4月21日				10	【授業単元】 9月8日			
	【到達目標】					【到達目標】			
3	【授業単元】3年生合同 4月28日				11	【授業単元】 9月15日			
	【到達目標】					【到達目標】			
4	【授業単元】3年生合同 5月12日				12	【授業単元】 9月22日			
	【到達目標】					【到達目標】			
5	【授業単元】3年生合同 5月19日				13	【授業単元】 9月29日			
	【到達目標】					【到達目標】			
6	【授業単元】3年生合同 5月26日				14	【授業単元】 10月6日			
	【到達目標】					【到達目標】			
7	【授業単元】3年生合同 6月2日				15	【授業単元】 10月13日			
	【到達目標】					【到達目標】			
8	【授業単元】3年生合同 8月9日				<b>【成績評価の方法と基準】</b>				
	【到達目標】								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
何かが提供されるのではなく、ゼミナールでは削り上げていくことがコンセプトとなります。主体的に学びたいテーマや関心を提案していきましょう。									

## 授 業 概 要

科目名	ソーシャルワーク特別演習Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	安部/伊藤/小島/田邊/野口/原田		
学科 コース	社会福祉科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
社会福祉を経済・宗教・政治・歴史・科学といった様々な観点から考察することにより、実践的かつ創造的なソーシャルワーク実践を行うための力を身につける。									
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>									
一方的な知識の伝達授業ではなく、教員-学生及び学生-学生の双方向の学びに焦点をあてた授業の展開となる。ゲストスピーカーをはじめ、関係機関の訪問、ディスカッション、プレゼンテーションを実施し学びを深め、福祉に限らない知識や視点を身につける。※各ゼミナール担当教員によって授業形式は変動する									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
各教員から適宜資料及びレジュメ等を配布する。					新聞やニュース、書籍等から自発的に情報収集し研鑽に努めること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】3年生合同 10月20日				9	【授業単元】			
	【到達目標】					【到達目標】			
2	【授業単元】3年生合同 10月27日				10	【授業単元】			
	【到達目標】					【到達目標】			
3	【授業単元】3年生合同 11月3日				11	【授業単元】			
	【到達目標】					【到達目標】			
4	【授業単元】3年生合同 11月17日				12	【授業単元】			
	【到達目標】					【到達目標】			
5	【授業単元】3年生合同 11月24日				13	【授業単元】			
	【到達目標】					【到達目標】			
6	【授業単元】3年生合同 12月1日				14	【授業単元】			
	【到達目標】					【到達目標】			
7	【授業単元】3年生合同 12月8日				15	【授業単元】			
	【到達目標】					【到達目標】			
8	【授業単元】3年生合同 12月15日				<b>【成績評価の方法と基準】</b>				
	【到達目標】								
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
何かが提供されるのではなく、ゼミナールでは創り上げていくことがコンセプトとなります。主体的に学びたいテーマや関心を提案していきようにしていただく。									



## 授 業 概 要

科目名	社会理論と社会システム	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	内藤 博幸	
学科 コース	社会福祉科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 15 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>								
社会理論としての社会システムのしくみ、文化、規範を理解する。法が社会の中で果たす役割を述べることができる。経済と社会システムの間を関係理解する。社会変動と労働力の関係を説明できる。人口構造について我が国の特徴を理解する。都市化や過疎化など地域のあり方を概説できる。社会集団と組織を理解する。家族のあり方と機能について説明できる。生活様式とライフスタイルの変遷について考察する。人と社会との関係(役割、行為、ジレンマ)を理解する。具体的な社会問題(差別、貧困、社会的排除、ハラスメント、児童虐待、いじめなど)について解決策を提案する。								
<b>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</b>								
10年以上の社会学の教員経験を持つ教員が、福祉的視野から社会システムを理解するための授業を行う。								
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>			
「新・社会福祉士養成講座4 社会理論と社会システム」中央法規					授業を受けたその日のうちに、今一度内容を確認することが重要です。そこで、必ず疑問点が、見えてくるはずです。そして、試験前には徹底的に覚えこましましょう			
コマ	授業計画				コマ	授業計画		
1	【授業単元】 1 社会学とは                      2 社会学の発展                      3 社会システム論 P2～20				9	【授業単元】 社会的行為と社会的役割		
	【到達目標】 ・コントの三段階の法則を説明できる ・ウェーバーの方法論的個人主義を説明できる ・デュルケイムの方本論的集合主義を説明できる ・パーソンズの社会システム論を踏ることができる					【到達目標】 ・ウェーバーの社会的行為理論を説明出来る ・ゴッマンの演劇的行為論を説明出来る ・ハーバーマスのコミュニケーション的行為論を説明出来る ・ミードの役割取得の過程を説明出来る		
2	【授業単元】 1 社会階級                      2 社会移動と社会階級                      3 社会階級 P21～31				10	【授業単元】 社会集団と組織 P104～175		
	【到達目標】 ・社会階級と社会階級の違いを説明できる ・マルクスの史的唯物論を説明できる ・社会移動の種類を4点指摘できる ・日本の戦後の社会移動の特徴を述べることができる					【到達目標】 ・ゲゼルシャフトとゲマインシャフトを説明出来る ・第一次集団と第二次集団を説明出来る ・コミュニティとアソシエーションの違いが言える ・準集団の説明ができる		
3	【授業単元】 法と社会システム P32～44				11	【授業単元】 官僚制と社会的ジレンマ P170～186		
	【到達目標】 ・ウェーバーの支配の3類型を説明出来る ・ノベの方のあり方の変遷を述べることができる ・パーソンズの意志主義的行為理論を説明出来る。 ・デュルケイムとマートンのアノミーを説明出来る					【到達目標】 ・ウェーバーの支配システムを説明出来る ・マートンの官僚制批判を通じて、官僚制の弱点を指摘できる ・「共有地の悲劇」と「囚人のジレンマ」を開放できる		
4	【授業単元】 経済と社会システム P45～57				12	【授業単元】 社会関係資本と社会的連帯 P187～197		
	【到達目標】 ・簡単な経済学理論の変遷を踏ることができる ・ジニ係数と相対的貧困率を説明出来る ・大衆消費社会の特徴を述べることができる					【到達目標】 ・大衆社会の特徴を説明出来る ・権威主義的パーソナリティを説明出来る ・社会関係資本がなぜ注目されているかを解説できる		
5	【授業単元】 社会変動 P58～71				13	【授業単元】 社会問題のとりえ方 P200～210		
	【到達目標】 ・社会変動の意味を説明出来る ・情報化社会の特徴を述べることができる ・リスク社会の意味を説明出来る ・グローバリズムに関して自らの意見を述べることができる					【到達目標】 ・社会的構築主義を説明出来る ・ゴッマンのステイグマを説明出来る ・ベッカーのラベリング理論を説明出来る ・サザーランドの分化学習理論を説明出来る		
6	【授業単元】 人口からみた社会変動 P72～89				14	【授業単元】 日本社会と社会問題 P211～225		
	【到達目標】 ・リースマンの理論を述べることができる ・少子高齢化社会に関して概要を説明出来る ・人口動態の特徴を説明出来る ・高齢者の状況を説明出来る					【到達目標】 ・我が国の貧困問題に関して、解説することができる ・児童虐待について踏ることができる ・不登校の問題を解説できる ・地球温暖化対策の流れを解説できる		
7	【授業単元】 家族 P92～112				15	【授業単元】 全ての講義の総復習として振り返り授業 定期試験 60点		
	【到達目標】 ・家族の種類を3つ言える ・2種類の核家族を言える ・家族の機能を7つ言える ・パーソンズの家族内役割分業を説明出来る					【到達目標】		
8	【授業単元】 ジェンダー 中テスト15点				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			
	【到達目標】 ・ジェンダーフリーについて踏ることができる ・フェミニズム運動について説明出来る ・日本のジェンダーフリーのレベルについて踏れる							
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>								
配布プリントに解答を書き込むだけでなく、気が付いたことや理解に役立つことと思ったら、どんどんメモを取っていくことです。								

授 業 概 要

科目名	福祉行財政と福祉計画	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	吉成孝夫	
学科 コース	社会福祉科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉行財政の実施体制(国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織、及び団体、専門職の役割を含む)について理解する。</li> <li>福祉行財政の実際について理解する。</li> <li>福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。</li> </ul>								
行政や社協で計画策定などに携わった経験はないが、大学院の修士論文で特別養護老人ホームの介護保険財政について検討した経験がある。また障害者グループホームで仕事をするなかで財政と計画の重要性について痛感した経験がある。講義の中でそうした経験も共有したい。								
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】				
新・社会福祉士養成講座編集委員会『福祉行財政と福祉計画』第5版 中央法規				毎回の小テストは講義の核心問題であるので、必ず復習すること、定期試験までにはすべての小テスト問題について確実に解説できるようになってほしい				
コマ	授業計画			コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション及び社会福祉の概念(教科書第1章pp1～33)			9	【授業単元】 福祉計画の目的と意義(教科書第5章第1節～第2節pp107～117)			
	【到達目標】 ①本講座を学習する意義と到達目標及び評価法を理解し、学習の意欲が持てる ②社会福祉の概念について理解する ③日本における社会福祉制度の展開及び福祉計画の概要を理解する				【到達目標】 ①福祉計画とは何かを理解する ②日本における福祉計画の意義とその変遷を理解する ③地域福祉における福祉計画の意義を理解する			
2	【授業単元】 社会福祉基礎構造改革(教科書第1章p19、第2章p58、第4章pp82～83)			10	【授業単元】 福祉計画における市民・住民参加(教科書第6章第5節)			
	【到達目標】 ①憲法25条と措置制度の関係を理解する ②措置制度からいわゆる「基礎構造改革」に至るプロセスを理解する ③契約制度とは何かを理解し、福祉サービスの多様な利用方式を理解する				【到達目標】 ①社会福祉における住民参加とは何かを理解する ②住民(市民参加)の次元と機能を理解する ③地域福祉における住民参加の技法を理解する			
3	【授業単元】 福祉行政(教科書第3章pp36～55)			11	【授業単元】 福祉計画の理論と技法(教科書第6章pp121～162)			
	【到達目標】 福祉行政における中央政府(国)と地方政府(地方)の役割分担を理解する ②地方自治の歴史の変遷を学び、地方自治体とは何かを理解する ③福祉行財政制度における地方自治体の役割を理解する				【到達目標】 ①福祉計画の基本的視点を理解する ②福祉計画の過程と留意点を理解する ③福祉計画におけるニーズ把握と評価について理解する			
4	【授業単元】 福祉行政機関の役割と組織体制(教科書第4章pp81～105)			12	【授業単元】 福祉計画の実際①(教科書第7章第5節pp245～256)			
	【到達目標】 ①福祉事務所の組織及び役割を理解する ②児童相談所と身体及び知的障害者更生相談所の組織及び役割を理解する ③婦人相談所の組織及び役割を理解する				【到達目標】 ①社会福祉協議会の地域福祉活動計画について理解する ②社会福祉法における地域福祉計画の位置づけと内容を理解する ③市町村地域福祉計画及び都道府県地域福祉支援計画について理解する			
5	【授業単元】 地域の相談システムと専門職(教科書第4章第5節～第6節 pp96～105)			13	【授業単元】 福祉計画の実際②(教科書第7章第2節pp170～194)			
	【到達目標】 ①地域包括システム及び地域包括支援センターについて理解する。 ②児童、母子、障害者分野の相談システムと組織体制について理解する。 ③福祉事務所の現業員、査察指導員、児童福祉司、等について理解する。				【到達目標】 ①老人福祉計画の変遷を理解する ②老人福祉計画の概要を理解する ③介護保険事業計画について理解する			
6	【授業単元】 福祉財政①(教科書第3章福祉財政 第1節～第2節pp66～79)			14	【授業単元】 福祉計画の実際③(教科書第7章第3節pp195～226)			
	【到達目標】 ①財政とは何かを理解する ②一般会計予算と社会保障関係費の動向を理解する ③社会保障と税の一体改革について理解する				【到達目標】 ①障害者基本計画と障害者計画の概要を理解する ②障害福祉計画における厚生労働大臣の役割を理解する ③市町村障害福祉計画及び都道府県障害福祉計画の概要を理解する			
7	【授業単元】 福祉財政②(教科書第3章福祉財政第3節～第5節pp74～80)			15	【授業単元】 福祉計画の実際④(pp227～244)			
	【到達目標】 ①地方自治体の財政と民生費の動向を理解する ②民間食福祉事業における財源を理解する ③福祉サービスの利用と利用者負担について理解する				【到達目標】 ①子ども・子育て支援事業計画の概要を理解する ②次世代育成支援行動計画の概要を理解する			
8	【授業単元】 福祉財政③補論(教科書第3章第1節p67)			【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 ①社会保険の仕組みについて理解する ②介護保険財政の財源について理解する ③後期高齢者医療制度における財源を理解する			科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の新聞・テレビなどでの福祉行政・福祉財政の動向に敏感になる。政府統計などについては自分で確かめる位の気構えが必要です。また、何ごとにも好奇心にせず疑問を持つことが大切です。</li> </ul>								

## 授 業 概 要

科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	吉成孝夫		
学科 コース	社会福祉科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公的扶助制度の歴史及び生活保護法・生活保護制度の内容、実施体制、専門職の役割を理解する</li> <li>・低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する</li> <li>・相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度にかかわる他の法制度について理解する。</li> <li>・自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。</li> </ul>									
<p>福祉事務所などでの行政事務経験はないが、2008年12月の年越し派遣村の活動や、墨田区でボランティアとして、ホームレス支援活動に参加した経験がある。貧困や格差問題の解決は今や日本社会の最重要課題である。問題を抱える人々の視点からこれらの問題に接近する態度を共に学びたい</p>									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>					<b>【授業時間外における学習】</b>				
講座編集委員会編集『低所得者に対する支援と生活保護制度』第5版(中央法					確認問題、復習問題は知識を定着目的で作成されていますので必ず、丁寧に時間をかけて取り組んでほしい。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ・授業オリエンテーション : 公的扶助とは何か  【到達目標】 ①本講座で具体的に何を学ぶのかを理解し、学習意欲が持てるようになる ②日本及び諸外国の公的扶助制度を概観する中で、公的扶助の概念を理解する ③公的扶助制度と社会保険制度の違いを理解する				9	【授業単元】 生活保護の財源と予算(教科書第4章第8節)  【到達目標】 ①生活保護費の基本的性格を理解する ②生活保護費に関する費用を理解する ③国家予算と保護費の関係を理解する			
2	【授業単元】 貧困・低所得者問題と社会的排除(教科書第2章)  【到達目標】 ①貧困・低所得とは何か(概念定義)を生活および社会階層の観点から理解する ②貧困の定義および社会的排除に関して欧米の研究結果と貧困の実態調査を理解する ③現代における貧困・低所得者問題の諸相について理解する				10	【授業単元】 最低生活保障水準と生活保護基準(教科書第5章)  【到達目標】 ①最低生活保障水準の考え方を理解する ②生活保護基準について理解する ③最低生活および生活保護最低基準の実際を学ぶ			
3	【授業単元】 公的扶助制度の歴史①-欧米-(教科書第3章・第1節)  【到達目標】 ①イギリスを中心とした旧教養法制定の背景と内容及び社会構造上の意義について理解する ②1834年の新教養法の歴史的背景とその内容及びその影響について学ぶ ③資本主義経済体制の進展の中で、貧困問題の解決に教養法では解決できず、やがて様々な要因の下で、公的扶助が誕生、さらに現代的展開を理解する				11	【授業単元】 生活保護の動向(教科書第6章)  【到達目標】 ①被保護者の数及び被保護世帯数の最近の動向を理解する ②保護の開始及び廃止について最近の動向を理解する ③特に医療扶助・介護扶助の最近の動向について理解する			
4	【授業単元】 公的扶助制度の歴史②-日本-(教科書第3章・第2節)  【到達目標】 ①日本近代史における教養法の歴史的変遷とその内容を理解する ②第2次世界大戦後の生活保護法の制定とその内容及び意義について理解する ③近年の貧困問題の深刻化に伴う生活保護法の改正について理解する				12	【授業単元】 生活保護の運営・実施体制(教科書第6章)  【到達目標】 ①中央政府・地方自治体の役割を理解する ②福祉事務所の役割を理解する ③社会福祉主事の役割を理解する			
5	【授業単元】 公的扶助の役割と意義(教科書第1章第2節)  【到達目標】 ①社会保障体系の中の公的扶助の位置と役割を理解する ②セーフティネット機能としての公的扶助の意義を理解する ③ナショナルミニマムとしての公的扶助の意義と役割を理解する				13	【授業単元】 低所得者対策の概要①(教科書第7章第1節～第3節)  【到達目標】 ①生活困窮者自立支援法の概要とその事業について理解する ②生活福祉資金制度の成立過程とその概要について理解する ③社会手当制度の沿革および内容について理解する			
6	【授業単元】 生活保護制度の仕組み①(第4章第1節～第2節)  【到達目標】 ①生活保護法の目的を理解する ②生活保護法の基本原則を理解する ③保護の原則を理解する				14	【授業単元】 低所得者対策の概要②(教科書第7章第4節～第5節pp187～203)  【到達目標】 ①ホームレス自立支援対策の法制化プロセスとホームレス自立の内容について理解する ②公営住宅制度や民事法律扶助制度について理解する ③無料低額診療制度及び無料定額宿所その他について理解する			
7	【授業単元】 保護の種類・内容・方法及び保護施設(第4章第3節～第4節)  【到達目標】 ①生活扶助をはじめとした8種類の扶助について理解する ②生活保護における方法の意味を理解する ③保護施設の概要と種類及び主な役割を理解する				15	【授業単元】 貧困・低所得者に対する相談援助活動(教科書第9章)  【到達目標】 ①生活保護制度における相談援助活動の特徴とプロセスを理解する ②多職種との連携・協同について理解する ③相談援助活動の具体例を通して実際の援助例を理解する			
8	【授業単元】 被保護者の権利と義務(教科書第4章第5節～第7節)  【到達目標】 ①被保護者の権利と義務を理解する ②いわゆる不正受給問題についての実態を調べ、どうあるべきかを学ぶ ③裁判例を通して不服申し立て及び行政事件訴訟について理解する				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題意識をもって授業に臨まれるのが望ましい</li> <li>・貧困低所得者問題に関するテレビやニュースに関心を持ちメモを取っておくようにする。</li> </ul>									

## 授 業 概 要

科目名	権利擁護と成年後見制度	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	上本昌昭		
学科 コース	社会福祉科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b> ・成年後見人、保佐人、補助人それぞれに付与される権限の違いを説明できる。 ・法定後見と任意後見の利用手続きとその違いについて説明できる。 ・行政不服審査制度と行政事件訴訟との違いと、その違いに基づく具体的利用手続きについて説明できる。 ・消費者保護における消費者契約法と特定商取引法との違いを説明できる。									
<b>【学習内容】</b> (どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 大学などで基礎法学の教育に携わり、権利保障や紛争処理の仕組みについて研究する教員が、成年後見制度、相談援助に必要な法律の知識など、成年後見制度などを通じて要支援者の権利を擁護できる力を身につけるための授業を行う。									
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b> 社会福祉士養成講座編集委員会編(中央法規) 『新・社会福祉士養成講座19 権利擁護と成年後見制度』					<b>【授業時間外における学習】</b> 法律は表現が回りくどく理解しづらいので、言葉や表現の理解に努める。また、授業で配布された問題は復習し、確実に解答できるようになっておく。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	<b>【授業単元】</b> 科目ガイダンス／相談援助の活動と法①－憲法①－ <b>【到達目標】</b> ・なぜ権利擁護や権利救済の知識が必要なのかを理解する。 ・憲法が保障する人権の種類と関連する代表的判例を列挙できる。				9	<b>【授業単元】</b> 相談援助の活動と法③－行政法①－ <b>【到達目標】</b> ・裁量行為と司法審査の関係について理解する。 ・行政救済制度の全体像を理解する。			
2	<b>【授業単元】</b> 相談援助の活動と法②－憲法②－／成年後見制度① <b>【到達目標】</b> ・抽象的権利説および朝日訴訟と堀木訴訟の内容を説明できる。 ・「権利能力」「意思能力」「行為能力」の違いを説明できる。 ・法定後見と任意後見の相違点について対比できる。				10	<b>【授業単元】</b> 相談援助の活動と法④－行政法②－ <b>【到達目標】</b> ・審査請求とは何か説明できる。 ・不服申立前置主義による行政救済手続きの違いを説明できる。 ・行政事件訴訟の訴訟類型を説明できる。			
3	<b>【授業単元】</b> 成年後見制度② <b>【到達目標】</b> ・成年後見人、保佐人、補助人が有する権限の違いを説明できる。 ・後見人等の「事務」と「義務」の内容について説明できる。				11	<b>【授業単元】</b> 相談援助の活動と法⑤－民法①－ <b>【到達目標】</b> ・契約の成立要件について理解する。 ・各種の典型契約の特徴を列挙できる。			
4	<b>【授業単元】</b> 成年後見制度③ <b>【到達目標】</b> ・法定後見の「申立権者」について列挙できる。 ・法定後見人等の「辞任」と「解任」の各手続きについて説明できる。				12	<b>【授業単元】</b> 相談援助の活動と法⑥－民法②－ <b>【到達目標】</b> ・消費者契約法における意思表示解除の要件を列挙できる。 ・特定商取引ごとのクーリングオフ制度の特徴について説明できる。			
5	<b>【授業単元】</b> 成年後見制度④ <b>【到達目標】</b> ・任意後見が開始されるまでの手続きについて説明できる。 ・任意後見受任者、任意後見人、任意後見監督人を説明できる。				13	<b>【授業単元】</b> 相談援助の活動と法⑦－民法③－ <b>【到達目標】</b> ・不法行為責任の成立要件について説明できる。 ・債務不履行責任、不法行為責任、国家賠償責任を説明できる。			
6	<b>【授業単元】</b> 成年後見制度⑤ <b>【到達目標】</b> ・成年後見制度の今日的課題を列挙できる。 ・『成年後見関係事件の概況』の内容を知っている。 ・成年後見制度全体を復習し理解を深める。				14	<b>【授業単元】</b> 相談援助の活動と法⑧－民法④－ <b>【到達目標】</b> ・婚姻、離婚、親子関係、養子縁組などの制度を理解する。 ・扶養義務の範囲と強度の違いを理解する。 ・遺産の法定相続分を計算できる。			
7	<b>【授業単元】</b> 日常生活自立支援事業と成年後見制度利用支援事業 <b>【到達目標】</b> ・日常生活自立支援事業の利用手続きと事業内容を説明できる。 ・日常生活自立支援事業と成年後見制度の異同を説明できる。 ・成年後見制度利用支援事業の内容を説明できる。				15	<b>【授業単元】</b> 定期試験 <b>【到達目標】</b> ・知識が不足している部分、自分が弱い事項を確認する。			
8	<b>【授業単元】</b> 権利擁護にかかわる組織や団体および専門職の役割 <b>【到達目標】</b> ・家事調停の対象となる家事審判事項を判別できる。 ・調停前置主義の対象となる事項を列挙できる。				<b>【成績評価の方法と基準】</b> 評価は、筆記試験で行う。筆記試験は、授業内で扱った内容の理解や定着を確認するもので、5肢択一式30問からなる。内容およびレベルは国家試験に準ずる。また、授業終了時に5点満点の小テストを実施する(第8回のみは15点満点)。成績は、小テストの合計点を2で除した点数(40点満点)と定期試験(60点満点)を合算した100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。				
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b> 毎回の授業では、ノートはしっかりととり、また、配布したプリントは整理して、後から見直せるようにしておくこと。分からないところは放置せず、理解することを諦めない。									

# 授 業 概 要

科目名	精神保健福祉援助実習指導	必修 選択の別	必修	開講 区分 授業の 方法	前・後期	担当 教員	学科教員				
							単位数	3	単位	総時間数	90
学科 コース	社会福祉科	学年	4年		演習	単位数	3	単位	総時間数	90	時間
【授業を通じての到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神保健福祉援助実習の意義について理解する。</li> <li>・精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。</li> <li>・精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。</li> <li>・精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</li> <li>・具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。</li> </ul>											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
精神保健福祉士としての実務経験が5年以上もしくは実習教員講習会を修了した教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等をおこなう。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項 精神保健福祉士指定科目 各教科書						実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。					
授業計画											
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】											
実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神保健福祉援助実習と精神保健福祉援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義</li> <li>・精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む）に関する基本的な理解</li> <li>・実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解</li> <li>・現場体験学習及び見学実習</li> <li>・実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解</li> <li>・精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解</li> <li>・実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む）</li> <li>・「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解</li> <li>・実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成</li> <li>・巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）</li> <li>・実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成</li> <li>・実習の評価全体総括会</li> </ul>											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心がまえが求められる。						実習前試験の結果をふまえ、A～Eの6段階で評価する。					

## 授 業 概 要

科目名	精神保健福祉援助実習	必修 選択の別	必修	開講 区分	前・後期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	社会福祉科	学年	4年	授業の 方法	実習	単位数	5	単位	総時間数	210	時間
<b>【授業を通じての到達目標】</b>											
<p>・精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。・精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。・精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。・総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</p>											
<b>【学習内容】</b> （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
精神保健福祉士としての実務経験が3年以上かつ実習指導者講習会を修了した実習担当者が、相談援助実習担当教員の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックとスーパービジョンを行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。											
<b>【使用教科書・教材・参考図書】</b>						<b>【授業時間外における学習】</b>					
実習要項 精神保健福祉士指定科目 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
<b>授業計画</b>											
以下の内容について、各実習施設における実習計画書に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。											
1. 精神科病院等の病院											
患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助</li> <li>・退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助</li> <li>・多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助</li> </ul>											
2. 精神科診療所											
患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・治療中の患者及びその家族への相談援助</li> <li>・日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助</li> <li>・地域の精神科病院や関係機関との連携を通じた援助</li> </ul>											
3. 地域の障害福祉サービス事業を行う施設等・精神科病院等の医療機関											
次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成</li> <li>・利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成</li> <li>・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成</li> <li>・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワーメントを含む。）とその評価</li> <li>・精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際</li> <li>・精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解</li> <li>・施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解</li> <li>・施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際</li> </ul>											
<b>【履修に当たっての心構え・留意点】</b>						<b>【成績評価の方法と基準】</b>					
ソーシャルワーカーとしてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。					

## 授 業 概 要

科目名	社会調査の基礎	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	福田真清		
学科 コース	社会福祉科	学年	4年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会調査の意義と目的、方法の概要を理解する。</li> <li>・統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。</li> <li>・量的調査と質的調査の方法、ITを活用した社会調査の方法を理解する。</li> </ul>									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
<p>障害当事者やその家族を対象にした調査研究や福祉サービス事業所における管理者等で培った知識と経験を活用し、国家試験はもとより、実践現場でも応用可能な知識が習得できるよう、体系的なスモールステップで進めていく。</p> <p>なお、確実な知識の習得を目指すため、第5回、第9回、第14回で習得度テストを行う。</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
社会福祉士養成講座編纂委員会編(2013)『社会調査の基礎 第3版』中央法規					テキストと授業で配布するレジュメの復習を勧める。本科目の受講にあたっては各授業に1時間の自宅学習(予習・復習等)を必要とする。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション、社会調査の種類  【到達目標】 ・社会調査の種類 が説明できる。				9	【授業単元】 振り返り・習得度テスト(量的調査)  【到達目標】 量的調査に関する基礎的知識の定着を図る。			
2	【授業単元】 社会調査の展開、統計法  【到達目標】 ・ソーシャルワーカーが社会調査に取り組む意義 ・統計法の5つのポイント が説明できる。				10	【授業単元】 質的調査の意義と目的  【到達目標】 ・質的調査の特徴と量的調査との違い が説明できる。			
3	【授業単元】 社会調査の倫理と個人情報保護  【到達目標】 ・社会調査における倫理的配慮 ・OECD8原則と個人情報保護法のポイント が説明できる。				11	【授業単元】 質的調査方法論の主なアプローチ  【到達目標】 ・対象者の選定 ・質的調査の方法 が説明できる。			
4	【授業単元】 社会調査のデザイン  【到達目標】 ・「演繹的」「帰納的」の違い ・量的調査の種類 が説明できる。				12	【授業単元】 質的データの整理と分析  【到達目標】 ・データ分析のための基礎的作業の手順 ・データの分析方法の特徴 が説明できる。			
5	【授業単元】 振り返り・習得度テスト(社会調査の基礎的知識)  【到達目標】 ・社会調査に関する基礎的知識の定着を図る。				13	【授業単元】 プログラム評価、実践評価  【到達目標】 ・プログラム評価の種類 ・シングル・システム・デザインに基づく評価方法 が説明できる。			
6	【授業単元】 対象者の選定、測定  【到達目標】 ・対象者の選定 ・尺度4種類の特徴 が説明できる。				14	【授業単元】 振り返り・習得度テスト(質的調査)  【到達目標】 質的調査、ソーシャルワークにおける評価に関する基礎的知識の定着を図る。			
7	【授業単元】 データの収集方法  【到達目標】 ・質問紙の配布と回収の方法 ・質問紙を作成するときの留意点 が説明できる。				15	【授業単元】 社会調査の展望、試験  【到達目標】 ・新しい調査手法 が説明できる。			
8	【授業単元】 量的データの整理と分析  【到達目標】 ・データ分析のための基礎的作業の手順 ・データの視覚化 ・基本的な検定方法の種類と特徴 が説明できる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、習得度テスト(ほかの科目の中テストにあたり、第5、9、14回目の授業で実施)は各回5点満点・計15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
それぞれの授業は連関し合っているため、わからない部分はそのままにせず、次の授業までに必ず消化しておくこと。									

## 授 業 概 要

科目名	精神保健福祉援助演習(専門)Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	宮路雄大 原田悟史		
学科 コース	社会福祉科	学年	4年	授業 形態	演習	総単位数	単位	総時間数	8 時間
【授業を通じての到達目標】									
精神保健福祉士が、ソーシャルワークの現場で求められる基礎的な援助技法、知識について、演習形式で学び理解を深め、身につける。									
【学習内容】									
精神保健福祉士が求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について、実践的に習得する。担当講師は、精神保健福祉士として、認知症専門病院、単科精神科病院に勤務歴がある。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
ソーシャルワーク演習(中央法規) 適宜、レジュメを配布					授業後に課題を提示する。教科書、レジュメ、インターネットなどを用いて調べてほしい。次回の授業の際に確認する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 精神保健福祉援助演習の意義				9	【授業単元】			
	【到達目標】 ・演習科目の意義、ねらいを理解する。 ・講師の現場経験を通して、自分自身のキャリアについて考察する。 ・精神保健福祉士が求められる役割を列挙し、説明できる。					【到達目標】			
2	【授業単元】 精神保健福祉士の実践における原理原則				10	【授業単元】			
	【到達目標】 ・精神保健福祉士が常に念頭に置くべき、自己決定の尊重について、日本の精神科医療の歴史、Y問題などから考察する。 ・Y問題について、精神保健福祉士の立場に立ち意見交換を行う。					【到達目標】			
3	【授業単元】 インテーク(予診)				11	【授業単元】			
	【到達目標】 ・インテーク面接の目的、役割、精神保健福祉士の姿勢、情報収集について学ぶ。・ロールプレイ形式で、実際に現場で使用するインテーク用紙を用いて面接を体験する。					【到達目標】			
4	【授業単元】 中テスト				12	【授業単元】			
	【到達目標】 1～3回目の授業を振り返り、中テストを記述式、選択式で行う。知識の定着と理解度を図る。					【到達目標】			
5	【授業単元】 精神科病院からの地域移行支援と福祉サービスの利用				13	【授業単元】			
	【到達目標】 ・精神科病院に長期入院している患者の心理、退院の意欲に思いを馳せて、支援者として、退院に消極的な患者にどのようにアプローチをして、退院支援に取り組むか考察する。					【到達目標】			
6	【授業単元】 アルコール依存症の支援				14	【授業単元】			
	【到達目標】 ・精神保健福祉士として、アルコール依存症者の支援をどのように展開するのか学ぶ。自助グループの役割、期待する効果などを説明できるようになる。・アルコール依存症者の家族心理、介入方法について学ぶ。					【到達目標】			
7	【授業単元】 精神保健福祉士の実践力の獲得				15	【授業単元】			
	【到達目標】 ・1～6回目の授業を振り返る。 ・精神保健福祉士の専門性、求められる力を説明できるようになる。自身のキャリアデザインを行う。					【到達目標】			
8	【授業単元】 期末テスト				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。  ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 1～7回目の授業を振り返り、期末テストを実施。選択式、記述式で行う。今までの知識の定着、理解度を確認する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
グループワーク、ロールプレイでは、積極的な姿勢を期待する。授業で発生した不明な点は、教員に質問する。									